

授業力向上のための校内研修に関する調査・研究  
～いま、中学校が動き出すとき～

平成 2 1 年 3 月

高知県教育センター

## 目 次

1	調査・研究の位置付け、経緯	1
2	授業力向上のための校内研修に関する調査研究実施要項	3
3	平成19年度の取組（中間報告書より）	
(1)	概要	4
(2)	校内研修の実施日程	5
(3)	成果と課題	6
4	平成20年度の取組	
(1)	2年目のスタートにあたって	8
(2)	研究構想	9
(3)	研究の経緯	10
	① 概要	
	② 第1回校内研修（授業研究）	
	③ 第2回校内研修（授業研究）	
	④ 第3回校内研修（授業研究）	
	⑤ 第4回校内研修（授業研究）	
	⑥ 第5回校内研修（授業研究）	
	⑦ 授業づくり部会での提案（教育センター）	
	⑧ アンケート集計結果・考察	
	⑨ プロジェクトチーム会の取組	
5	総括	
(1)	須崎市教育委員会	69
(2)	須崎市立須崎中学校	71
(3)	高知県教育センター	74
☆	資料（平成20年度）	
(1)	学習指導案・授業振り返りシートの様式例	
(2)	「つなぐ」を意識した授業づくりの具体化に向けて	
(3)	アンケート様式（教員用・生徒用）	
(4)	生徒用学年別アンケート結果	
(5)	8月講義・演習資料	

## ☆ おわりに

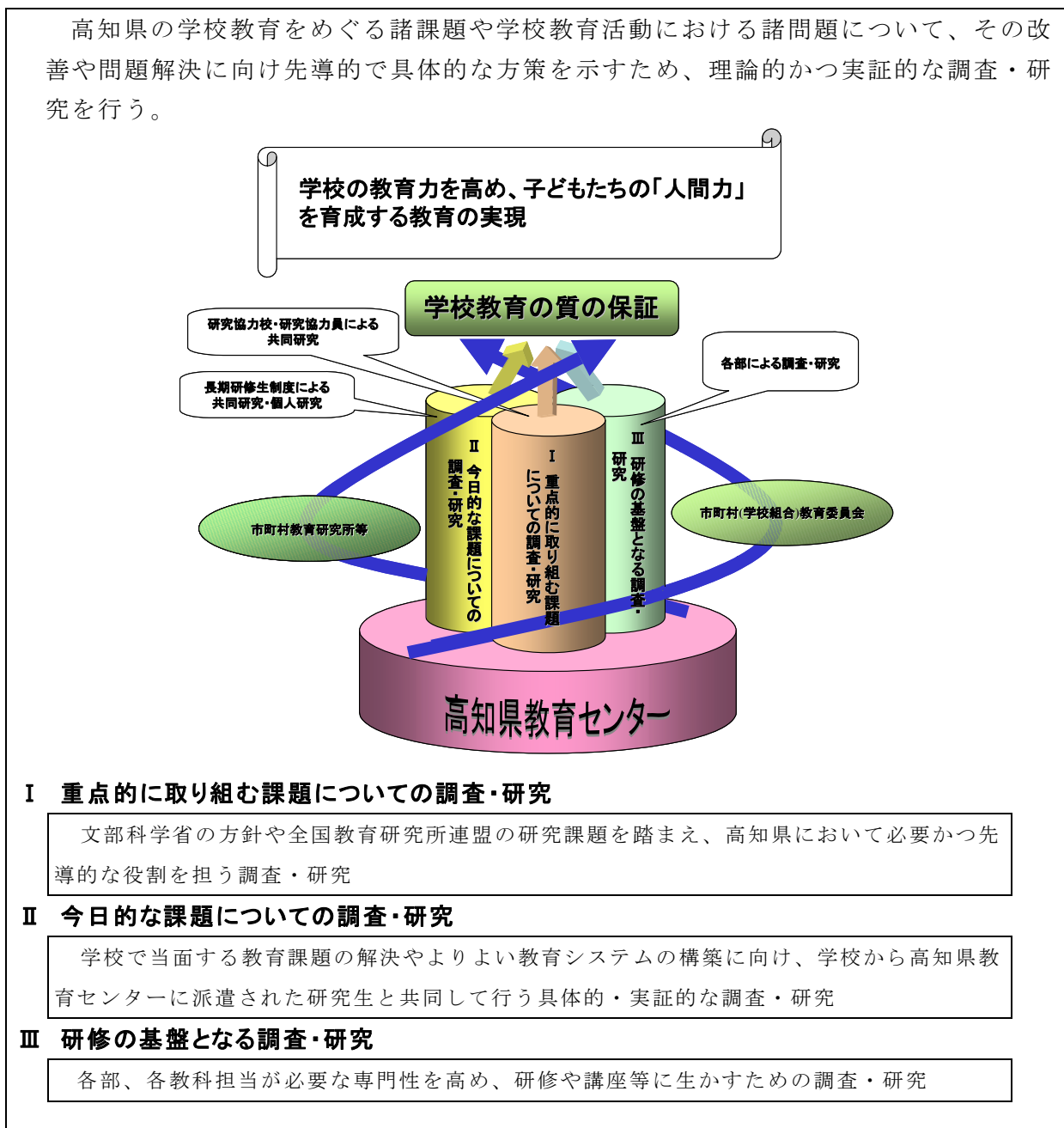


# 1 調査・研究の位置付け、経緯

高知県教育センターでは、「高知県の学校教育をめぐる諸問題や学校教育活動における諸問題について、その改善や問題解決に向け先進的で具体的な方策を示すため、理論的かつ実証的な調査研究を行う」ことを調査・研究の方針として掲げ、「学校の教育力を高め、子どもたちの『人間力』を育成する教育を実現する」ために、種々の調査・研究に取り組んでいる。

図1は、市町村教育委員会、市町村教育研究所を巻き込んで進めていく、そのイメージ図を示したものである。

〈図1〉高知県教育センター調査・研究の方針（高知県教育センター要覧から抜粋）



平成 18 年度後期に「平成 19 年度高知県教育センター研究プログラム作成委員会」を立ち上げ、教職研修部長のもと検討を重ねてきた。平成 19 年度には「重点的に取り組むべき課題についての調査研究」の一つとして「授業力向上のための校内研修に関する調査・研究」を立ち上げ、チーフを含め 6 名による新たなプロジェクトチームを編成し、取り組んでいる。

折しも平成 19 年度は、「土佐の教育改革 10 年」の節目の年度であり、その検証と総括から成果と課題、今後の方針が提言された。残された課題がいくつか挙げられているなかの、「子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上」における「中学校の授業の在り方」、また、「教職員の資質・指導力の向上」における「校内研修の取組の較差」の二点に着目し、まさにこの課題の解決に向けて支援をすることが、教育センターとしての大きな役割であると考えた。

学校が抱える目の前の課題は、広く、深く、多岐に渡って存在するわけであるが、教育センターとして支援できる部分を「授業力の改善」と位置付け、

- (1) 授業の工夫・改善に焦点をあて、校内研修の内容を検討する
- (2) 校内研修の実践をもとに、効果的な校内研修の在り方をさぐる

を研究内容の中心に据え、研究協力校を須崎市立須崎中学校と決定し、協力校を管轄する須崎市教育委員会及び須崎市教育研究所と連携を図りながら、平成 19 年度から 2 年間の計画で取り組むこととした。

## 2 授業力向上のための校内研修に関する調査・研究実施要項

- 1 趣 旨 研究協力校と高知県教育センターとが共同で、教職員の指導力向上を支える校内研修の在り方について調査・研究を行う。
- 2 主 催 高知県教育センター
- 3 研究期間 平成19年4月1日～平成21年3月31日
- 4 研究内容
- (1) 授業の工夫・改善に焦点をあて、校内研修の内容を検討する。
  - (2) 校内研修の実践をもとに、効果的な校内研修の在り方をさぐる。
- 5 研究方法
- (1) 高知県教育センターは、研究協力校の校内研修への支援を行う。
  - (2) 高知県教育センターは、指導力向上のための指導・助言を行う。
  - (3) 研究協力校と高知県教育センターは、校内研修についての実施内容の概要及び工夫・改善点、研究全般にわたる調査研究の成果などを報告書にとりまとめる。

### 6 研究計画(案)

平成19年度	平成20年度
1 学期：研究の方向性について確認 ①課題の分析 ②研究の方向付け ③授業づくり ④授業評価システム ⑤授業研修の実施 ⑥実践的指導力	1 学期：年間研修計画の作成と実施 ①授業研修の実施 ②外部評価 ③授業づくり
2 学期：実践的研究の充実 ⑦授業評価の精度 (授業研修の実施) 授業評価の分析 ⑧中間発表	2 学期：実践的研究の充実 ④授業研修の実施
3 学期：まとめ ⑨年間指導計画  ・成果物(授業評価票など)の公表 ・年間のまとめ	3 学期：まとめ ⑤授業評価システム ⑥外部評価について分析  ・成果物の公表 ・2年間のまとめ

7 研究協力校 須崎市立須崎中学校

8 備 考 須崎市教育委員会・須崎市教育研究所と連携して研究を推進する。

### 3 平成 19 年度の取組(中間報告書より)

#### (1) 概要

今年度の具体的な取組としては、生徒・教職員を対象としたアンケートを 2 回、また、全校研修 4 回、グループ研修 11 回を実施した。校内研修だけでも 15 回、述べ 29 名の指導主事等が関わっている。また、本調査・研究に関する直接の打合せ会を学校、教育委員会等と併せて計 8 回もった。そのためには、教育センター内でのプロジェクトチームの会は、公式でも 20 回程度を重ねている。

公開授業の第 1 回目、数学の全校研修では、意見が活発に出るような研究協議を仕組んでほしいという学校からの申し出を受け、ディベートの手法を取り入れて実施した。授業を参観しながら、黄色の付箋紙に良い点、青色に改善点を、1 枚に 1 項目ずつ書いてもらい、その付箋紙を、授業の時系列に沿って黒板に貼る。それを各グループで整理するところから始めた。

また、第 2 回目の全校研修は、企画から実施まで全面的に教育センターが担当し、学校組織マネジメントを意識しての研修を実施した。当初、準備はこちらで整えるので、協働で運営したいと申し出たが、日程上無理があるということで、断念した経緯がある。

「授業力向上に向けて、よりよい組織づくりを進めるために必要なスキルと一人一人を支えるための組織の在り方を考える」をねらいとして設定した。5 月に実施したアンケートの集計結果を分析して、須崎中学校の強みと弱みとを明確に浮かび上がらせ、強みを伸ばし、弱みの原因を分析することから改善策「今日からできる具体的な取組」を考え、「結果を子どもに返していく」という内容で、各学年団に、管理職グループを第 4 学年とした 4 グループ編成で演習・協議を行った。

KJ 法を用いて課題の分類、グルーピング化、最大課題の抽出、その因子の掘り下げ、そして改善策を考えるというものである。時間の都合で、因子の掘り下げは 2 回しか重ねられなかったが、それぞれに個人演習、グループ演習を繰り返し、最後は、代表者による発表を行った。その際、「今日からできる取組」を大きな付箋紙に記載し、宣言してもらった。その付箋紙は、職員室の目に付く場所に貼付していると、後日伺っている。

午前中の協議を、午後の職員会、学年会等につなげるという意味でも、意義ある校内研修になったと捉えている。

2 回目は、研修直後に振り返りシートへの記載も求めており、先生方の思いを直接に窺い知ることができた。いずれも活発な意見が交換され、研究協議の活性化にはつながったと受け止めている。ただ、出される意見の深まり具合やその場で決定された実行策の実施具合、その後の変容の確認等、課題は残されている。

グループ研修と名づけられた授業研修にも、できるだけ教科の専門の指導主事が複数名参加した。複数による視点、校種・教科を超えての視点が、授業改善に有益であると考えるのである。プロジェクトチーム 6 名以外の者も入っており、まさに教育センター全体をあげて調査・研究に関わっていると言える。

次に、授業研修の実施日程を挙げる。

(2) 校内研修の実施日程

○全校研修

研究授業：年3回、各学年が1回実施、授業5時間目、研究協議6時間目

全教員参加、授業終了後に研究協議

学校組織マネジメント：1回

	日 程	学年、教科、授業内容等	教育センター担当
1	6月20日(水)	3年2組 数学 因数分解	4名 ※研究協議を担当
2	8月27日(月)	学校組織マネジメント 第1回アンケートに関して	4名 ※すべて担当
3	10月17日(水)	1年1組 保健体育 陸上	1名
4	2月20日(水)	2年2組 道徳	3名

○グループ研修

研究授業：年11回、全校研修を含め全教員が1回実施

授業は平常の時間割の枠内、授業終了後に研究協議

グループ分け：国・英(4名) 社(2名) 数・理(4名) 保健体育(3名)

技 能(3名)

	日 程	学年、教科、授業内容等	教育センター担当
1	当初の日程(5月11日)を延期し、校内で実施	2年1組 家庭科 食品添加物	
2	6月29日(金) 9:45~	2年1組 英語 未来形	3名
3	7月12日(木) 10:45~	3年1・2組女子 保健体育 水泳	2名
4	10月9日(火) 14:20~	2年1組 理科 感覚と運動のしくみ	2名
5	10月12日(金) 8:45~	1年2組 美術	2名
6	10月18日(木) 9:35~	2年1組 国語 古典	2名
7	10月18日(木) 10:35~	3年1組 保健体育 陸上競技	1名
8	10月23日(火) 9:35~	3年1組 国語 古典	1名
9	11月2日(金) 9:45~	2年2組 社会(歴史的分野)	1名
10	12月13日(木) 9:45~	2年2組 数学 合同な図形	1名
11	3月3日(月) 9:30~	1年2組 社会(地理的分野)	2名
12	未実施	1年生 数学 平面図形	

### (3) 成果と課題

今年度の取組を振り返ると、成果を二点、課題を一点に絞ることができる。

まず、最も大きな成果は、全教員が授業を公開したことである。

閉じられた状態の授業を外部に開くという視点を持ったことや、学校側が当初は実施しないとしていた事後の研究協議を、結局はすべての研究授業でもつことができた。

教職員は、日々の校務に多忙感、疲弊感を感じている。そのうえに、「調査・研究」と冠された取組が加わったのである。たとえ、必要で意義ある取組であると分かっているにもかかわらず、さらなる負担を感じたことは容易に想像できる。それでも、学校側は、状況に応じて対応していくことのできる柔軟な姿勢も示してくれた。こういった変化や姿勢は、何らかのかたちで授業改善への意識につながっていると考えたいところである。第2回目のアンケートの記述にもそのことを回答してくれている方がいた。

二点目として、アンケート結果も含めて、学校、教職員の実態が把握できたということをも成果ととらえている。

「よりよい授業をしたい、学力を伸ばしたい」という思いのもと、日々工夫して取り組んでいることは、どの学校、どの教職員にも共通しているはずだが、それでも実現できていないという実態の一つを知ることにつながった。

肝心の「授業力向上」という目的に関しては、大きな成果が見えていない。アンケートの集計結果からは、むしろ、マイナスの変容と思われる部分も見えてくる。特に、生徒のアンケートからは数値の伸びた項目が見られず、学校教育のエンドユーザーである生徒にまで「授業改善」が届いていない結果となった。が、そのことも含めて実態把握ができたことを、成果と考えている。

「土佐の教育改革10年」のまとめでの課題が、全国学力・学習状況調査の結果で再浮上し、全県的に中学校の組織の見直し、授業の改善などが叫ばれる前に、具体的に調査・研究に踏み込んだ点は、次年度への提示も含めて意義ある取組になったと考えている。

課題は、「授業改善」の一言に尽きる。が、実態把握をもとに具体的な課題が見えてきたので、それを次年度の具体的な取組に生かしていくことができる。「授業改善」のなかでも、「生徒理解」や「授業をつくる・みる視点を絞る」など焦点化を図って取り組むことを考えている。

例えば、「授業改善」の核に「生徒理解」を据えることである。

アンケート結果からは「生徒理解」の項目で課題が浮かび上がっているため、教員と生徒とのコミュニケーションの在り方については、今後の工夫改善が不可欠である。人権尊重や「つなぐ」が学校の経営ビジョンの中心であること、訪問の度に生徒の語彙力・言葉遣いの改善が課題であるとの話題が出されることを考え合わせると、教員の言葉遣いや声掛けを意識して改善していくことで、生徒への波及効果までが期待できる。支持的・命令的な口調や乱暴な表現をしない、相応な場面で肯定的評価を返していく等である。校内研修にこれらの視点を明確に盛り込むことが大切になってくる。

今年度の成果の一つであった「授業公開」も、課題部分を改善して進めていく。学習指導案の作成は、事後の研究協議を効果的に行うためにも不可欠であると考えられる。様式・形式にこだわるものではなく、生徒のためにどのような視点でどのような授業を仕組ん



だかが分かるもの、そして、授業力を向上するに当たって、本時はここを見てほしいというポイントを押さえたものを作成する。事前に、グループ、あるいは教育センターの担当者も加わって検討、作成することができれば理想的である。

授業研究の持ち方の一つとして、教員による模擬授業も提案する。第1回打合せ会では、外部講師による模擬授業（モデル授業）の実施も計画に入れることを、具体的な講師の紹介とともに提案したが、実現しなかった経緯がある。そこで次年度は、全校研修で実施することを提案する。全員（学年団等のグループ）で学習指導案を作成し、そのメンバーの一人が授業を行う。生徒は全教職員である。協働して実施することにまず大きな意味がある。また、教員の言葉遣いをはじめ、発問や問いかけ、授業の展開や進度等を、生徒・教職員両方の視点で見ることでも良さも改善点も明確に見えてくるはずである。

教育センターとしては、学校との距離を縮め、学校にどのような支援ができるのかを常に考えている。学校側の自主的な意識の醸成を待つとともに、今年度の結果を示して鼓舞するよう働きかけもしていく。できるだけ具体的な取組も提示して、協議し、工夫改善を重ねる。そして、「成果」という結果を出していくように努めたい。

平成19年度 第1回と第2回アンケートの集計(生徒・教員)

第1回 5月実施 第2回 2月実施  
授業力向上のための校内研修に関する調査・研究に係るアンケート調査用紙

わかる楽しい授業に向けての集計結果(4件法)  
生徒数162名

番号	項目	2回目平均	1回目平均
使命感、熱意、感性	1 授業改善を目指し、取り組んでいる。	3.1	3.0
	2 学習のねらいを生徒に達成させようとしている。	3.0	3.0
	3 教材研究を行った授業に臨んでいる。	2.6	2.8
	4 ものごとに対する幅広い関心を持っている。	2.5	2.8
	5 心と体の調子を整えて授業を行っている。	2.7	2.6
	6 明るく前向きに生徒に接している。	3.2	3.1
	7 学習にふさわしい環境づくりを心がけている。	3.2	3.0
生徒理解	8 生徒一人一人の学習意欲を把握している。	2.7	2.8
	9 生徒一人一人の本時の学習の達成状況を把握しようとしている。	3.0	2.9
	10 生徒一人一人のこれまでの学習状況を把握している。	2.5	2.7
	11 生徒一人一人の発達段階、友達関係、家庭状況等を把握している。	2.8	2.7
	12 生徒一人一人に気を配り、言葉かけをしている。	3.1	2.9
	13 生徒の発言や行動を受け止めている。	3.2	3.2
	14 生徒の反応や姿勢に気付き、授業に生かしている。	2.8	2.9
統率力	15 学習意欲を高めることを意識して声かけをしている。	2.9	3.1
	16 基本的な授業規律を定着させている。	2.9	3.0
	17 的確な指示を出して集団を動かしている。	2.9	2.9
	18 学習のねらいを明確にし、学習に見通しをもたせている。	2.8	2.6
	19 学習状況に応じて適時的な判断を行っている。	2.7	2.9
	20 生徒に学習の準備についての確に指示している。	3.0	3.2
	21 学習のねらいを生徒に明確に示している。	3.2	2.9
指導技術	22 個に応じた指導を行っている。	2.5	2.8
	23 生徒の主体的な学習を促す工夫を行っている。	2.8	2.4
	24 教材・教具を効果的に活用している。	2.7	2.6
	25 発問の工夫をしている。	2.8	2.6
	26 生徒の反応を生かしながら授業を構成している。	2.8	2.9
	27 分かりやすい説明をしている。	2.8	2.9
	28 効果的な板書をしている。	2.8	2.9
	29 授業のまとめを工夫している。	2.8	2.6
	30 教科等の専門的知識を深めている。	2.5	2.8
	31 日頃から教材に関連する幅広い情報を収集している。	2.5	2.6
教材解釈、教材開発	32 学習のねらいを明確に把握して教材解釈や教材開発をしている。	2.3	2.6
	33 生徒の実態を考慮して教材解釈や教材開発をしている。	2.5	2.8
	34 学校・地域の特色を考慮して教材解釈や教材開発をしている。	1.8	2.2
	35 生活との関連を意識して教材解釈や教材開発をしている。	2.0	2.6
	36 生徒に興味・関心をもたせるための教材解釈や教材開発をしている。	2.4	2.6
	37 時数、活動内容、学習形態等の指導計画を立てている。	2.3	2.7
	38 評価する場面や方法を明確にした計画を立てている。	2.2	2.7
	39 計画を立てる際に生徒の実態を考慮している。	2.9	3.0
	40 計画に基づき、生徒の評価を行っている。	2.9	3.1
	41 指導計画が適切であったかを振り返っている。	2.1	2.5
42 評価計画が適切であったかを振り返っている。	2.2	2.3	
43 振り返りを基に、問題点を明確にして次の計画に生かしている。	2.6	2.6	

2回目平均	1回目平均	番号	項目
2.7	3.0	1	先生は、わかりやすい授業にしようとして工夫している。
2.9	3.1	2	先生は、生徒の力を伸ばそうと努力している。
2.7	2.8	3	先生は、わかりやすい授業をするための準備をしている。
2.6	2.9	4	先生は、私たちがいるいろいろなことに関心をもてる話をしてくれる。
2.8	3.0	5	先生は、いつも元気に授業を行っている。
2.8	2.9	6	先生は、明るく前向きに接している。
2.7	2.7	7	先生は、服装や言葉づかいに気をつけている。
2.8	2.8	8	先生は、机の整とんやごみ拾いなど教室の美化を心がけている。
2.5	2.5	9	先生は、生徒一人一人のがんばる気持ちを知っている。
2.3	2.4	10	先生は、毎時間の授業で身に付いたあなたの力を知らうとしている。
2.4	2.5	11	先生は、あなたの力の伸びを知ろうとしている。
2.3	2.4	12	先生は、あなたがこれまでどのように学習してきたかを知っている。
2.3	2.4	13	先生は、あなたの友だちのことで学校以外のこともよく理解してくれている。
2.5	2.4	14	先生は、あなたを気にかけて言葉をかけてくれる。
2.5	2.6	15	先生は、あなたの発言や行動を受け止めてくれる。
2.7	2.8	16	先生は、生徒の反応や発言を生かして授業を進めている。
2.3	2.3	17	先生は、あなたがもっと学習したくなるような声かけをしてくれる。
2.7	2.8	18	先生は、基本的な学習ルールを定着させるよう努力している。
2.7	2.9	19	先生は、学級のみながまとまるようしている。
2.5	2.7	20	先生は、授業のはじめに何の学習をするかを示し、学習に見通しをもたせている。
2.6	2.8	21	先生は、学習状況に応じてうまく授業を進めている。
2.6	2.7	22	先生は、学習の準備についてわかりやすく指示してくれる。
2.6	2.9	23	先生は、忘れ物をした生徒に適切な指示をしている。
2.6	2.8	24	先生は、あなたがわかるように教えてくれる。
2.3	2.4	25	先生は、あなたが積極的に考えたり発表したりするよう授業をしている。
2.9	2.9	26	先生は、教科書以外のものも使って授業をする。
2.6	2.7	27	先生は、わかりやすい問いかけをしている。
2.7	2.7	28	先生は、生徒の発言や反応を大切にしながら授業を進めている。
2.7	2.8	29	先生は、わかりやすい説明をしている。
2.8	2.9	30	先生は、見やすくわかりやすい板書をしている。
2.5	2.7	31	先生は、授業の終わりに学習した内容をじょうずにまとめてくれる。
2.3	2.4	32	先生は、一年間の学習計画を示している。
2.4	2.4	33	先生は、授業に対するあなたの意見を聞いてくれる。

## 4 平成 20 年度の取組

### (1) 2 年目のスタートにあたって

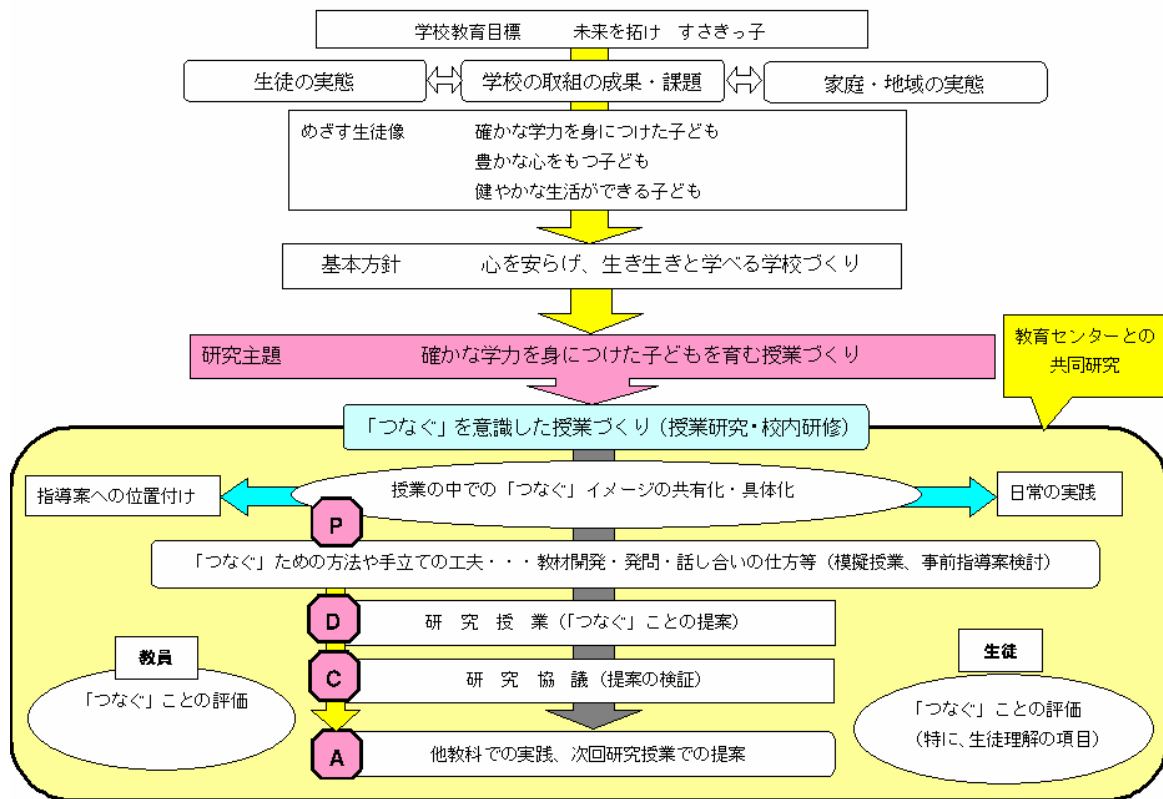
1 年目の取組を振り返ると、様々な成果は見られたものの、学校と教育センター及び教育研究所、それぞれの連携がうまく繋がっていなかったように思われた。そこで、2 年目の取組を進めるにあたり、「密な連携」と「共通理解」をキーワードに位置付けることを所内のプロジェクトチームで確認した。

そこで、4 月当初に須崎市教育委員会と校長と打ち合わせを行い、基本方針と研究主題を確認した。学校から、研究主題にせまる「つなぐの視点」を持った授業づくりに3 つの観点を盛り込んだ授業にしたいと提案がなされた。その3 つは、「生徒と教師がつながる」「生徒どうしをつなぐ」「生徒と教材をつなぐ」である。

そして、4 月に教育センターが須崎中学校の職員会に入り、教育センターと須崎中学校が同じベクトルで課題解決に当たっていこうという意識を共有することができた。そこで、教育センターが提案したことは次の2 点である。1 点目は、研究協議の深まりのために「つなぐの視点」を学習指導案に記述すること。2 点目は、研究授業の前に、学習指導案を検討するために事前検討会を実施することである。また、教育センターが学習指導案の形式と「つなぐ」を意識した授業づくりの具体像を提示した。

このような確認のもと、校内研修がスタートした。この調査研究のための校内研修は、年6 回計画した。すべて授業研究である。教育センターとしては、平成 19 年度の課題を受け、「授業改善に全校で組織的に取り組むこと」、「授業後の研究協議の活性化に取り組むこと」の2 点を中心に進めることにした。

(2) 研究構想



上の図は、須崎中学校の4月の職員会で教育センターが平成20年度の研究構想として提示したものである。

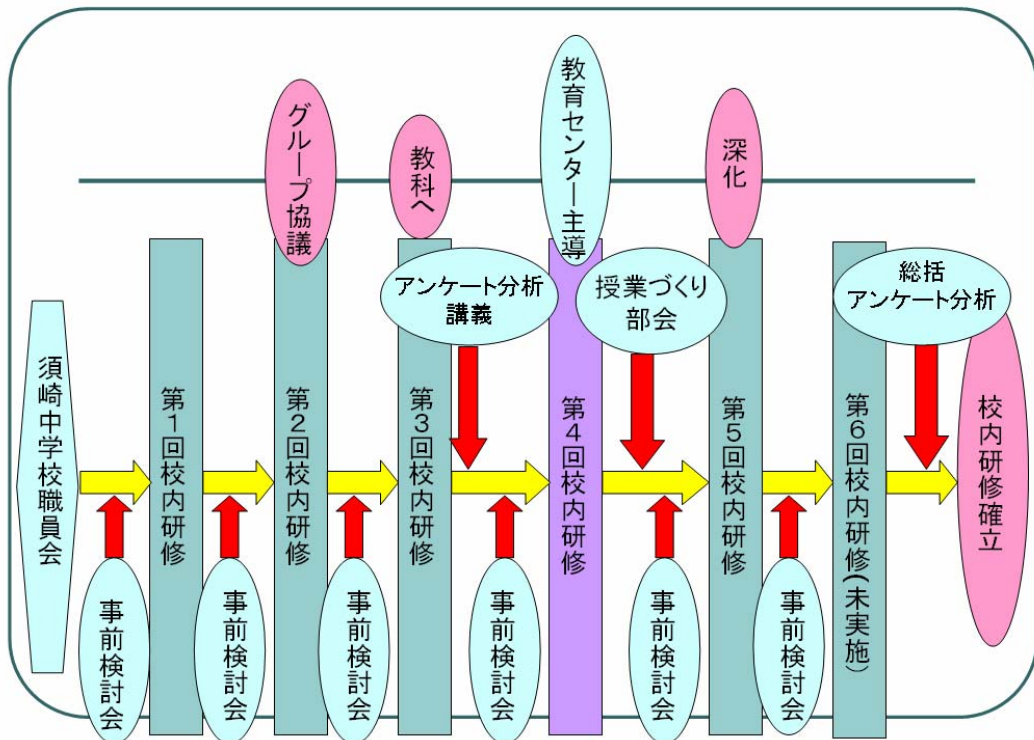
須崎中学校の学校目標「未来を拓け すさきっ子」があり、「めざす生徒像」を達成するために学校の基本方針を設定している。その方針に沿って、研究主題「確かな学力を身に付けた子どもを育む授業づくり」を確認した。須崎中学校では、研究主題にせまるために、「つなぐ」を意識した授業づくりをめざしている。そのためには、授業改善の組織化・授業後の研究協議の活性化が必要になると考え、PDCAサイクルが位置付いた校内研修確立のため教育センターと須崎中学校が共同で取り組んでいくことを確認した。

(3) 研究の経緯

① 概要

月日	会の種類	内容など	教育センター
4月 8日 (火)		須崎市教育委員会・須崎中学校との打ち合わせ	野村・山岡・藤田
4月30日 (水)	職員会	1年間の方向性の確認	野村・山岡・藤田
5月21日 (水)	第1回事前検討会	3年「総合的な学習の時間」 人権学習「差別のない社会をめざして」	山岡・三木・藤田
5月28日 (水)	第1回校内研修		山岡・松岡 (聖)
6月 9日 (月)	第2回事前検討会	2年「総合的な学習の時間」 「職場体験事前学習」	唐岩・藤田
6月11日 (水)	第2回校内研修		唐岩・山岡・藤田
7月 4日 (金)	第3回事前検討会	3年「理科」 1分野「物質の化学変化の利用」	野村・照屋・藤田
7月 9日 (水)	第3回校内研修		照屋・藤田
8月28日 (木)	講義・演習	第1回アンケート分析 講義「学校でつなぐ仲間づくり」	山岡・三木・藤田
10月 3日 (金)	第4回事前検討会	1年「技術・家庭」 技術とものづくり「コースターの製作」	山岡・進司・藤田
10月 8日 (水)	第4回校内研修		山岡・進司・藤田・松岡
10月22日 (水)	授業づくり部会	校内研修の確立に向けて	山岡・藤田
11月 6日 (木)	第5回事前検討会	2年「国語」 古典を楽しもう「論語」	松岡・進司
11月12日 (水)	第5回校内研修		山岡・松岡・池澤・藤田
1月16日 (金)	第6回事前検討会	1年「音楽」	山岡・池澤・藤田
3月 4日 (水)	職員会	総括(第2回アンケート分析)	野村・山岡・藤田

# 1年間の取組の流れ



## 平成20年度のスタート

- 須崎市教育委員会と校長との打ち合わせ
  - 基本方針と研究主題の確認

「つなぐ」

学校から提案：「つなぐの視点」をもった  
授業づくり

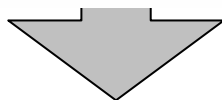
\* 生徒と教師 \* 生徒どうし \* 生徒と教材

## 教育センターの提案(4月職員会)

4月職員会への参加

- 「つなぐの視点」を学習指導案に記述すること
  - 研究協議の深まりのために  
(「つなぐの具体化」と学習指導案の形式を提示)
- 事前検討会を実施すること
  - 研究授業の前に、学習指導案を検討することで  
学校のテーマにどうせまるか、実態に合ったものか

1年間の方向性が確認できた



### 1回 事前検討会

- **参加**
  - 3学年団全員、研究主任、校長  
高知県教育センター、須崎市教育研究所
- **内容**総合的な学習の時間「人権学習」、3年生
  - 導入についてカードゲームの利用
  - 生徒の活動については班活動
  - 形態としてはTTによる授業
- 学校から提案があった。「プレ授業」

### 1回 校内研修 5月28日

- **研究授業の実施**
  - 総合的な学習の時間「人権学習」、3年生
- **研究協議テーマ「つなぐ」**
  - 評価 教員の取組姿勢  
「協働してよりよい授業を作る姿勢」
  - 評価 学習指導案  
「つなぐの視点」の記述
  - 反省 意見があまり出なかった

### 1回 教育センターとして助言

- 点から線へ意識させる
  - 協議の内容を文書化する
  - 職員に周知する
- 研究協議では、全員の意見が反映されるような工夫をすること
- 授業評価の実施

### 2回 事前検討会・校内研修 6月11日

- 事前検討会
  - 班活動、TT授業、プレ授業の実施
- 研究授業の実施  
総合的な学習の時間「職場体験」2年
- 研究協議(意見の出やすい環境)
  - **グループ協議へ変更**
  - 「つなぐの視点」での発言
- 教育センターからの助言
  - 教科指導へ発展させる
  - 班活動の動かし方
  - 授業評価の実施

### 3回 事前検討会・校内研修 7月9日 教科指導へ

- 事前検討会
  - 授業者、関係者
- 研究授業の実施「技術・家庭」1年
- 研究協議
  - **自分の教科に結びつけた発言が出てきた**  
(これまでの校内研修の手法が生かされた)
- 教育センターからの助言
  - 一人の生徒に注目して協議する方法
  - 授業評価の実施と効果的な活用について

### 調査・研究の進捗状況(7月14日)

- 教育センターがアンケートを実施
  - 教員  
「授業力向上のための校内研修に関する調査・研究に係るアンケート」
  - 生徒  
「わかる楽しい授業に向けてのアンケート」
- アンケートの分析結果
  - 先生の取組を生徒は評価している
  - 生徒理解の項目は、
    - 生徒は低い⇔先生は高い

集計結果を校内研修で分析するようにした。



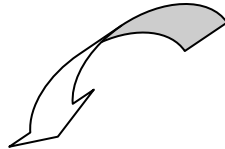
### 須崎中学からの依頼(8月28日)

- 講義の依頼
  - テーマ「班活動の効果的な活用方法について」
- 教育センターの戦略
  - 7月14日アンケート結果の提示、校内で分析
  - 課題解決のための手法を提示
  - 指導主事の派遣「学校でつなぐ仲間づくり」



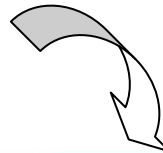
### 4回 事前検討会・校内研修 教育センターの戦略 10月8日 教育センター主導

- 事前検討会
  - テーマ「授業評価表の活用と視点を明確にした授業参観」
  - プレ授業で授業評価の実施
  - プレ授業→改善点分析→授業実践→授業評価の実施
- 研究授業
  - 4グループで授業参観(観点の共有をおこなう)
  - 生徒と教師、生徒どうし、生徒と教材 + 抽出生徒
- 研究協議
  - 当日の授業評価の集計結果とあわせて協議
  - 4グループでの協議



### 須崎中学「授業づくり部会」への参加 (10月22日)

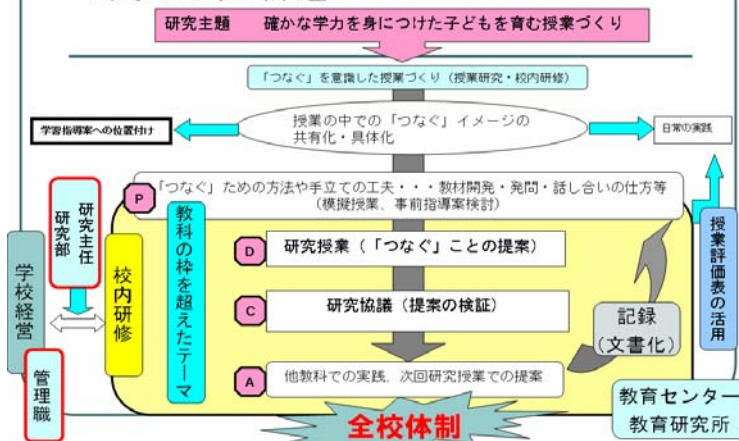
- 研究の方向性を確認
- 校内研修の確立
  - 授業
    - 授業評価表、学習指導案「つなぐ」、事前に視点を周知、参観の役割確認
  - 研究協議
    - 自評(5分以内)・・・プレ授業での反省が活かされていたか、自己の課題提示
    - 研究主任・・・成果と課題の確認、取組の共通確認
    - 教員の役割(司会・発表者・記録など)は固定化しない



### 5回事前検討会・校内研修 11月12日 深化

- 事前検討会
  - ワークシート・授業評価項目について
- 研究授業
  - 「国語」論語2年
- 研究協議
  - 校内研修第4回の手法
  - 成果と課題を確認
- 教育センターからの助言
  - 各教科の特性に応じた「書かす」
  - 明日からの取組を相互共有

### 考察(成果と課題)



## ② 第 1 回校内研修(授業研究)

### ア 事前検討会

#### 授業力向上のための校内研修に関する調査・研究 須崎中学校第 1 回校内研修事前検討会報告書

教科	総合的な学習	内容	人権学習(就職差別)
学級	3年2組	場所	応接室
授業者	坂山 はゆる 井上綾 久米田真吾		
実施日時 平成20年5月21日(水) 15:00~16:15	参加者〔教育センターを除く〕 須崎中学校 6名(校長、3年学年団) 須崎市教育研究所 3名 〔教育センター:山岡チーフ、三木、藤田(記録)〕		
<p>検討会の概要</p> <p>人権学習8時間の計画の中で、就職差別についての2時間目である。 (授業者より)</p> <p>○「つなぐ」ための手立てとして</p> <p>①生徒と教材をつなぐ「カードゲームを取り入れることにより、教材を嫌がらず、人権学習を楽しむことができ、今後抵抗なく人権学習に取り組むことができるきっかけ作りにする。」</p> <p>②生徒どうしをつなぐ「仲間作りを意識して班学習を取り入れる。」</p> <p>○人権学習は毎年取り組んでいるが、生徒は毎年変わる。「つなぐ」を意識し、班学習をとり入れた。効果的な生徒の動かし方、声かけ、展開などを教えてもらいたい。 (教育センターより)</p> <p>○内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で使用するカードは面白い試みであると思う。しかし、分かっている生徒だけが参加するという心配がある。何らかのルールを加えると良い。</li> <li>・何について学ぶのかということを明確にするために、生徒の意見が分かれるようなものを提示して、それに向けて進めていく方法がある。</li> <li>・受付カードを書かせながら、採用試験は本人の能力のみが必要なのだということを生徒自身に気付かせるようにもっていくことが大切であるので、14項目にあまり触れないでもよいのではないか。</li> </ul> <p>○班活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班学習に入るには、まず個人の考えが必要である。考えさせる時間をとればよい。</li> <li>・机の寄せ方にも工夫がある。たとえば、机はできるだけ動かさず、体を向けさせることにより参加できていない生徒がわかりやすい。いすだけで輪を作って取り組む方法もある。班活動の途中で止めて、どの班の動きがよいか、お互いに見ることも効果的である。</li> <li>・班活動に参加していない生徒がいると思われる班については、班長に、全員の意見を聞くことができたかをたずねる。</li> <li>・1つの班が発表をしたことを教師が復唱しない。発表をした班と違う意見を出させたりすることで、他の班の意見を聞かなければならないという習慣を身に付けさせる。</li> <li>・話し合いが続いている状態のなかで、教師が指示をだしたり、発言をしたりしない。</li> </ul> <p>○TTについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の授業でのTTのメリットは、教師が少ない班に集中できるので、生徒から出た良い意見をひろいあげることができることである。</li> </ul> <p>○学習指導案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つなぐ」ための手立て、視点を学習指導案に明記してもらうことで、後の研究協議が深まる。</li> <li>・授業計画8時間の1時間1時間を詳しく書いてもらうことで、生徒に付けたい力がわかる。</li> <li>・授業評価を実施して、「つなぐ」についての検証をしてもらいたい。</li> </ul>			
<p>所感</p> <p>「つなぐ」ための手立てとして、カードゲームの活用や班活動をあげ、3年学年団で取り組んでいる様子が伺えた。具体的な質問も活発にでて、有意義な事前検討会であったと思う。 学習指導案については、前回に示した、「つなぐ」ための手立てや、詳しい単元計画を記入してもらうことをお願いをしたところ前向きに取り組んでいただけたとのことであり、より効果的な研究協議につながると感じた。 また、授業評価システムにより、わかる楽しい授業につながるということを考えると、授業評価票についても検討をしていってほしい。</p>			



## 第3学年 総合的な学習授業案

2008年5月28日(水) 第6校時  
 3年2組26名(男子11名 女子15名)  
 授業者 坂山はゆる 井上綾 久米田真吾

### 1. 単元名「差別のない社会をめざして」

#### 2. 単元について

「同和教育」を含めた「人権教育」においては、「人は、誰にも幸せになる権利がある」「自分自身にも幸せになる権利がある」このことをしっかりと、自己のものにしていくことを目標としてきた。就労・生活・教育において、権利を奪われてきた人々は、それを自己の責任として諦めるのではなく、不当なこととして、その権利を求めて立ち上がってきた。その正当性と先駆性を理解させ、生徒一人一人が差別のない社会の構築に参画するとともに、自己の生活課題に前向きに取り組んでいこうとする意欲を高める教材としたい。

本学年は全体的に学習能力が高い。最終学年を迎え、進路を意識し学習意欲の高揚の見られる生徒が増加してきている。一方、低学力のため意欲化が進まない者、教室に入ること自体を拒否する者など、主体的に学習を展開するには、多くの課題を持っている生徒もいる。また、集団としてのまとまりが弱く、「馬鹿」「死ぬ」「帰れ」など辛辣な言葉が日常的に飛び交いトラブルも少なくない。言葉の不足、低学力、コミュニケーション力の低さに起因していると思われる。

そのため、「希望の進路に向けて、互いに支え合い励まし合える学年」を学年目標に、学習規律の確立と自己肯定感を育む学級・学年経営に取り組み、生徒一人ひとりに将来への展望を持たせるような進路指導の充実を図ってきたい。また、生徒たち自身の気づきや意欲を大切にするため、学年執行部を組織し、仲間づくりを意識したレクリエーションやエンカウターの手法を学級活動や学年行事に取り入れ、心をつなぐ取り組みを積極的に行ってきたい。

人権学習やすべての教育活動を通して、互いを尊重し、自他の良さを認め合い、安心して共に伸びていける、温かい学年集団を目指し取り組んでいきたい。

#### 3. 単元目標

- ①今日の社会に現存する差別問題に対して、自分自身は、どのように向き合い生きていくのか考える。
- ②部落解放運動は差別を不当なこととし、その権利を求めて立ち上がってきた。その正当性と先駆性を理解する。
- ③自己の生活課題に前向きに取り組む、差別のない社会の構築に参画していこうとする態度を養う。

#### 4. 授業計画(全5時間)

授業計画	配時数	学習内容・学習の目標
現存する差別について	1時間+社会科授業	・現存する差別を理解するために、高知県の七つの人権課題を中心に学習する。
憲法と権利	1時間 +社会科授業	・同和教育運動の成果を知るために、教科書無償化の運動や統一応募用紙の確立について学習する。
就職問題	3時間……2/3本時	・就職差別について理解を深めるために、就職差別につながるおそれのある14項目を中心に学習する。 ・自分が行動できることについて考える。



ウ 校内研修計画書(研究主任作成)

## 校内授業研究

須崎市立須崎中学校

1, 期日 平成20年 5月28日(水)

2, 時間の流れ、会場

14:15～14:25 終学活(短学活) 教室の拾い掃除

14:35～15:25 研究授業(3年2組) 3年2組教室  
総合的な学習 「人権学習(就職差別)」

15:35～17:00 研究協議 図書室

3, 講師 高知県教育センター 山岡 チーフ  
松岡 指導主事

4, 研究協議 場所 図書室(2階)

(1) 学校長より

(2) 今回の研究授業について

①授業者より

②研究協議(質疑、応答を含む)

③高知県教育センターより

進行 研究主任(片岡) 記録 石村 祐子

エ 校内研修報告書（教育センター作成）

授業力向上のための校内研修に関する調査・研究  
須崎中学校第1回校内研修報告書

教科	総合的な学習の時間	内容	人権学習（就職差別）
学級	3年2組	場所	3年2組教室
授業者	坂山はゆる 井上綾 久米田真吾		
実施日時	平成20年5月28日（水）	参観者〔教育センターを除く〕	
授業	14:35～15:20	須崎中学校全教員、須崎市教育研究所（3名）	
研究協議	15:45～17:15	〔教育センター：松岡（聖）、山岡（記録）〕	
<p>授業の考察</p> <p>人権問題にかかわるカードゲームや班学習を取り入れるなど、「つなぐ」を意識した授業づくりを意図した工夫は見られた。また、提示物の大きさや色合いにも生徒の興味や関心を引きつけようとする努力がうかがえた。これらの効果もあり、前半は「生徒と教材のつながり」が見られた。しかし、授業全体を見ると総合的な学習の時間の趣旨には沿わない知識注入型であったことは否めず、生徒とのやり取りは一問一答式で授業者が説明をする場面が多かった。また、発問の意味が不明確であったり、班学習時の具体的な支援策が十分でなかったりしたため、後半の生徒の反応はあまり良くなかった。指導体制は、クラス担任をT1とし、学年の先生がT2、T3として指導にあたる3人体制であったが、十分に機能したとは言い難く、今後の課題となった。</p>			
<p>研究協議での意見</p> <p>（授業者及び学年団より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年団で、仲間づくりを意図して4人編成での班学習を取り入れているが、十分にはできていない。</li> <li>・今日の目標は2点あったが、振り返りシートを見ると、それなりに書けているように思う。</li> <li>・子どもたちの意見をもっと拾って進めなければと思っていたが、技量が足りず十分にできなかった。</li> <li>・今日は、3人体制で授業に臨んだがどうだっただろうか、意見をいただきたい。</li> <li>・事前研で貰った意見を取り入れて、他のクラスでやってみたが、うまくいかなかった。そういう反省も含め、班学習は机を移動する形に、また yes・no クイズは始業前に取り組ませるようにした。</li> </ul> <p>（参加者より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れの中で気になったことは、発問が曖昧で子どもの動きと教材がつながらなかった点である。次々と違うものが出てくるので、子どもにとっては思考が切れ切れになっていたのではないかと。</li> <li>・班活動については、4人編成でいくのかなど学校として一定統一して取り組むことも大切ではないかと。また、班を機能させるには、班で集まり、活動せざるを得ないようにしなければならない。</li> <li>・前の学校での班活動では、例えば、男女を対角線上の座席にすることで話し合いが活発になったことがある。</li> </ul> <p>（教育センターより）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前日の授業で14項目の資料を先に配っていたことで、生徒の思考は却って深まらなかったのではないかと。子どもの思考の中にずれを生じさせ、そこをみんなで考えさせていくことで思考が深まる。</li> <li>・明確な発問をし、生徒の意見やつぶやきを生かすことが大切である。</li> <li>・人権の視点に立ったとき、指導案にある男女別の人数は必要ではない。また、指導案に「つなぐ」の視点に対して、「支援する」とあるが、何をどのように支援するのか明確にする必要がある。</li> </ul> <p>※その他、上記の授業の考察に示した点について指導・助言を行った。</p>			
<p>全体を通しての所感</p> <p>本年度の研究のスタートにあたり、提案性のある研究授業であったように思う。</p> <p>1つには、本時に至るまでの学年団の取組姿勢である。学校長も評価していたが、事前研やプレ授業を行うなど、協働してよりよい授業を作ろうとする姿勢を学校全体のものとしていきたいものである。</p> <p>もう1つは、不十分な点はあるものの指導案に「つなぐ」の視点を示していたことである。これが基となり、後の指導案にはより具体的な手立が明記されるものとする。</p> <p>研究協議では、「つなぐ」という視点についての協議時間を設けるなど、本年度の研究が1つの方向を向いているように感じた。意見はあまり出なかったが、全体の雰囲気は良く、やり方を工夫することで、活発で深まりのある協議が展開できるものと思われる。</p> <p>教育センターとしては、1つ1つの研究授業が点で終わるのでなく、つながりのあるものに、そして、先生方の日々の授業改善につなげることを意識し、指導・助言にあたることが大切である。</p>			

オ 校内研修のまとめ(授業づくり部会作成)

## 第1回校内授業研

日時 2008年5月28日(水) 6時間目(14:35~)

学級 3年2組

授業者 坂山はゆる 久米田真吾 井上綾

参加者 須崎中教員、須崎市教育研究所(3名)、県教育センター(2名)

《研究協議内容》

### 1, 授業者より

- ・Mくん、Rさんが教室に入れない状況。今日はMくんは頑張った方である。
- ・今年から担任をもったが、生徒が協力的である。
- ・**仲間づくりをめざして班活動を取り入れてきた。**
- ・14項目については大半の生徒が「理解が深まった」にYES。
- ・生徒のつぶやきを拾うまでには行かなかった。
- ・授業展開の3つ目は班から個人の活動に変更した。(理解度を確認するため)
- ・○×カード・・・教材を自分のものとして捉えさせるため
- ・**班活動は班長を中心によく話し合える班が多かった。**
- ・T2、T3の動きがうまくいかないところがあった。
- ・机間指導での生徒の声、反応をいかに全体に返すか。

### 2, 3年団より

- ・早い時期に人権学習を計画した。
- ・事前に同和教育運動の取り組みについて学習し、それがすべての人々の幸せにつながる運動であったことを伝えた。
- ・1組では椅子のみで円座になって話し合わせてみたが、却って私語が増えてしまった。集団での行動の指導に課題あり。

### 3, 参観者より

- ・つくえをつけない生徒がいたが・・・  
→人間関係でてこずっている部分がある。

○「つなぐ」の視点で

- ・「差別選考の現状」の資料に対する発問が曖昧だった。  
→就職担当者からの件数と、学生からの件数の比較に絞って発問した方がねらいにせまり、次につながると思う。
- ・「受付カード」の提示の仕方も高知県で差別事件があったことを先に知らせた方が、資料間のつながりができたのでは。
- ・**班活動の仕掛け**  
班で活動したことを発表させることで目的意識ができる。
- ・生活班とは別の学習班 (協同的な学び)  
男女市松模様の4人組 → 会話が広がる

#### 4, 松岡指導主事より

- ・ 14項目のプリントを先に配布したことで、却って思考の深まりの妨げになったのでは。例えば「結婚しているか」という質問はなぜいけないのか。揺さぶり発問を入れることで、思考が深まる。
- ・ 指導案の男女の構成は今日の場合いるのか。
- ・ 発問を練る必要がある。
- ・ Mが午後からでも授業に参加できていることに意義がある。

#### 5, 山岡チーフより

- ・ つなぐための具体的な手立てを授業案に明記することで今後の反省材料になる。
- ・ 導入段階では子どもと教材がつながっていた。  
一見してわかりやすい吹き出し方のフラッシュカードと○×式
- ・ 子どもの思考が次につながっていくような発問づくりが必要。
- ・ 2班が少しづつ班活動ができるようになった。その手立てが何だったのかが重要。
- ・ 話し合いをする材料がないと、うまく班活動が機能しない。

例、付箋に理由を書かせる。(1人1人に)

- ・ 生徒と教師のつながり  
1問1答式が多かった。→つきかえしたり、揺さぶったりが必要になってくる。
- ・ 教師があまり子ども同士の間に入らない。代弁しない。
- ・ 班活動の前段としてペア学習がある。  
ペア同士をくっつけて4人グループに ← リーダー不在でも活動可
- ・ 話し合いに参加しない子に「○○さんどう思う？」と声をかけさせる。
- ・ 徐々に6人グループぐらいに。 ← リーダーがいないとまとまらない

#### 6, 堅田先生(研究所)より

- ・ 机間指導で班活動を活性化させる声かけ  
「○○くんどう思う？って聞いてみいや」
- ・ いい意見が出された時にはT2、T3が全体に広げると生徒同士がつながることに。

授業者の先生並びに3年団の先生ご苦労様でした。

今回の授業を受けて、次回の校内授業研は班活動の仕掛けや支援のあり方などに一つ焦点を当ててみてはどうでしょうか。

次回校内授業研は6月11日(水)です。宜しくお願いします。

### ③ 第 2 回 校内 研修 (授業 研究)

#### ア 事前 検 討 会

#### 授業力向上のための校内研修に関する調査・研究 須崎中学校第2回校内研修事前検討会報告書

教 科	総合的な学習	内 容	職場体験事前学習
学 級	2年1組	場 所	応接室
授業者	安井 久也		
実施日時	参加者〔教育センターを除く〕 須崎中学校 7名(教頭、研究主任、2年学年団) 須崎市教育研究所 3名 〔教育センター：唐岩チーフ、藤田(記録)〕		
平成20年6月9日(月)	16:00～17:15		
検討会の概要	<p>職場体験事前学習6時間の計画の中で、「身近な職業について」の1時間目である。 (学年団より)</p> <p>○「つなぐ」ための手立てとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒と教材をつなぐ「知っている職業を挙げさせることで、興味を持ちやすくする。」</li> <li>②生徒どうしをつなぐ「班活動を通して生徒どうしの意見を深める。」</li> </ul> <p>○秋に実施する職場体験に前向きに意欲を持って取り組むために、働くことの意義や目的を理解させたい。班活動において、まだ活発な意見がでない状況である。(特に男子と女子)活性化するためにどのような準備が必要か、また、班活動の進め方が課題である。1年生では人権学習の中で、職種の性差(男性の職業・女性の職業)について扱っただけである。</p> <p>(教育センターより)</p> <p>○進路学習(キャリア教育)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の進路学習における位置付けが必要である。2年生での職場体験をもとにして、3年生での進路選択にどうつなげるかという意識を先生方は持っておいたほうがよい。何のために、こういう勉強をするのかということをおさえておくことで、生徒にとっても価値のあるものになる。</li> <li>・職場体験事前学習6時間を終えたあとの子どもの変化を考えておく。</li> </ul> <p>○班活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班活動の活性化のために、班の人数を少なくし、一人一人が発言しやすい場面設定を考える。</li> <li>・男子どうし、女子どうしが横に並んで座るのではなく、対角に位置させることも効果的である。</li> <li>・まとめるといことがむつかしければ、書かせる作業を取り入れる。(KJ法)</li> </ul> <p>○展開について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KJ法の利用などにより、<b>発問2</b>で活発に意見が出る雰囲気を作り、<b>発問3</b>につなげていく。<b>発問3</b>では、『お金のため』や『自分の能力を生かすため』以外の意見はなかなか出てこないと思われるが、授業者が自分自身のことを語ったり、Iターンに触れたりすることで、もう一度考えさせる。答を急ぐ必要はない。考えさせることが大事である。そうすることで、課題を持って職場体験につなげていくことができる。</li> <li>・まとめでは、班の意見を発表させるとよい。班活動にやりがいを感じるができる。</li> <li>・<b>発問3</b>がこの授業のポイントである。時間配分を考える必要がある。意見が出にくいようならば<b>発問1</b>は教師が示す。</li> </ul>		
所感	<p>班活動の活性化のために、どのような準備が必要か、また、班活動の進め方が2年学年団の課題である。教育センターからの助言を参考に、いろいろ試しながら取り組んでいこうという積極的な姿勢が伺え、有意義な事前検討会であったと思う。</p> <p>進路指導(キャリア教育)は、3年間を通したものである。学校全体で確認をしてもらいたいと思うので、今回の研究授業をきっかけに、2年団の取り組みを提案し、来年につなげていってもらいたい。</p> <p>第1回の研究協議の内容を文書に起こし職員に周知することや、「つなぐ」の視点を学習指導案に示すことを提案していたが、早速取り組んでいた。第2回に着実に繋がっていると感じた。</p>		

## イ 学習指導案

### 学習指導案「総合的な学習(職場体験事前学習)」

2008年6月11日(水)第6校時

2年1組32名

授業者 安井久也 2年団

1. 題材名「 職場体験事前学習 」
2. 題材について

現在、須崎中学校の2年生では職場体験学習「わくわくチャレンジ in すさき」を行っている。目標として地域やさまざまな人々との出会いを通じて、地域に学び、ともに生きる心や感謝の心を大切にするとともに、ふだんの学校生活では味わえない体験を通して「自分の良さ」、「自分の可能性」を発見し、今後の進路選択に活かしていきたい。

全体的に落ち着いた状態で学習することができるが、男女とも素直に自分を表現するのが大変苦手であり、どのようなタイプの友人でも受け入れていこうとする姿勢に弱さが感じられる。

この学習を通して自分にあった進路を考えるきっかけとさせたい。また、班活動で互いの意見を出し合うことにより生徒どうしのつながりを深めさせたい。

3. 題材目標

職場体験を前向きに、意欲を持って取り組むために、その意義や目的を理解させる。

- 1、仕事の楽しさや厳しさを知る。
- 2、自分の良さの発見
- 3、自分に何ができるかの発見
- 4、ふるさと「須崎」の再発見

4. 授業計画(1学期間)

身近な職業について	2時間( 1/2 本時 )
レディネステスト	1時間
職場体験希望調査	1時間
職場の決定、プロフィール作成	2時間

5. 本時の授業「働くことの意義と職種」

- (1)本時の目標

- ① 働くことの意義について考える。
- ② さまざまな職種について知る。

- (2)評価規準

- 評価① 様々な職業について知ろうとしている。  
評価② お互いの意見を聞こうとしている。

- (3)「つなぐ」ための手立て

- 視点① 教材と生徒をつなぐ — 知っている職業を使い、興味を持ちやすくする。  
視点② 生徒と生徒をつなぐ — 班活動を通して生徒どうしの意見を深める。



## (4) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点・評価	視点
導 入	○職場体験の概要を知る。	・資料を配布し、実施日・内容・目標等の確認をさせる。	
展 開	<p>1. 様々な職種について考える。</p> <p><b>発問1</b> 「何を相手にして働く職業があるだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人。動物。機械。</li> </ul> <p><b>発問2</b> 「5つのグループにはそれぞれどんな仕事があるだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●個人で考え、ワークシートに記入する。</li> <li>●個人で出た意見を班でまとめる。</li> <li>●まとめたことを班で発表する。</li> <li>・人 — 保育士、理容師など</li> <li>・自然や生物 — 農業、漁業、獣医など</li> <li>・機械や物 — 大工、自動車整備など</li> <li>・情報 — システムエンジニア、プログラマーなど</li> <li>・芸術 — イラストレーター、映画監督</li> </ul> <p>2. 働くことの意義について考える。</p> <p><b>発問3</b> 「なぜ人は働くのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●班会で考える。</li> <li>●まとめたことを班で発表する。</li> <li>・お金のため。自分の能力を生かすため。</li> <li>・社会に貢献するため。</li> </ul>	<p>・職業は様々な物を相手にしてなりたっていることを確認させる。 (人・自然や生物・機械や物・情報・芸術)</p> <p>・ワークシートを配布する。</p> <p>・全員参加できるように支援する。</p> <p>・班長を中心に話し合いができてい るか観察する。</p> <p>・働くことにはそれぞれ意味があるこ とを理解させる。 (個人性・経済性・社会性・名誉・ 安定性)</p> <p>・班長を中心に話し合いができてい るか観察する。</p>	<p>評価① 評価②</p> <p>評価① 評価② 視点① 視点②</p> <p>評価② 視点②</p>
ま と め	<p>○本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本時の感想を書く。</li> </ul>	・何を意識して職業を選ぶかを考えさせる。	

ウ 校内研修計画書(研究主任作成)

## 校内授業研究

須崎市立須崎中学校

1, 期日 2008年 6月11日(水)

2, 時間の流れ、会場

14:15～14:25 終学活(短学活) 教室の拾い掃除

14:35～15:25 研究授業(2年1組) 2年1組教室  
総合的な学習 「職場体験事前学習」

15:35～17:00 研究協議 図書室

3, 講師 高知県教育センター 山岡 チーフ  
唐岩 チーフ  
藤田 指導主事

4, 研究協議 場所 図書室(2階)

(1) 今回の研究授業について

- 1, 授業者より
- 2, 質疑、応答
- 3, グループ協議

「つなぐ」ための手立てはどうだったか?

～ 学習指導案より つなぐための手だて ～

- 視点① 教材と生徒をつなぐ - 知っている職業を使い、興味を持ちやすくする  
視点② 生徒と生徒をつなぐ - 班活動を通じて生徒どうしの意見を深める

4, 発表

5, 高知県教育センターより

進行 (片岡) 記録 (石村) デジカメ (竹村)

エ 校内研修報告書（教育センター作成）

授業力向上のための校内研修に関する調査・研究  
須崎中学校第2回校内研修報告書

教科	総合的な学習の時間	内容	職場体験事前学習
学級	2年1組	場所	2年1組教室
授業者	安井 久也 西尾あゆみ 上野貴裕 石村祐子		
実施日時	平成20年6月11日（水）	参観者〔教育センターを除く〕	
授業	14:35～15:25	須崎中学校全教員、須崎市教育研究所（3名）	
研究協議	15:35～17:00	〔教育センター：山岡チーフ、唐岩チーフ、藤田（記録）〕	
授業の考察			
<p>「つなぐ」ための手立てとして、特に班活動の活性化を課題にあげ、研究授業に取り組んだ。</p> <p>発問2では、KJ法を利用して、知っている職業を書かせる作業を取り入れた。明確で丁寧な指示のもと、班活動が活発になり、意欲的に取り組むことができ、本時の目標である発問3につなげていくことができていた。班への評価をいれるとよい。「生徒が、今何をすべきか。」を徹底的に指導することで、メリハリのきいた、参加型の授業であった。</p> <p>T2, T3, T4の先生は、主に班会時の机間指導を担当していた。質問をしやすい状況ではあったが、生徒同士の話し合いの妨げをしてしまったところもある。班会における役割を明確にしていくことが今後の課題である。</p>			
研究協議での意見			
(授業者より)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発問1から発問3へのつながりや、まとめが弱かったのではないと思う。</li> <li>・ 「今何をすべきか。」を明確に指示することを重要視した。</li> <li>・ 気になる子どもへの対応ができ、予想していたより班活動が活発にできた。発問3に対する意見がたくさんでた。</li> </ul>			
(グループ協議)「つなぐための手立てはどうであったか。」			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師も生徒もよくがんばった。普段できていないことができていた。今日のような、メリハリのある、けじめのついた授業を習慣づけていきたい。</li> <li>・ 丁寧で明確な指示があり、意欲的で活発な班活動ができていた。振り返りは班で発表させるとうい。</li> <li>・ 効果的な教材・教具の準備により、全員が参加することができた。やってみようという気持ちを持たすことができた。</li> <li>・ 授業者が自分自身のことを語ったところが、一番印象に残っている。生徒もよく聞いていた。</li> <li>・ わからない生徒へのフォローができていた。</li> <li>・ 教員の人数が多く、生徒同士の話し合いの妨げになっていた。</li> <li>・ 明確な指示、聞き取りやすい話し方、間の取り方により、先生と生徒をつなぐことができていた。</li> </ul>			
(教育センター)			
<p>子どもの成長した姿を見たときに教師にとっての一番のエネルギーになり、意欲につながっていく。本日の授業は、授業者だけでなくどの先生にとっても、心地よい気分させるものであったのではないか。研究授業を通して、2年団が工夫をしたところが共有できたことが良かった。こういう機会を定期的にもてばよい。</p> <p>前回の研究授業と今回の研究授業が、研究としてつながっていたことが素晴らしい。(記録のまとめを配布し、課題を引き継いだ。) 今後は、身近な題材の活用(生徒と教材)、班活動の活性化(生徒どうし)について取り組んでいってもらいたい。</p> <p>今後、教科にどうつなげていくことができるかが課題である。研究協議で学んだことを、日々の授業にどう実践していくかが課題である。そのためにも授業評価は大切である。授業評価票のサンプルを渡しているので検討し活用していってもらいたい。</p>			
全体を通しての所感			
<p>第1回の3年団と同様に、2年団も事前検討会やプレ授業を行い、協働してよりよい授業を作ろうとする姿勢が学校全体に広がっていると感じた。研究協議では、学校側の発案により、グループ協議が実施された。意見がでやすいように、研究協議の持ち方についても、いろいろ試していこうという姿勢が見られたことが素晴らしい。</p>			

オ 校内研修のまとめ(授業づくり部会作成)

## 第2回校内授業研

日時 2008年6月11日(水) 6時間目(14:35~)  
学級 2年2組  
授業者 安井久也 西尾あゆみ 上野貴裕 石村祐子  
参加者 須崎中教員、須崎市教育研究所(3名)、県教育センター(3名)

《研究協議内容》

1, 授業者より

- ・発問2から発問3へのつながりがすっきりしないままの授業であった。
- ・まとめの仕方が弱かったが、なんとか流れていった感がある。
- ・「なぜ人は働くのだろうか」の問いに対する答えが以外に良く考えて出されていた。
- ・班会の仕方、聞く、書く等の指示が通るようにすることを重視して行った。
- ・班会に参加しづらい生徒が何人かいた。

2, グループ協議(各グループが模造紙で掲示した内容)

### Aグループ

視点① 「教材と生徒をつなぐ」について

- ・全員が参加できた。
- ・声かけの評価。研究授業を逆にとってやれた。子どもは力を持っている。(形成的評価ができています。きめ細やか。けじめ) 習慣化(適切な評価が入る)
- ・参加型の内容が2年生にとってよかった。
- ・話し言葉と個々の子どもにかける言葉のメリハリ
- ▲ 反省・・・班会の振り返りは子どもの声で・・・
- △ワークシートを簡条書きにしてはどうか?

視点② 「生徒と生徒をつなぐ」について

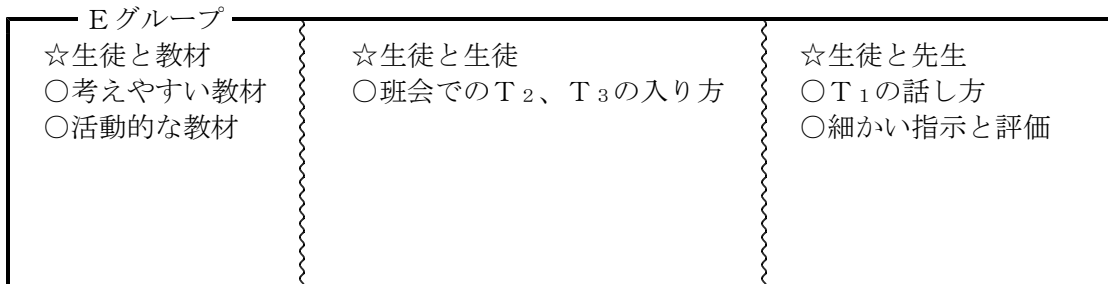
- ・生徒どうしのつながりはよかった。課題のある子もよかった。
- 班長OK 指示も的確で分かりやすい。

### Bグループ

生徒同志の関わり合いと評価の大切さ

### Cグループ

- ・意欲的、活発な班活動 ← 丁寧で明確な工夫された指示  
途中での効果的な注意、指示
- ・模造紙を残していたのもよい。
- ・分からない生徒へのフォローができていた。
- ・座席配置の工夫を。
- ・班員同士のチームワークがとれていた。 ← 班への評価を入れるとよい。
- ・教員の人数が多く、生徒同士の話し合いの妨げになる場面もあった。
- ・聞くことへの評価を適宜入れていて、成長が見えてよかった。
- ・教師が自分を語る場面、じっくりくわしく語ってほしい。



#### 4, 唐岩チーフより

- ・ どんないい学校でも変わって欲しいところがある。
- ・ 授業後の心地よさがあったはず。→生徒の成長が見られた。
- ・ 工夫したことが子どもにプラスになっていた。

↓

教員同士でその工夫を共有していくことが大切

また、何がよかったかを具体的に言い合える場であり、意義深い。

課題のある生徒がその時間にどう変わったかを話し合えたらなお良い。

- ・ 班員どうし本音が語れることが大切。横並びの立場で話し合うことが大切。できていないところにどう手立てを行うか。

#### 5, 藤田指導主事より

- ・ 秋の職場体験を意義のあるものにしたいという教員の思いがしっかりしていて、生徒にもそれが伝わる工夫のある授業であった。

#### 6, 山岡チーフより

- ・ やることが明確に示されていたので活動しやすかった。  
紫の紙に青で書くとやや見づらかった。  
主要発問の箇所は黄色の紙に赤で分かりやすかった。
- ・ 授業者がやっておもしろいと感じる仕掛けが大切。  
例えば 「プロジェクトX」の曲を流しながら写真(仕事をしている場面の)を掲示していく。
- ・ 床で円座になって作業させるとよかったのでは。
- ・ 研究協議のまとめを配布し、次の課題が示されていて、つながりのある研究ができていく。
- ・ 生徒と教材をつなぐために  
→ 身近で興味のある教材を用いる。
- ・ 生徒同士を関わせるための手立てを具体化していく。
- ・ 生徒と教員のつながり ← 明確な指示と評価をきちんと入れている
- ・ 今後教科の指導にどうつなげていくか。(横の広がり)  
→ 授業評価表の活用も効果的

授業者の先生並びに2年団の先生ご苦労様でした。

次回校内授業研は7月9日(水)です。宜しくお願いします。

#### ④ 第 3 回 校 内 研 修 ( 授 業 研 究 )

##### ア 事 前 検 討 会

#### 授業力向上のための校内研修に関する調査・研究 須崎中学校第3回校内研修事前検討会報告書

教 科	技術・家庭	内 容	技術とものづくり コースターの製作
学 級	1年1組	場 所	応接室
授業者	浜田 光男		
実施日時	参加者〔教育センターを除く〕 平成20年7月4日(金) 16:50~17:45 須崎中学校 2名(研究主任、授業者) 須崎市教育研究所 3名 〔教育センター:野村部長、照屋、藤田(記録)〕		
<p>検討会の概要</p> <p>単元名「技術とものづくり コースターの製作」(鳴子製作の準備) (授業者より)</p> <p>○「つなぐ」ための手立てとして</p> <p>①生徒と教材をつなぐ「教材・工具の特性を知り、意欲的に取り組むようにする。」 ②生徒どうしをつなぐ「グループ活動を通して、生徒どうしの作業・助け合いを深める。」</p> <p>○廃材やアルミ缶を教材として利用することで環境教育も意識している。持参したアルミ缶が、こんな風になるのだという驚き、コースターの形によりアルミ缶に描いてある字や絵が変わるという気付きを大切に、意欲的に取り組ませたい。教室整備や設備・道具が十分でない現状である。道具の貸し借りを通じ、助け合いが深まると考える。少人数(12名)学習の利点を活かす授業を実施したい。</p> <p>(教育センターより)</p> <p>○学習指導案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元目標、単元の評価規準、指導計画を記述してもらいたい。</li> <li>・「指導上の留意点」の欄に具体的な工夫や意図することを記入するとわかりやすい。</li> <li>・評価規準「ウ 生活の技能」において、②「適切な工具を選び」は「イ 生活を工夫し創造する能力」が適当である。切断がメインの内容であるので、3つの評価規準は多いのではないか。</li> </ul> <p>○班活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に発表させる場面や説明する場面を工夫することで、少人数学習の利点を活かすことができるのではないか。</li> </ul> <p>○導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校との系統性を考え、既習事項を活かす、興味を持たす導入の工夫を考えてもらいたい。</li> </ul> <p>○評価方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価方法は「観察」だけであるが、それ以外にシートを利用するなどについてはどうか。</li> </ul> <p>○「つなぐ」ための手立てについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教材・工具の特性を知り、意欲的に取り組むようにする。」において、取り組むようにするためにどうするのか。「グループ活動を通して、生徒どうしの作業・助け合いを深める。」において、深めるためにはどうするのか。具体化してもらいたい。</li> </ul> <p>○単元を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術は教材のつながが必要である。カンナ、釘打ちがないまま、ものづくりが終わったらいけない。鳴子のあとに何かを考えたらよい。(コースター→鳴子→BOXの流れを検討中)</li> </ul>			
<p>所感</p> <p>今までの校内研修2回は「総合的な学習の時間」であり、学年団の先生の参加のもと、皆で作りに上げていこうスタイルであったが、3回目から教科になったため、事前検討会の参加者が、授業者と研究主任だけであった。前回の研究協議で、「今後、教科にどうつなげていくことができるか、研究協議で学んだことを、日々の授業にどう実践していくかが課題である。」と述べたが、その意味でも、初めての教科による全校研は期待される。学習指導案に「つなぐ」ための手立てをさらに具体化して記入してもらうことで、その視点で研究協議が実施でき、教科を超えたつながりが期待できる。</p>			

## 第1学年 技術・家庭科学習指導案

平成20年7月9日(水) 第6校時  
 須崎市立須崎中学校 1年1組12名  
 授業者 浜田 光男

1、単元名 技術とものづくり コースターの製作(鳴子製作の準備)

2、単元について

- (1) 教材観 わたしたちは、日々の生活、身の回りにおいて様々な木材製品を使用している。しかし、使用することが中心で、あまり木材の特性を知らないままのことが多い。多くの高知県民が知っている「よさこい祭り」の鳴子を実際に、一枚の板からけがき、製作することで、木材製品の特性を理解し、愛着を感じてもらうために、高知県産の「しまんとひのき」を使用して製品を製作する。また、その過程において、間伐・山林問題を含めた環境教育も行い、消費エネルギーや資源に着目させたい。
- (2) 生徒観 中学校に入学して3ヶ月が過ぎ、すっかり須崎中学校に慣れた状態である。クラスの中でもそれぞれ生徒同士の性格をほぼ理解し、お互いで意見を出し合ったり作業することがスムーズにできるようになっている。作業中心の授業では、特に助け合うことが重要で、お互いがつなげ合うことを増やしていきたい。
- (3) 授業観 授業においては、少人数学習の利点を活かし、お互いが助け合い、教えあえる雰囲気づくりに努めたい。グループごとに作業内容をローテーションさせ、生徒同士のつながりを重視させていきたい。

3、授業計画 【技術とものづくり分野 製品の製作 本時は、15時間の2時間目】

本教材の前の練習教材として	(4時間)	本時	2時間目
製作の準備・図面どおりにけがこう	(2時間)		
材料を切断しよう	(2時間)		
部品を加工しよう	(3時間)		
組み立てよう	(2時間)		
製品を仕上げよう	(2時間)		

4、本時の展開

(1) 本時の目標

- ・切断・切削用具のしくみとその使い方を理解する。  
(安全に糸のこ盤・のこぎり・金切ばさみの加工法を知る)
- ・材料に適した工具を合理的に選び、材料を加工することができる。  
(木材加工の仕方・材料によって、工具を選択・加工する)

(2) 観点別評価規準

ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し 創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術に ついての知識・理解
切断に使用する糸のこ盤のしくみに関心を持ち、活用しようとしている。	切断の目的や条件に応じて、より適切な工具を選択し、その使い方を工夫している。	切断用工具を使って安全に材料を切断・加工することができる	切断の目的や材料に適した切断に関する知識を身につけている。 工具のしくみと効果的な使用方法との関係について理解している。 適した加工工程と加工技術に関する知識を身につけている。

(3) 「つなぐ」ための手立て

- |               |  |
|---------------|--|
| 視点① 教材と生徒をつなぐ | 材料・工具の特性を知り、自分から適切な工具を選び、意欲的に切断・加工に取り組むようにする |
| 視点② 生徒と生徒をつなぐ | グループ活動を通して、生徒同士の作業・助け合いを行う                   |
| 視点③ 教員と生徒をつなぐ | 机間巡視を行い、心理状態、学習状況に応じた支援を行う                   |

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
導 入	1. 挨拶をする 2. 持ち物確認 3. 今後の流れを事前に説明 (しまんとヒノキの鳴子) 4. 前時までの 作業の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の作業を振り返り、確認する。</li> </ul>		態度の観察
展 開	5. 本時の内容確認 ① 作業を確認する。 ② 自分の作業内容をグループまたは教師と確認する  6. 作業 (グループ一人) <ul style="list-style-type: none"> <li>糸のこ盤を安全に注意して作業に取り組む</li> <li>正確にけがく</li> <li>正確にアルミ缶・木材を切断する</li> <li>作業姿勢が適切か確認しながら切断を続ける</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>切断用工具の名称と使い方、しくみを考えながら取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切断用工具の正しい動かし方や切断するときの姿勢を説明する。 (糸鋸・のこぎり・金切ばさみなど)</li> <li>それぞれの作業工程を考える。</li> <li>けがきの寸法や方法を事前に確認しておき、グループに教えさせる。</li> </ul>	ア イ ウ エ	観察
ま と め	7. 授業の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>部品や工具の後片付け、清掃活動を行う</li> </ul> 8. 評価 授業評価を行う。  9. 次時の確認とあいさつ			



ウ 校内研修計画書(研究主任作成)

## 校内授業研究

須崎市立須崎中学校

1, 期日 2008年 7月9日(水)

2, 時間の流れ、会場

14:15~14:25 終学活(短学活) 教室の拾い掃除

14:35~15:25 研究授業(1年1組) 技術室(体育館下)  
技術科 技術とものづくり コースターの製作

15:35~17:00 研究協議 図書室

3, 講師 高知県教育センター 照屋 指導主事  
藤田 指導主事

4, 研究協議 場所 図書室(2階)

(1) 今回の研究授業について

- 1, 授業者より
- 2, 質疑、応答
- 3, グループ協議

「つなぐ」ための手立てはどうだったか?

～ 学習指導案より つなぐための手だて ～

視点① 教材と生徒をつなぐ - 教材・工具の特性を知り、意欲的に取り組むよう  
にする

視点② 生徒と生徒をつなぐ - グループ活動を通じて、生徒同士の作業・助け合  
いを深める

4, 発表

5, 指導、助言等(高知県教育センター)

6, 授業に関するアンケート

進行 (片岡) 記録 (石村) デジカメ (竹村)

## エ 校内研修報告書（教育センター作成）

### 授業力向上のための校内研修に関する調査・研究 須崎中学校第3回校内研修報告書

教科	技術・家庭	内容	技術とものづくり コースターの製作
学級	1年1組	場所	技術教室
授業者	浜田 光男		
実施日時	平成20年7月9日（水）	参観者〔教育センターを除く〕	
授業	14:35～15:25	須崎中学校全教員、須崎市教育長、須崎市教育研究	
研究協議	15:35～16:50	所（3名） 〔教育センター：照屋、藤田（記録）〕	
<p>授業の考察</p> <p>少人数学習の利点を活かし、お互いが助け合い、教えあえる雰囲気作りを意識した授業であった。「分からなかったら、聞く」ことを徹底させ、1人で作業をしている生徒には、他の生徒と協力するよう声かけをするなど、「生徒どうしをつなぐ」ことができていた。</p> <p>また、廃材や、家から持ってきたアルミ缶を教材に用いることで、生徒の興味・関心を引き付けることができ、「生徒と教材のつながり」が見られた。発問をしながらテンポ良く進められていた。安全面を考え、注意や説明をしっかりと聞かすなど、授業規律が定着できていた。使用できる道具の数を考えて、グループを作り、ローテーションしながら、授業を展開しようという工夫が見られた。</p>			
<p>研究協議での意見 （授業者より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近にあるものを教材として利用することで、興味を引き付けることができた。</li> <li>・ 道具や設備が十分でない中で、どのようにすれば生徒が意欲的に取り組むことができるかを考え、生徒どうしの作業や助け合いを重要視した。</li> </ul> <p>（グループ協議）</p> <p>①生徒と教材をつなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近にあるものを教材とする工夫がなされていた。明確な指示、説明ができていた。</li> </ul> <p>②生徒どうしをつなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協力することが、日常的にできているなど感じた。（後片付けや掃除）</li> <li>・ 教師の適切な声かけにより、協力することができやすい雰囲気ができていた。</li> </ul> <p>③生徒と教師がつながる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細やかな注意や気配り、テンポのよい指示が生徒に安心感を与えていた。</li> <li>・ 「わからなかったら、聞く」ことを徹底させていた。</li> </ul> <p>（教育センター）</p> <p>①学習指導案が手直しされ、分かりやすくなった。（単元の指導計画の記入）</p> <p>②各自にアルミ缶を持ってこさせることが意欲付けにつながった。</p> <p>③困っている生徒に対し、教師がすぐに指示を出すのではなく、生徒どうしが助け合うことのできる仕組みを考えていた。</p> <p>④技術は教材と教材のつながりがある。教材に興味を持たすことが必要である。製作した鳴子を使用してよさこい踊りに参加した学校がある。今後の課題として須崎ならではの教材を考えていてもらいたい。</p> <p>⑤「この教材で何を教えるのか。」ということを明確にし、内容を精選する必要がある。</p> <p>⑥安全面について言えば、生徒は立って作業をした方が良い。（電動糸鋸）</p> <p>⑦説明不足のところがあった。（角度・両刃のこぎり）</p>			
<p>全体を通しての所感</p> <p>3回目の校内研修である。2回は「総合的な学習の時間」であり、そのときの研究協議の内容を、教科にどうつなげていくかが課題であったが、確実に繋がっていると感じた。特に、小集団の動かし方については、教師のしかけや、声かけなど意識されたものであった。</p> <p>また、研究協議についても、良かったところ、悪かったところを言うのではなく、「つなぐ」という視点を持って行ったことで、これからの教科の指導につながっていくと感じた。ポイントは、生徒がどう変わったかということである。そのためにも、授業評価を実施してもらいたい。（学習指導案には計画されていたが時間がなく、できなかった。）1人の生徒に注目して、その生徒に視点を当てて協議することなども参考にしてもらいたい。個々の教員の指導や取組が、全校的・組織的な取組につながっていくことを期待する。</p>			

オ 校内研修のまとめ(授業づくり部会作成)

### 第3回校内授業研

日時 2008年7月9日(水) 6時間目(14:35~)  
学級 1年1組  
教科 技術科  
授業者 濱田光男  
参加者 須崎中教員、小野教育長、須崎市教育研究所(2名)、県教育センター(2名)

《研究協議内容》

1, 授業者より

- ・今回の授業のため急遽技術棟を掃除した。電源や機会等の設備面で不十分なところがある。
- ・廃材やアルミ缶を再利用する。
- ・最初コースターのイメージが分からずいつ物を見せて理解できた。
- ・本日の授業のねらいの1つは道具の使い方に慣れることである。
- ・今日は落ち着きのあるグループだったので大丈夫だが、他のグループではようすを見ながら形態を考えていく必要がある。

2, グループ協議(各グループが模造紙で掲示した内容)

Aグループ

視点① 「教材と生徒をつなぐ」について

- ・段階的な仕掛けが生徒と教材をつなぐ。
- ・磁界の予告で興味・関心を高める。

視点② 「生徒と生徒をつなぐ」について

- ・教えあい、助け合いの日常化。
- ・教師の適切な声かけ

視点③ 「生徒と生徒をつなぐ」について

- ・テンポのよい指示、細やかな注意、気配り

分からなかったら

↓  
「聞く」

↓  
子どもの安心感や、思い切りの良さにつながっている

Bグループ

視点①・劣悪な環境・設備で、身近な材料でやすくできる工夫がなされていた。

- ・各自にアルミ缶を持ってこさせるのは、意欲付けの点でよい。
- ・的確な指示・説明であった。

視点②・1人で作業をしている生徒に、他の生徒と協力するよう声かけをしていた。

- ・後かたづけ、掃除も協力してできていた。

その他・体操服で作業させたらよかったのでは。

Cグループ

視点①・興味・関心を持って取り組んでいた。

- ・作業の手順を図などで掲示してみてもどうだろう。

視点②・二人一組のグループでやることにより、安全の確保がしっかりとできていたのではないかと。

- ・作業の中で教えあいや助け合いができていた。

— Dグループ —

- 視点①・生徒が活躍できる授業であった。  
・要点を視覚で確認できる準備も必要ではないか。
- 視点②・3人一組は？ 共同作業の仕掛けとしてはやりにくい。
- 視点③・「分からなかったら聞く」  
・生徒の声を聞く授業評価を入れたらどうか  
・安全面の配慮

— Eグループ —

- 視点①・危険な工具の説明にもう少し時間をかけたらよかった。
- 視点②・声かけ、助け合いができていた。
- 視点③・指示が1回で聞け、その通りに作業ができていた。

3, 高知県教育センター  
(藤田指導主事)

- ・小集団の動かし方、声かけがたいへん勉強になった。
- ・「つなぐ」の視点での研究協議
- ・ポイントはその授業で子どもがどう変わったか。



子どもによる授業評価も実施したらよい。

(照屋指導主事)

- ・単元の目標、指導計画等分かりやすい。
- ・意欲的に取り組むという視点で見るとアルミ缶をもってくるのは有効。
- ・子どもどうしの助け合い  
教員が間に入るのではなく、「手伝って」と子どもにいわせる指導がよかった。
- ・なぜコースターなのか  
糸鋸を使つての切断がメインで、劣悪な設備の中でできる範囲の教材であったのでは。
- ・なぜ次の教材が「鳴子の製作」なのか  
昨年度までの勤務校でよさこい踊りに出場しその鳴子を作っていたため。  
須崎ならではの教材にも今後取り組んでみてはどうだろう。
- ・時間的な課題  
技術家庭科の時数減に対して教える内容は増えている。「ものづくり」で何を教えるかの精選が必要である。
- ・のこぎりの歯の角度 15° ~ 30° なぜこの角度なのか。理由も教える。
- ・安全面  
糸鋸の作業 目が近い。立てって作業をさせた方がよいのでは。  
ベルトサンダー等を使う場合にはめがねをかけさせることも大切。  
体操服での作業が望ましい。

授業者の濱田先生ご苦労様でした。  
次回校内授業研は10月8日(水)、教科は理科です。  
宜しくお願いします。

## ⑤ 第 4 回 校 内 研 修 ( 授 業 研 究 )

### ア 事 前 検 討 会

#### 授業力向上のための校内研修に関する調査・研究 須崎中学校第 4 回校内研修事前検討会報告書

教 科	理科	内 容	化学変化とエネルギー
学 級	3 年 1 組	場 所	応接室
授業者	黒岩 範久		
実施日時	平成 2 0 年 1 0 月 3 日 ( 金 ) 1 6 : 0 0 ~ 1 7 : 3 0		参加者〔教育センターを除く〕 須崎中学校 3 名 ( 校長、研究主任、授業者 ) 須崎市教育研究所 2 名 〔教育センター：山岡チーフ、進司、藤田(記録)〕
<p>検討会の概要</p> <p>単元名 第 6 章 物質の化学変化の利用 2 節 化学変化とエネルギー ( 授業者より )</p> <p>○今回の授業では、実験を実施する。実験を通じて生徒どうしの学び合い、教え合いを大切にしたい。考察でその深まりがだせたらよいと考えている。クラスはおとなしい生徒と元気な生徒と 2 分されているが、体育祭を通じてまとまりができてきた。実験を通じ学級全体の雰囲気の高揚を目指したい。</p> <p>○「つなぐ」ための手立てとして</p> <p>①生徒と教材をつなぐ「導入でカードを準備し、想像を膨らませる。」「ワークシートの工夫」</p> <p>②生徒どうしをつなぐ「実験を通じ、生徒どうしの作業・助け合いを深める。( 6 班編成 )」 ( 教育センターより )</p> <p>①教科担当より</p> <p>○生徒 1 人 1 人の気付きを大切にしてもらいたい。話し合いだけでは、発言力のある生徒の意見中心になるので、まず個人が気付きを書きとめ、それをもとにグループで共有させることが重要である。</p> <p>○生徒どうしの教え合いの場面で、早くできた生徒が記述したものを、そのまま写すのではなく、自分の言葉で書かせるように指導をすることで理解が深まる。</p> <p>○実験を通して、「つなぐ」ための先生の働きかけ ( 具体的な手立て ) を、学習指導案に書き込んでもらいたい。</p> <p>②研究に向けて</p> <p>テーマ：「授業評価表の活用と、視点を明確にした授業参観により、職員の気付きを授業改善へつなげる」</p> <p>○授業評価表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価表の作成 ( グループ活動や、3 年生の課題を項目に組み込むとよい )</li> <li>・事前に 3 年 2 組で授業を実施し、生徒に授業評価をしてもらう。授業評価表を分析し、課題を確認。1 0 月 7 日に改善点を教職員に提示してもらいたい。</li> </ul> <p>○研究授業での視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 つの視点で授業をみる。( 例：抽出生徒・生徒と教材・生徒どうし・生徒と先生 )</li> </ul> <p>1 0 月 7 日にグループ分けと視点を教職員に伝えてもらいたい。</p> <p>○研究協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 つの視点ごとに協議。当日の授業評価表の集計結果 ( 授業後センターが集計 ) を参考にしてもらう。</li> </ul> <p>○学習指導案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つなぐ」ための、手立てを組み込むことで、授業参観の視点がはっきりする。</li> </ul>			
<p>所感</p> <p>今までの校内研修 3 回における研究協議は、学校側の進行であったが、今回は教育センターに任せられた。テーマを「授業評価表の活用と、視点を明確にした授業参観」と設定し、学校にいくつかの提案をしたが、助言を参考に、前向きに取り組んでいこうという回答を得た。研究主題に迫るための提案的な授業と位置付け、今後の須崎中学校での有意義な校内研修につなげていってほしい。</p>			

## 理科授業案

平成20年10月8日(水)第6校時  
3年1組25名(6班編成)  
授業者 黒岩 範久

1. 単元名 「6章 物質の化学変化の利用」  
2節 化学変化とエネルギー (教科書 大日本図書2分野下 P93 実験2)

## 2. 単元について

## (1) 教材観

科学の進歩により、人類は、さまざまなものをつくり出し、人々の暮らさを豊かにしてきた。現代は、電子機器をはじめとする多くの先端技術が、毎日の暮らしの中に入り込み、人々はそれを当然のように利用している。そのような科学技術の進歩の過程や原理は、一般には知られる機会が少なく、先端技術は一部の科学者によって、難解な研究の末に成り立っていると思っている人はおおいと思われる。しかし、身の回りにある便利な器具や装置は、電子機器などの介入によってより便利になったが、その原理としては、身近な事象を活用することで、開発されたことが多い。そのような身の回りにある多くの物質は、化学変化を利用することで便利なものとして利用されているのである。本単元では、普段利用している「かいろう」や「冷却剤」の原理を学習することで、化学変化は特別な事象ではなく、身の回りにある事象であり、身近なところで利用されている現実を理解させたい。

## (2) 生徒観

本学級は、元気で活発な生徒とおとなしく落ち着いた生徒に大分される。また、生育過程や家庭にしんどい思いを持った生徒も多くいる。活発な生徒は、行事や授業で中心となって周りをリードして活躍するが、自分勝手な言動や行動をとることがある。おとなしい生徒は、落ち着いて学習やいろいろな活動に取り組むが、活発な生徒におされて積極性にかけることがある。多くの生徒は、進学に向けて学習に取り組む姿勢が高まってきたので、この雰囲気をお手前にして、みんなが暮らしやすい学級をつくりあげたいと考えている。

## (3) 指導観

精神的な不安定さやコミュニケーション経験の不足から人間関係を上手につくることができず、ある一定の仲間とグループをつくることで自分の居場所を持っている生徒もいる。リーダー性を持った生徒もいるが、行事やレクリエーションではその力を発揮するけれど、一つにまとまるのには時間がかかる。協力して1つのことをやり遂げていく喜びを味わった経験が乏しいことも1つの原因と考えられるので、実験を通じて、レポート作成を班で協力して行うことで生徒間のつながりを深め、学級全体の雰囲気の高揚を目指したい。

## 3. 単元の目標

- 日常生活は、化学変化が起きる際に取り出されるエネルギーによって支えられていることを理解させる。
- 化学変化によって温度が変化する実験を行うことで、化学変化には熱エネルギーの出入りが伴われていることを見いだす。

## 4. 単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
<p>・化学変化で熱エネルギーをとり出す現象に関心をもち、身近な物質を反応させて熱エネルギーをとり出せるかどうか調べてみようとするとともに、いろいろな形で熱エネルギーが日常生活と関連していることを考えようとする。</p> <p>[行動観察・レポート・振り返り票]</p>	<p>・実験の結果から、熱エネルギーの出入りがともなう化学変化があることを見いだすことができる。</p> <p>[レポート・ペーパーテスト]</p>	<p>・目的に添った実験の操作を習得するとともに、安全操作についても身につけている。</p> <p>[レポート・ペーパーテスト]</p>	<p>・化学変化で熱エネルギーをとり出すしくみを理解し、知識を身につけている。</p> <p>[レポート・ペーパーテスト]</p>

5. 単元の指導計画 ( 10時間)

- (1) 酸化と還元 4時間 (2) 化学変化とエネルギー 5時間(本時 2/5)  
 (3) まとめ・章末問題 1時間

6. 本時の展開

(1)本時の目標

- ① 実験を通じて、かいろの発熱が、鉄の酸化であることを見いださせる。
- ② アンモニアの発生実験を通じて、化学変化には熱を奪うものもあることを理解させる。
- ③ 役割分担をして実験を行うことで協力する姿勢を育てる。

(2)評価規準

- ① 実験の予習をていねいにワークシートに書き、実験の手順を理解している。(意欲・関心・態度)
- ② 班で協力して実験を行うことで、学習内容の定着を図るとともに生徒同士の理解を深める機会としたい。(観察・実験の技能・表現)
- ③ 実験で得られたデータをもとに、実験の目的にせまる発見をする。(科学的な思考)

(3)「つなぐ」ための手立て

- ① 生徒と生徒をつなぐ・・・協力して実験を行う。
- ② 生徒と教材をつなぐ・・・実験を興味・関心をもって行うことができる。

(4)展 開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 (評価方法)	「つなぐ」 の視点
導 入	※実験の予習を見返して本時の実験方法を確認する。	・かいろと冷却材を示して実験の目的を説明する。 ・計量や器具について説明する。	・説明を顔を向けて聞く。(意欲・関心・態度)	②
	※ワークシート1の使い方を確認する。	・結果は自分の気付いたことを書くように指示する。 ・考察の欄の設問を意識して実験を進めることを説明する。  ・実験の担当を確認する。	・説明を顔を向けて聞く。(意欲・関心・態度)  ・実験の準備の確認をする。(技能・表現)	②  ①
展 開	※実験 A (発熱反応) ・ ワークシート1に予習している実験方法で実験を行う。	・ 巡視指導をして、支援を要する生徒の様子を把握し、必要な支援をする。 ・ 実験 A・B は順に行う。(準備したグループが実験を行う。)	・ 意欲的に実験に参加する。(意欲・関心・態度) ・ 実験の結果をワークシート1に記入する。(技能・表現) ・ 実験の結果の書き方を工夫する。(技能・表現)	①、②  ②  ②
	※実験 B (吸熱反応) ・ ワークシート1に予習している実験方法で実験を行う。  ※片付け方の説明	○ 役割分担をして片づけをする。	・ 自分の役割を果たして後片づけをする。(意欲・関心・態度)	①
ま と め	※実験結果をもとに考察を行う。	○ 最初に示したポイントを参考に実験の目的に添った考察を班で考える。	・ 実験結果をもとに起こった化学反応を考える。(科学的な思考)	①、②
	※「発展」のワークシート2の問いを考える。	○ ワークシート2を配布し、内容を説明する。	・ 補助的に使用した試薬の役割を考える。(科学的な思考)	②





ウ 校内研修計画書(研究主任作成)

## 校内授業研究

須崎市立須崎中学校

1, 期日 2008年 10月8日(水)

2, 時間の流れ、会場

14:15~14:25 終学活(短学活) 教室の拾い掃除

14:35~15:25 研究授業(3年1組) 理科室  
理科 「化学変化とエネルギー」

15:35~17:00 研究協議 図書室

3, 講師 高知県教育センター 山岡 チーフ 進司 指導主事  
藤田 指導主事 松岡 指導主事

4, 研究授業及び研究協議について

### 『生徒による授業評価表を活用する授業』

(1) 6日(月) 3年2組の授業をうけて、改善点や工夫する点および気をつける点  
(40ページ参考)

①「実験の結果がわかりにくかった」ということから、実験の結果をとるポイントを明示する。

②「先生に目をむけてもらっている」と感じていない生徒が30%ほどいたので、生徒への目配り、気配りを大切にしていく。

(2) 参観者はグループ別に、それぞれ参観する側の視点を決めそれに沿って授業参観し、研究協議を煮詰めていきます。(グループ分けと参観する視点は下表)

	参観する視点	教員名
Aグループ	視点① 教材と生徒をつなぐ	片岡、西尾、久米田、土居、川添
Bグループ	視点② 生徒と生徒をつなぐ	濱田、高松、安井、黒岩、井上、高橋
Cグループ	視点③ 教員と生徒をつなぐ	竹村、石村、坂山、別役、堅田
Dグループ	しんどい生徒の活動のようす	北村、西村、上野、多田、深瀬、山中

番号	質問内容	評価	人数	割合(%)
①	あなたは、今日の授業に意欲的に取り組みましたか。	4	10	43
		3	13	57
		2	0	0
		1	0	0
②	あなたは、友だちと協力したり、学びあったりできましたか。	4	12	52
		3	9	39
		2	2	9
		1	0	0
③	今日の授業の内容は分かりましたか。	4	6	26
		3	13	57
		2	4	17
		1	0	0
④	今日の授業を進める中で、友だちの意見は参考になりましたか。	4	9	39
		3	13	57
		2	1	4
		1	0	0
⑤	先生の質問や説明は分かりやすかったですか。	4	7	30
		3	15	65
		2	1	4
		1	0	0
⑥	先生の授業を進めるスピードはあなたにあっていましたか。	4	11	48
		3	11	48
		2	1	4
		1	0	0
⑦	先生は、授業中あなたのことを気にかけていると感じましたか。	4	5	22
		3	11	48
		2	7	30
		1	0	0
⑧	今日の授業は、あなたにとって楽しい授業でしたか。また、それはどうしてですか。わけも書いてください。	4	8	35
		3	11	48
		2	4	17
		1	0	0

⑧理由

<p>4 の 理 由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかりやすい</li> <li>・ 温度の変化をみれておもしろかった。</li> <li>・ みんなと協力して実験できた。(2)</li> <li>・ 実験楽しい。</li> <li>・ 将来役に立つかどうか分からないけど、この実験でいろいろ学ぶことができた。</li> <li>・ 実験をすることで実際にどういうことが起きているのかが分からなかった。</li> </ul>	<p>3 の 理 由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちょっとからだがしんどかった。</li> <li>・ 実験が楽しかった。</li> <li>・ 実験だったから。(2)</li> <li>・ 久しぶりの実験だったから。</li> <li>・ 実験は実際に目の前で現象が起こるので楽しいです。けれど、今日の結果は分かりにくかったです。(2)</li> <li>・ 答え(結果)が分からなかった。(2)</li> <li>・ 実験は好き。(2)</li> <li>・ 班の人と教えあったりできたので楽しかった。</li> </ul>	<p>2 の 理 由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全然書けなかった。</li> <li>・ 実験に取り組んだ。</li> <li>・ 実験難しかった。</li> </ul>
---	---	---

その他

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たまに実験があると楽しい。</li> <li>・ もうちょっとスピードをゆるめてほしい。</li> <li>・ 実験が2つあって大変だった。</li> <li>・ 実験は楽しいのでまたやりたい。</li> <li>・ 先生の授業はわかりやすい。</li> </ul>
--

## ウ 校内研修計画書（教育センター作成）

須崎中学校校内研修（第4回） 研究協議レジュメ

2008. 10. 8（水）

15:40～16:50

高知県教育センター

研究主題 『確かな学力を身につけた子どもを育む授業づくり』

※「つなぐ」を意識した授業づくり（生徒と教師、生徒どうし、生徒と教材）

### 1 センター挨拶・本日の協議テーマ及び進め方の確認（5分）

「授業評価表の活用と、視点を明確にした授業参観により、

みんなの気づきを授業改善につなげていこう」



### 2 授業者自評（5分）

「事前に考えた工夫・改善点または手立ては、本時の目標達成及び研究主題に迫るために効果的であったか。」

※授業評価表及び生徒の反応から振り返る

### 3 授業者への質疑・応答（5分）

### 4 視点別グループ協議（25分）

- ・抽出生徒
- ・生徒と教師がつながる
- ・生徒どうしをつなぐ
- ・生徒と教材をつなぐ

（協議題）

「授業者の工夫・改善点または手立ては、本時の目標達成及び研究主題に迫るために効果的であったか。また、次回の校内研修で、取り組むべきことは何か。」

（協議方法）

・各視点から、生徒の反応と、授業評価表の集計結果及び個々の記入結果を総合的に分析し判断・考察する。

### 5 全体での発表（各グループ3分×4＝12分）

### 6 全体での気づき（共通確認）（5分）

※他のグループ意見について（・私はちがうと思う。・その意見に同感。・こんなことに気付かされた。等）

全体から見えてきたこと

日々の実践に取り入れたいこと

等

### 7 授業者の改善方向（3分）

### 8 教育センターより（9分）

### 9 教育長・学校長より



エ 校内研修報告書（教育センター作成）

授業力向上のための校内研修に関する調査・研究  
須崎中学校第4回校内研修報告書

教科	理科	内容	化学変化とエネルギー
学級	3年1組	場所	理科室
授業者	黒岩 範久		
実施日時	平成20年10月8日（水）	参観者〔教育センターを除く〕	
授業	14:35～15:25	須崎中学校全教員、須崎市教育長、須崎市教育研究所（3名）	
研究協議	15:35～17:00	〔教育センター：山岡チーフ、進司、松岡マミ、藤田（記録）〕	
<p>授業の考察</p> <p>生徒25名を6班に編成し、実験を実施した。</p> <p>事前の授業で、実験の手順や注意、役割分担が徹底できており、スムーズに実験に取り組むことができていた。1人1人の気付きを大事にしながら、生徒どうしの学びあいや教え合いを通じて、班で協力してレポートを作成することを目標にしていた。</p> <p>10月6日に他クラスで同じ実験を行った。そこで、授業評価（生徒）を実施し、その結果から授業展開を振り返り、改善点・工夫する点を参観者に示して、臨んだ授業であった。</p>			
<p>研究協議での意見</p> <p>テーマ：「授業評価表の活用と、視点を明確にした授業参観により、みんなの気付きを授業改善へつなげていこう」</p> <p>（授業者より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他クラスで実施した授業評価表からの分析により、授業の改善点に気付き、準備に時間をかけた。授業でポイントとなる部分に気付くことができた。「先生に目をむけてもらっている」と感じていない生徒が少なくなったのは成果である。実験は3時間で計画しているが、難しい内容であるので、もう少し時間を取り、考察を深めていきたい。</li> </ul> <p>（視点別グループ協議）</p> <p>協議題：「授業者の工夫・改善点または手立ては、本時の目標達成及び研究主題に迫るために効果的であったか。また、次回の校内研修で、取り組むべきことは何か。」</p> <p>4つのグループに分け、それぞれの視点で協議を行い、全体への共通認識につなげ、研究主題に迫ることができた。</p> <p>①抽出生徒・・・班員の声掛けや、先生の支援が効果的な場面があった。（それぞれの生徒で説明）</p> <p>②生徒と教材をつなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目当てが、あらかじめ板書されている。（何について、どこまで）</li> <li>・ピペットの使い方の確認（実験器具の基本的操作）</li> <li>・この実験を通して、生徒に何を気付かせるのか。</li> <li>・温度の変化を読み取る（気付きと記録）⇒ 温度変化と体感（50℃でも十分に熱い）</li> </ul> <p>③生徒どうしをつなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒どうしの声かけや、関わりが少なかった。まとめの部分で生徒に発表させることなどをすれば、もっとつながると思う。</li> <li>・子どもどうしのかかわりをどのようにつくっておくか？</li> </ul> <p>④生徒と先生がつながる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導案には記述がなかったが、授業を成立させる一番のポイントである。全員が共通理解を持つことが大事である。</li> <li>・グループ作業（実験活動）の時に、5～6班にどのようにかかわるか。</li> </ul> <p>（頻度や重点）（評価と支援）（安全管理）</p> <p>（教育センターより）</p> <p>授業の中で生徒、教師、教材の相互のかかわりをどのようにつくるのか、そのためにはどのような準備が必要なのかを事前授業の分析から見出し、本時に活用することができた。</p> <p>本時に実験した化学変化自体は中学生には難解であるが、生徒の生活場面とのつながりを授業の最後に提示することで、身近なものへと引寄せることができた。</p> <p>生徒それぞれは、生徒どうし、生徒と教師とのつながり（支援と評価）を待っている。</p> <p>（声掛けと評価）</p>			

#### 全体を通しての所感

4回目の校内研修は、研究協議の進行を教育センターに任された。そこで、授業評価表の活用と授業参観の視点をテーマにおいた。与えられた1つの視点で授業をみることで、これまで気付かなかったところが見え、それを研究協議で他の視点で見たグループと発表しあうことで、より深まりのある研究協議につながった。また、授業者が、生徒の授業評価から、授業改善の視点を事前に教職員に示していたことも、授業参観のひとつの視点として生かされたようである。事前検討会で授業者、研究主任に研究の進め方についての案を示したところ、日程的に厳しい中、取り組んでいただいた。これからは、グループ研も始まる。授業づくり部会を中心に、評価項目の見直しなど、学校全体でよりよい方向へと進めていってほしい。

オ 校内研修のまとめ(授業づくり部会作成)

## 第4回校内授業研

日時 2008年10月8日(水) 6時間目(14:35~)

学級 3年1組

教科 理科

授業者 黒岩範久男

参加者 須崎中教員、小野教育長、須崎市教育研究所(3名)、県教育センター(4名)

事前検討会 10月3日(金)に実施

《今回の校内授業研について》

今回の校内授業研は、教育センターから助言をいただき、『生徒による授業評価表の活用と、視点を明確にした授業参観により、みんなの気づきを授業改善につなげていこう』をテーマに、授業後の協議も教育センターに進行をお願いし、授業研のステップアップをはかった。

(1) 事前の授業で授業評価表を使い、生徒の声から改善点や工夫する点および気をつける点を見いだす。

\* 6日(月)3年2組の授業をうけて、改善点や工夫する点および気をつける点

①「実験の結果がわかりにくかった」ということから、実験の結果を取るポイントを明示する。

②「先生に目をむけてもらっている」と感じていない生徒が30%ほどいたので、生徒への目配り、気配りを大切にしていく。

(2) 参観者はグループ別に、それぞれ参観する側の視点を決めそれに沿って授業参観し、研究協議を煮詰める。(グループ分けと参観する視点は下表)

	参観する視点	教員名
Aグループ	視点① 教材と生徒をつなぐ	片岡、西尾、久米田、土居、川添
Bグループ	視点② 生徒と生徒をつなぐ	濱田、高松、安井、黒岩、井上、高橋
Cグループ	視点③ 教員と生徒をつなぐ	竹村、石村、坂山、別役、堅田
Dグループ	しんどい生徒の活動のようす	北村、西村、上野、多田、深瀬、山中

《研究協議内容》

1, 授業者自評より

・実験Aで化学変化をするのが鉄のみということで、生徒にはわかりづらく、ヒントを伝えた。

・鉄がさびたことに気づいた生徒も数名いた。

・いろんなところに目を向けたつもりでも、勝手な行動をとる生徒もいた。

・じっと座ってられない男子生徒 → 今後ペアリングを考えたい。

・うまく温度が下がらない班もあり、次時に補足説明をする。

・活性炭や食塩の役割は、応用の部分であり次時に考えさせたい。

2, 授業者への質疑・応答

【質】評価表の⑦の項目(先生は、授業中あなたのことを気にかけていると感じましたか)が、今回評価が上がっているがどんな手立てをしたか。

【答】計量のと きなどに、助けるようにしたからではないだろうか。

【質】次時はどのような展開をえがいているか。

【答】カイロや冷却剤を実際にさわらせて、具体的なイメージを持たせる。また、化学式にもつなげたい。

3, グループ協議 → 発表 (下記は各グループが模造紙に掲示した内容)

Aグループ 教材と生徒をつなぐ

準備がよい。

- ・使用薬品の名前の掲示 (日本語+化学式)
- ・前時の学習が生きていた。
- ・必要以上に教員が準備しない。→ 生徒に実験器具を使用させる。

授業について

- ・二人で一実験。
- ・時間配分
- ・レポートの記入の仕方 (温度の変化)
- ・ポイントの説明

質問

- ・次時のイメージ

Bグループ 生徒と生徒をつなぐ

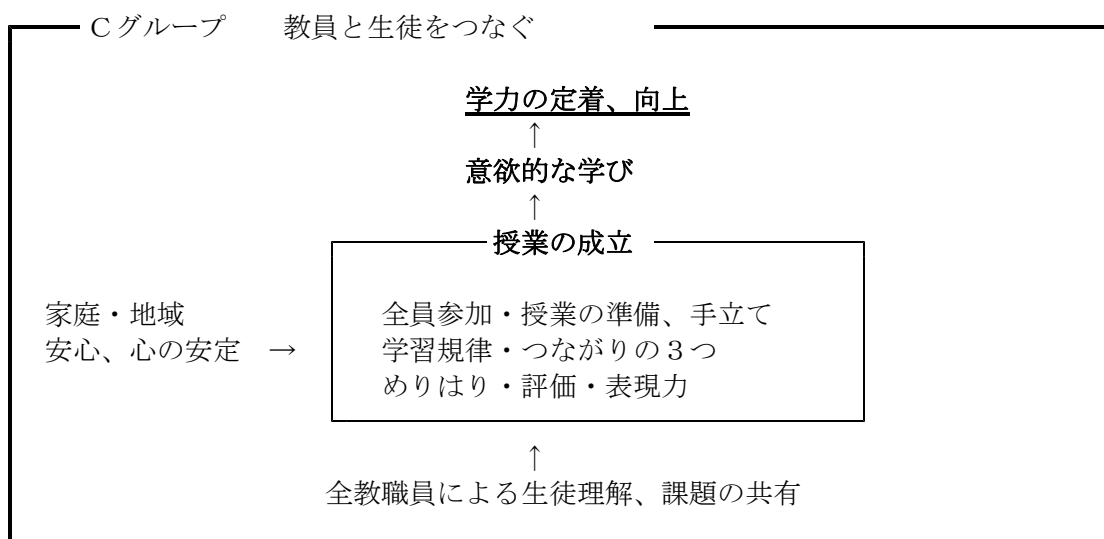
○生徒同士の声かけ関わりが少なかった。

- ・体感させる
- ・班長の役割 3班 good

○まとめの場面での関わらせ方

- ・発表
- ・議論

他の班の発表を聞く → 他の班から気づく



Dグループ しんどい生徒の活動のようす

- Y 今日のポイント  
TKが支援。しかしビデオカメラに興味 ←Aがつれにきた。素直について行く  
黒岩先生・・・ニコニコしながら注目、声かけ
- R 参加し班にとけ込んでいた。準備等の役割を果たしていた。  
本人「これだけ楽しかったらちゃんとうけるかもね」 楽しかったのでは・・・
- M 本日頑張ると宣言  
考察のとき一番学んでいた。  
疑問→「質問がある」→「あ、そうか」理解  
本人「みんなと協力してできたところが楽しかった」
- T i ・ Y u 今日は頑張っていた  
日によってムラがある。→ 最近は落ち着いている。
- T u ・ K e 他教科でも無気力のように見える。要注意
- 『進路』 意識かをはかる  
意識しはじめた生徒は、変化が出てきた

4, 授業者の改善方向

- ・自分の授業と他の授業で態度が異なる生徒に気づき、今後支援をしていく。
- ・授業の準備の大切さを改めて確認できた。

5, 高知県教育センターより

- ・今回の実験の内容と最終目的が明示されていたのでスムーズに作業に取り組めた。
- ・そのため生徒に十分関わることができた。
- ・内容的にはやや高度な内容であった。
- ・温度やにおいなど危険でない限り体感させることが大切。
- ・今日参観者から出された意見をどう授業にいかしていくのが大切。
- ・他のクラスの授業の反省をもとにして、子どもに関わることに重点を置くために、時間を捻出するための準備をしていた。

6, 研究所より（教育長のお話として堅田所長が発言）

- ・教師の指示や指導が入り出した。また、自然な形でのTTが生まれていた。



須崎中学校の教師力の向上

- ・M君の表情が引き締まった。 → 自尊感情の芽生え
- ・温度計の数は少ないのは → 見やすいのは各班1本ずつ

7, 学校長より

- ・楽しく積極的に子どもたちが授業に参加していた。
- ・いろんな考え方があがるが、研究授業において参観者の学習者への関わりは、須崎中においては他教科の学習にも生きてくるのでいいのでは。

**授業者の黒岩先生ご苦労様でした。**

次回校内授業研は11月12日（水）、教科は国語です。

次回の校内授業研も、『生徒による授業評価表の活用と、視点を明確にした授業参観により、みんなの気づきを授業改善につなげていこう』をテーマに行います。

宜しくお願ひします。



## ⑥ 第 5 回 校内 研修 (授 業 研 究)

### ア 事 前 検 討 会

#### 授業力向上のための校内研修に関する調査・研究 須崎中学校第 5 回校内研修事前検討会報告書

教 科	国語	内 容	「論語」
学 級	2 年 2 組	場 所	応接室
授業者	石村 祐子		
実施日時	平成 2 0 年 1 1 月 6 日 (木) 1 5 : 1 5 ~ 1 6 : 5 0		
	参加者〔教育センターを除く〕 須崎中学校 3 名 (研究主任、授業者、国語担当) 須崎市教育研究所 2 名 〔教育センター：松岡マミ、進司〕 (記録)		
<p>検討会の概要</p> <p>1 研究協議に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回 (4 回目：理科) の授業研修報告書の提示</li> <li>・ 5 回目 (国語) の研究授業についても、視点別グループでの授業観察を実施</li> <li>・ 学習に関して” しんどい” 生徒として、6 名を挙げた。</li> <li>・ 1 2 日 (水) 当日のセンターからの参加者について、第 8 回チーム会確認事項で確認。</li> </ul> <p>2 研究授業に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、「古典」の領域の学習が終了し、授業評価を取ったところ。 生徒は、比較的静かに聞くことができているが、中には音読指導の際には面倒がる生徒もいる。また、歴史的仮名遣いの基礎が定着していない生徒も少数ではあるが、いる。</li> <li>・ これから「漢文」の領域に入り、教材の「論語」について扱っていく。 1 年次で、故事成語の” 矛盾” を取り扱っている。 この単元は教科書会社の指導書において 2 時間扱いとなっているが、選択国語の時間数を加え、5 時間扱いとする。 ・ 事前に学習指導案が提示されていたが、授業者は単元計画について検討中であり、主事の意見を参考に、授業計画を見直すということであった。(「漢文を味わわせること」と「漢文の白文から音読、訓読書き下し文」等の基礎の学習順序について)</li> <li>・ その他 (主に以下の内容を国語科より助言した)           <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 参考図書の紹介 (導入の工夫・「論語」を身近なものにするため)</li> <li>イ 評価規準の精選及び学習の展開の見直し (受容→考える→書く→発表を中心に置くため)</li> <li>ウ 参考資料の精選及び提示の工夫 (生徒の思考を活発にするため)</li> <li>エ 分かりやすい文章に書き直す (主語を補ったり、語彙を解釈したりすることで語彙の理解力を促すため)</li> </ul> </li> </ul> <p>3 教育センターより</p> <p>学習指導案において「つなぐ」の視点から授業評価の記述は、ペア学習での読み合わせの 1 点のみであったが、生徒どうしが考えたことを共有しあう部分に修正した。また、いろいろなところで「つなぐ」手立ての取組が可能であるので、それに対する教師の手立てについて記述して欲しいと述べた。</p>			
<p>所感</p> <p>第 4 回の校内研修で教育センターが示した手法を用いて、研究協議を学校側が行う。参観の視点を明確にするために、学習指導案には、より明確に「つなぐ」手立てを記入してもらうことの確認ができた。それにより研究協議が深まることと期待している。</p>			

## イ 学習指導案

### 第2学年 国語科授業案

日 時：2008年11月12日（水）第6校時  
対 象：2年2組33名（男子16名 女子17名）  
場 所：2年2組教室  
授業者：石村 祐子（須崎市立須崎中学校教諭）

#### 1. 単元名 第4単元「古典を楽しもう」

#### 2. 教材について

(1) 教材名 「論語」『為政篇11』・『為政篇15』・『衛霊公篇21』（東京書籍） \*発展教材

#### (2) 単元（教材）観

本単元では、古典の名句や名文に触れ、古文のリズムや特徴を読み味わうとともに、古人のものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすることをねらいとしている。

「論語」は、春秋戦国時代の魯の国の思想家・孔子とその弟子たちの言行録である。日本には、285年に百済の王仁（わに）が来朝し、伝えたとされており、その後、大学寮等において必須の学問となるなど、「論語」は早くから必須の教養とされてきた。江戸時代に入り、朱子学（儒教）の官学化・教育の普及等により、「論語」の教えは庶民にも広がっていった。

今から2500年以上も前の時代の思想家の言葉であるが、簡潔な文章の中に、現代の日本人にも通じるものが多くあり、生徒も興味を持って学習できると思われる。

#### (3) 指導観

漢文の学習は、1年で「矛盾」の書き下し文をはじめとして、いくつかの故事成語について学習しているが、本格的な訓読文については本教材が初めての学習となる。教科書に採択されている「論語」の一節は、生徒にも理解しやすい内容であると思われる。特に『衛霊公篇21』は共感しやすい内容であると思われる。

『衛霊公篇21』とテーマの類似した「君子」「小人」について述べた複数の章段を学習することで、孔子のものの見方、考え方が読み取りやすくなると考え、発展教材として用いることにした。

本学級の生徒は、明るく活発な生徒が多いが、単調な授業や難しい内容になると集中力が途切れがちな生徒もいる。基礎的な事柄を丁寧に指導するとともに、生徒の活動をできるだけ多く取り入れ、漢文学習の楽しさや面白さに気づかせたい。また、「論語」の他の章段にも興味を持たせたい。

#### 3. 単元（教材）の目標

- ・歴史的仮名遣いや漢文独特のリズムに注意し、書き下し文・訓読文を正確に音読できる。
- ・孔子のものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げる。

#### 4. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・意欲的に漢文を音読しようとしている。 ・孔子のものの見方や考え方を自分なりにとらえようとしている。	・漢文の特徴に注意して読んでいる。【Cウ】 ・孔子の考える「君子」「小人」とはどんな人物かを読み取り、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。【Cエ】	・古語の意味や漢文の特徴を理解している。【(1)イ】

#### 5. 授業計画（全5時間）

- (1) 「論語」・「孔子」のあらましについて知り、書き下し文を正確に音読できるようになる。 ……1時間
- (2) 『為政篇11』『為政篇15』『衛霊公篇21』を読み、内容のあらましをとらえる。 ……1時間
- (3) 『衛霊公篇21』及び類似するテーマの他の文章を読み、孔子のものの見方・考え方をとらえる。 ……1時間〔本時〕
- (4) 漢文の基礎（白文・訓読文・書き下し文・訓点・置き字 等）について学ぶとともに、自分の気に入った文章を暗唱する。 ……2時間

6. 本時の展開 (3/5時間)

(1) 本時の目標

- ・ 孔子のものの見方・考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げる。

(2) 観点別評価規準

- ・ 孔子のものの見方・考え方をとらえようとしている。
- ・ 孔子の考えと自分の体験とを比較しながら、自分の考えを書こうとしている。

(3) 「つなぐ」ための手立て

- ①生徒と教材をつなぐ → ・本時のねらいを明らかにする。  
・できるだけ平易な現代語訳で、抵抗感の少ない資料を用意する。
- ②生徒と生徒をつなぐ → ・他の人の意見を聞き合うことで、自分の考えを深めるようにする。
- ③生徒と教員をつなぐ → ・机間指導を適宜行い、つまづいている生徒に援助する。

(4) 準備物

「参考資料No.2」(「論語」の他の文章のプリント・現代語訳付き)・「ワークシートNo.1」

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価方法	「つなぐ」の視点
導入 3分	○学習準備の確認をする。 ○本時の学習内容を確認する。	・「孔子のものの見方・考え方を読み取ること」を伝える。	・観察	①
展 開 40分	○『衛霊公篇21』を音読し、比較されているものをとらえる。 ◎孔子のものの見方・考え方を読み取る。 ○「君子」「小人」について述べた他の文章①～⑥(現代語訳)を読む。  ○「君子」「小人」についての孔子の考えを読み取る。 ・ワークシートにまとめる。  ・他の人と意見を交換し合う。  ◎印象に残った文章を選び、孔子の考えに対する自分の考え・感想を書く。	・「君子」と「小人」が対句で表現されていることをおさえさせる。  *「参考資料No.2(現代語訳付き)」を配布する。  *「ワークシートNo.1」を配布し、説明する。 ・孔子の理想とする人物はどういう人であったのかを考えさせる。  *分からない場合は、他の人の意見を参考にしてもよいことを知らせる。  ・自分の体験と比較しながら書くようにさせる。 *書けない生徒には、机間指導で書き方のパターンを示す。	・観察   ・ワークシート ・観察  ・ワークシート	③   ①  ③  ②  ③
まとめ 7分	○発表する。 ○次時の予告を聞く。	・自分の考えと比較しながら聞くようにさせる。 ・次時は漢文の基礎知識について学習する。  *授業振り返りシート(評価表)を書く。	・発表	②

国語科 授業振り返りシート

2008年11月 日

2年 組 氏名 ( )

授業をより良くしていくために、先生の「論語」の授業について質問します。  
あなたの答えの記号を○で囲んで下さい。

1 先生の説明はわかりやすかったですか。

A	B	C	D
わかりやすい		わかりにくい	

2 活動や発表の場面がありましたか。

A	B	C	D
あった			なかった

3 自分で考える時間が充分ありましたか。

かな

A	B	C	D
あった			なかった

4 歴史的仮名遣いに注意して、書き下し文を読むことができましたか。

A	B	C	D
できた			できなかった

5 漢文特有の言い回しに注意して、書き下し文を読むことができましたか。

A	B	C	D
できた			できなかった

6 現代語訳をもとに、孔子の考えを読み取ることができましたか。

A	B	C	D
できた			できなかった

7 漢文の授業に対する意見を書いて下さい。

ウ 校内研修計画書(研究主任作成)

## 校内授業研究

須崎市立須崎中学校

1, 期日 2008年 11月12日(水)

2, 時間の流れ、会場

14:15~14:25

終学活(短学活)教室の拾い掃除

14:35~15:25

研究授業(2年2組) 2年2組教室

国語 単元名 第4単元「古典を楽しもう」

15:35~17:00

研究協議 図書室

3, 講師 高知県教育センター

山岡 チーフ

池澤 指導主事

藤田 指導主事

松岡 指導主事

4, 研究授業及び研究協議について

### 『生徒による授業評価表を活用する授業』

(1) 生徒による授業評価をうけて、改善点や工夫する点および気をつける点

(52ページ参考)

「もう少しゆっくり授業を進めて欲しい。」

↓

自分で考える時間が充分にとれていないと感じた生徒も多く、それが孔子の考えを読み取ることができなかつた原因とも考えられる。

そこで、

**生徒自身が教材とじっくり向き合う時間を十分に確保したい。**

(2) 参観者はグループ別に、それぞれ参観する側の視点を決めそれに沿って授業参観し、研究協議を煮詰めていきます。(グループ分けと参観する視点は下表)

	参観する視点	教員名
Aグループ	視点① 教材と生徒をつなぐ	片岡、高松、深瀬、井上、川添
Bグループ	視点② 生徒と生徒をつなぐ	濱田、坂山、黒岩、土居、高橋
Cグループ	視点③ 教員と生徒をつなぐ	竹村、西尾、上野、安井、別役、山中
Dグループ	しんどい生徒の活動のようす	北村、西村、久米田、多田、堅田、

(3) 研究協議 司会(黒岩) 記録(北村) 映像(上野、竹村)

①自評

②質問(あれば)

③協議 → 発表 (上記グループ別)

④グループの発表について何か意見は

⑤授業者の改善方向

⑥教育センターより

⑦まとめ (研究主任)

\*高知女子大学(先生と学生数名)が授業を参観します。

回答数27

番	質問内容	評価	人数	割合(%)
①	先生の説明はわかりやすかったですか。	A	5	19
		B	14	52
		C	7	26
		D	1	4
②	活動や発表の場面がありましたか。	A	4	15
		B	11	41
		C	8	30
		D	4	15
③	自分で考える時間が十分ありましたか。	A	3	11
		B	16	59
		C	6	22
		D	2	7
④	歴史的仮名遣いに注意して、書き下し文を読むことができましたか。	A	6	22
		B	13	48
		C	6	22
		D	2	7
⑤	漢文特有の言い回しに注意して、書き下し文を読むことができましたか。	A	4	15
		B	15	56
		C	6	22
		D	2	7
⑥	現代語訳をもとに、孔子の考えを読み取ることができましたか。	A	4	15
		B	13	48
		C	9	33
		D	1	4

#### 漢文の授業に対する意見

- もう少しゆっくり授業をしてほしい。自由がほしい。
- プリントの解説がわかりやすかった。
- 非常に面白いです。
- 古文は読めだしたらおもしろいってことに気づきました。もっといろんな古文を勉強してみたいです。
- 授業の数が多いい。
- 難しいけれどやっていたら面白い。
- 難しそうだと思っていたけど、意外と簡単だった。
- 先生は詳しいからだいたいわかりやすい。
- 古文や論語は難しいです。けど、いろんな昔の物語が知れて楽しい。
- 難しかった。
- 書き下し文が読みづらい。
- あまりわからん。スピードが速い。

エ 校内研修報告書（教育センター作成）

授業力向上のための校内研修に関する調査・研究  
須崎中学校第5回校内研修報告書

教科	国語	内容	「論語」
学級	2年2組	場所	2年2組教室
授業者	石村 祐子		
実施日時	平成20年11月12日(水)	参観者〔教育センターを除く〕	
授業	14:35～15:25	須崎中学校全教員、須崎市教育長、須崎市教育研究所(3名)	
研究協議	15:35～17:00	〔教育センター：山岡チーフ、松岡マミ、池澤、藤田(記録)〕	
<p>授業の考察</p> <p>教材は「論語」である。ここでは、2学年で初めて扱う返り点や書き下し文などをメインとすることが多いが、本時の授業では、「論語の楽しさを生徒に味合わせたい」という目標で授業計画を立てていた。この、古典教材をどう人生に生かしていくことができるかを生徒に考えさせようという提案性のある授業であった。ワークシートについて、事前検討会でのアドバイスを取り入れ、いかに論語を楽しむことができるのかを考えたものを作成することができていた。書かせるためのヒント集を作成し、それをもとに書く時間を十分にとることはできていたが、内容が多く、他の生徒の意見から、自分の考えを深めるところまではいかなかった。</p>			
<p>研究協議での意見 (授業者より自評)</p> <p>扱う分量が多かった。6つの論語を扱ったが、4つくらいにしよれば良かった。ワークシートの1について、読解力のある生徒は自分の言葉で簡潔に書けていたが、苦手な生徒には厳しかった。全体の流れをワークシートの2までとし、次時にみんなの意見を紹介し、3につなげていけば良かった。事前検討会で、書くことが難しい生徒に、ヒント集を作成すればどうかとアドバイスをいただき用意をしたところ、書くことが苦手な生徒が取り組むことができていた。底上げにつながる感じた。授業の山場をどうやって作ればいいのかを教えてもらいたい。</p> <p>(質問) ワークシート1に15分間取り組ませていたが、予定通りであったのか。</p> <p>(授業者) 10分を予定していたが、生徒の状況から延長した。</p> <p>(視点別グループ協議)</p> <p>①生徒と教材をつなぐ          毛筆で書かれた掲示物やワークシートが効果的であった。君子と小人についての説明がいろいろあったので、徹底すればよい。ワークシートの1から2への取りかかりがわかりにくかった。1については、できている生徒の例を紹介すれば、苦手な生徒の参考になる。</p> <p>②生徒どうしをつなぐ          内容が多く、一緒に考えたり意見を交換したりする時間が少なかった。班活動をとりいれてはどうか。授業の後半になって、生徒の取り組んでいるところが違っていた。焦点がぼけてしまった。今何をすべきか、メリハリを付けることが山場につながっていくと思う。</p> <p>③生徒と教師がつながる          ゆっくりと丁寧に話すことで、生徒の理解につながっていた。机間指導により、最初は何をやればいいのかかわからなかった生徒も取り組むことができていた。発表者には、拍手をすればよかった。自分の意見が認められたという気持ちになる。抑揚のある話し方で、授業の山場ができていた。</p> <p>④しんどい生徒の活動の様子          学級担任として、研究授業に入る前の学活で授業に臨む姿勢を確認した。どの生徒も精一杯取り組むことができていた。今日の生徒の姿が本当の姿だと思って、教員がもっともっと、生徒にやらせていくことが必要であると感じた。できる・分かるといった実感を持つことが少ない生徒が多い。発表した生徒には、ほめることをやっていきたい。</p>			

(教育センターより)

事前検討会での、ワークシートや資料は、生徒が分かりやすいものにしたかどうかというアドバイスを受けて、字を大きくしたり表現を生徒用に分かりやすいものに書き換えたりするなどの工夫が見られた。書くことが苦手な生徒が多い。考えさせることと、書かせるということをしていないといけない。生徒を「鍛える」ということをしなければならない。書いたことを評価して、考えさせるということが必要である。国語の授業だけでなく、子どもに見つけさせて、考えさせて、書かすということは他教科の授業にも生かしていってもらいたい。各教科の特性に応じた「書かす」に取り組んでもらいたい。そのために、まずは書かせるためのヒント集の作成など、段階を踏んで鍛えていけばよい。

時間を意識し、ワークシートの1は君子の記入だけで2に進んだが、小人の読みとりも欠かせないところである。

論語は4つくらいにしても良かった。量を少なくして、達成感を持たせていけばよい。

(授業者より)

生徒どうしをつないだり、他の生徒の意見を聞かせたりするための学習規律を付けることが自分自身課題である。班活動を含め、取り組んでいきたい。

(他の教員より)

生徒がこんなにできるのだということがわかった。我々教員が、準備や教材研究をしっかり行うことで生徒の力を引き出すことができる。

(他の教員より)

授業には準備が必要であり、確かな教材研究により、生徒を引きつけることができるということを感じた。学校の良い雰囲気が、生徒にも伝わり授業につながっていくと感じた。

(学校長より)

子どもの力が引き出せた授業であった。がんばった生徒をほめてやってもらいたい。

全体を通しての所感

第4回と今回の間に、教育センターが授業づくり部会にはいり、校内研修の在り方についての提案を行った。第4回に教育センターが示した手法をベースにしたものであったが、学校側がその手法に沿って実際に進めていくことで、須崎中学校の校内研修の持ち方の確立につながっていくと感じた。学習指導案に、「つなぐ」手立てが明確に示され、事前の授業評価の結果から改善点を提示することで、授業参観の視点が明確になり、視点別協議が深まる。今回は、最後に研究主任が成果と課題を確認し、明日からの取組みを共通確認したことが大きな前進である。日々の授業の中に生かしていくことにより研究主題にせまることができると期待している。



オ 校内研修のまとめ(授業づくり部会作成)

## 第5回校内研修

日時 2008年11月12(水) 6時間目(14:35~)  
学級 2年2組  
教科 国語  
授業者 石村祐子  
参加者 須崎中教員、小野教育長、須崎市教育研究所(3名)、県教育センター(4名)  
高知女子大学(先生他学生2名)  
事前検討会 11月7日(金)に実施

《今回の校内授業研について》

今回の校内授業研は、第4回校内授業研に引き続き、『生徒による授業評価表の活用と、視点を明確にした授業参観により、みんなの気づきを授業改善につなげていこう』をテーマに、授業後の協議も進行や記録等の役割も従来からメンバーチェンジし、授業研のステップアップをはかった。

- (1) 生徒による授業評価をうけて、改善点や工夫する点および気をつける点  
「もう少しゆっくり授業を進めて欲しい。」



自分で考える時間が充分にとれていないと感じた生徒も多く、それが孔子の考えを読み取ることができなかった原因とも考えられる。

そこで、

**生徒自身が教材とじっくり向き合う時間を十分に確保したい。**

- (2) 参観者はグループ別に、それぞれ参観する側の視点を決めそれに沿って授業参観し、研究協議を煮詰めていきます。(グループ分けと参観する視点は下表)

	参観する視点	教員名
Aグループ	視点① 教材と生徒をつなぐ	片岡、高松、深瀬、井上、川添
Bグループ	視点② 生徒と生徒をつなぐ	濱田、坂山、黒岩、土居、高橋
Cグループ	視点③ 教員と生徒をつなぐ	竹村、西尾、上野、安井、別役、山中
Dグループ	しんどい生徒の活動のようす	北村、西村、久米田、多田、堅田、

《研究協議内容》

### 1. 授業者自評より

- ・普段とあまりにもちがう生徒の態度にこちらが緊張した。
- ・学習内容が多すぎた。ワークシートの2番までをじっくり考えさせ、3番以降は次時にすればよかった。
- ・ワークシートが書けない生徒にヒント集を配った。→2番の設問がかなり書けた。
- ・今回の授業において、さらにより良い山場の設定はどのようなものがあるか、教えて欲しい。

## 2, 授業者への質疑・応答

【質】ワークシートにまとめるのに15分以上かかったが、予定どうりだったのか。

【答】約10分の予定だったが、書けていない生徒が多かったので延長した。

生徒が教材とじっくり向き合う時間を確保したいため。

## 3, グループ協議 → 発表 (下記は各グループが掲示した模造紙をもとに発表した内容)

### Aグループ 教材と生徒をつなぐ

- ・ワークシートに取りかかるはじめに板書があればよかった。  
『君子とは……』『小人とは……』のように板書ではっきりさせてからワークシートに入っていけばよかったのでは？
- ・他の生徒の意見を聞く場面があれば、目標の「考え方を広げる」につながったのではないだろうか。

### Bグループ 生徒と生徒をつなぐ

内容が張りすぎていたが生徒は集中できていた。

↓

生徒同士の関わりは少なかった

↓

班での活動を取り入れたらよかった → 全教科で取り組む。

### Cグループ 教員と生徒をつなぐ

- ・授業のスタートがよかった。 → 5時間目にいい雰囲気づくりができていた。
- ・授業者の話し方がゆっくりしていて、聞き取りやすかった。
- ・ワークシートの書き方を理解できていない生徒もいたが、机間指導によりフォローできていた。
- ・ペアでの学習を仕組みればよかったのではないだろうか？
- ・T君が発表した後、拍手等でドラマチックに評価したらよかった。

### Dグループ しんどい生徒の活動のようす

- ・授業が始まる前に10分程度かけて担任が席に着かせ、準備をした。生徒の方から「服装をきちんとしよう」などの声かけがあった。
- ・普段落ち着きのない生徒も全然目立たず、これ以上ないくらい頑張っていた。姿勢もよかった。
- ・「できる」という実感や、ほめられることがあまりないので、達成感を持たせる指導が必要でもある。

#### 4, 授業者の改善方向

- ・班活動やグループでの活動を通じて、友だちの意見を聞く活動を仕組む。
- ・肯定的な評価、ドラマチックにほめること。

#### 5, 高知県教育センターより（松岡指導主事）

今回、授業者は論語を楽しんでもらいたいと思ってこの教材を選んでいる。それは事前の協議からも伺えた。子どもたちに考えさせて書かせようとしたことは、他の教科の先生にもたいへん参考になる内容であった。ワークシートにも細やかな手立てがみられる。

「考えさせる＝書かせる」書くことを鍛えることは、どの教科にも通じる。

生徒の実態を掌握してのヒント集もよい。

時に学習量を少なくして達成感を持たせる

↓

生徒の学習へのモチベーションを上げる

#### 6, まとめ（研究主任）

- ・授業評価表の活用 → 授業改善
- ・授業を参観するときの視点を明確にしよう
- ・それぞれの授業研での気づきを今後の日々の授業に活かしていこう

#### 7, 学校長より

- ・いろいろな場面において教師が仕掛けをしていくことが大切
- ・子どもが頑張ったとき、本人が納得できるようにほめることが次につながる

授業者の石村先生ご苦勞様でした。

次回校内授業研は1月21日（水）、教科は音楽です。

事前の検討会は1月16日（金）に行います。

次回の校内授業研も、『生徒による授業評価表の活用と、視点を明確にした授業参観により、みんなの気づきを授業改善につなげていこう』をテーマに行います。

宜しくお願いします。



## ⑧ アンケート集計結果・考察

### ア はじめに

調査・研究を進めるに当たっては、まず、実態から課題を探り、具体的な取組を考えていく必要がある。また、取組後の変容によって見直しをする必要もある。まさにPDCAサイクルに則って進めるために、7月と2月の2回、教員と生徒に対してアンケートを実施した。

実施に当たっては、昨年度との比較という視点から同じものを使用する予定であったが、本年度の研究の進捗状況等から設問項目等に修正の必要が生じ、プロジェクトチームで検討のうえ、作成し直して実施した。

教員用のアンケートの設問43項目は、昨年度と比較をするために同じ設問項目とした。さらに、調査・研究の最終年度ということで「校内研修」についての項目を3項目追加し、全部で46項目とした。

生徒用については、生徒が答えやすいように項目数や文言を改変するだけでなく、自己評価に関して、6項目を追加した。さらに、「先生の質問は、わかりにくい。」、「私は、授業開始のチャイムが守れていない。」といった逆転項目を取り入れることにより、その項目の結果からアンケートの信頼性・妥当性を得ることができた。

また、教員と生徒との意識の差異を知るために、教員の項目と対照になるように生徒用の項目を21項目作成した。また、自己評価に関しては、6項目を追加した。教員用と生徒用の項目数の違いは、「教材解釈・教材開発」、「指導と評価の計画と改善」等の項目が教員のみになっているためである。そして、どちらにも記述による回答項目を設け、4件法だけでは窺い知ることのできない本音までを知るように努めた。あくまでも自己評価ではあるが、生徒、教員ともに4件法の集計、記述もすべて拾い上げて集計しており、それぞれの変容、そして生徒と教員との意識のずれ等、多角的な視点で分析し、考察することができた。

次に、アンケートの集計結果と考察について挙げる。アンケートの様式は、資料として挙げている。〈資料（3）参考〉

## イ 集計結果

第1回実施 教員：平成20年7月9日（水） ・ 生徒：平成20年7月14日（月）（169名）

第2回実施 教員：平成21年1月28日（水） ・ 生徒：平成21年2月4日（水）（168名）

### 「授業力向上のための校内研修に関する調査・研究に係るアンケート」

#### 教員

	番号	項 目	平均(第1回)	平均(第2回)
使命感、熱意、感性	1	授業改善を目指し、取り組んでいる。	3.1	3.3
	2	学習のねらいを生徒に達成させようとしている。	2.8	3.3
	3	教材研究を行って授業に臨んでいる。	2.6	3.2
	4	ものごとに対する幅広い関心をもっている。	2.7	3.2
	5	心と体の調子を整えて授業を行っている。	2.2	2.7
	6	明るく前向きに生徒に接している。	2.8	3.0
	7	学習にふさわしい環境づくりを心がけている。	3.1	3.2
生徒理解	8	生徒一人一人の学習意欲を把握している。	2.9	3.2
	9	生徒一人一人の本時の学習の達成状況を把握しようとしている。	2.8	3.1
	10	生徒一人一人のこれまでの学習状況を把握している。	2.6	3.1
	11	生徒一人一人の発達段階、友達関係、家庭状況等を把握している。	2.8	3.0
	12	生徒一人一人に気を配り、言葉かけをしている。	2.9	3.0
	13	生徒の発言や行動を受け止めている。	3.1	3.3
統率力	14	生徒の反応や変容に気付き、授業に生かしている。	2.9	3.1
	15	学習意欲を高めることを意識して声かけをしている。	3.0	3.3
	16	基本的な授業規律を定着させている。	2.3	2.9
	17	的確な指示を出して集団を動かしている。	2.7	2.8
	18	学習のねらいを明確に示し、学習に見通しをもたせている。	2.6	3.1
	19	学習状況に応じて適時・的確な判断を行っている。	2.8	3.2
指導技術	20	生徒に学習の準備についての的確に指示している。	3.1	3.5
	21	学習のねらいを生徒に明確に示している。	2.7	3.3
	22	個に応じた指導を行っている。	2.7	2.9
	23	生徒の主体的な学習を促す工夫を行っている。	2.6	2.9
	24	教材・教具を効果的に活用している。	2.9	3.0
	25	発問の工夫をしている。	2.6	2.9
	26	生徒の反応を生かしながら授業を構成している。	3.0	3.1
	27	分かりやすい説明をしている。	2.9	2.9
	28	効果的な板書をしている。	2.8	3.0
	29	授業のまとめを工夫している。	2.4	2.7
教材解釈、教材開発	30	教科等の専門的知識を深めている。	2.7	3.3
	31	日頃から教材に関連する幅広い情報を収集している。	2.7	3.1
	32	学習のねらいを明確に把握して教材解釈や教材開発をしている。	2.9	3.1
	33	生徒の実態を考慮して教材解釈や教材開発をしている。	2.7	3.1
	34	学校・地域の特色を考慮して教材解釈や教材開発をしている。	2.0	2.3
	35	生活との関連を意識して教材解釈や教材開発をしている。	2.6	2.7
	36	生徒に興味・関心をもたせるための教材解釈や教材開発をしている。	2.3	2.6
指導と評価の計画の作成・改善	37	時数、活動内容、学習形態等の指導計画を立てている。	2.5	2.5
	38	評価する場面や方法を明確にした計画を立てている。	2.6	2.7
	39	計画を立てる際に生徒の実態を考慮している。	2.9	2.9
	40	計画に基づき、生徒の評価を行っている。	2.8	3.3
	41	指導計画が適切であったかを振り返っている。	2.1	2.3
	42	評価計画が適切であったかを振り返っている。	2.0	2.7
	43	振り返りを基に、問題点を明確にして次の計画に生かしている。	2.1	2.7
校内研修	44	校内研修は、全員が積極的に参加している。	3.4	3.7
	45	それぞれの校内研修は、焦点化されたつながりのあるものとなっている。	3.4	3.6
	46	校内研修を進めるうえで、教育センターの支援・助言は参考になる。	3.2	3.5



第2回アンケート結果（記述）集計結果 ※教員 平成21年1月28日（水）実施

6回の授業研究を通じた校内研修は、あなたの授業力向上にとって効果的でしたか。

- ・教科によって変わる生徒の変化（発言・協力・感想など）を自分の授業時にプラス的に出すことができるよう、いろいろな面を見ることができ参考になった。
- ・具体的な目標、目で分かる成果などで授業力向上に効果的であった。
- ・他の教員が、「つなぐ」を目標に様々な取組を行っている場面を見ることができ、自分自身の授業にもフィードバックできた。また研修を通して、教員が共通意識を持って、授業が組み立てやすかった。
- ・自分が授業者となって取り組んだときは、助言をいただいたり自分での振り返りを十分行ったりして、自分の授業改善に生かすことができた。ただ、ビデオを見直して自分で自分の授業を見直していくことができていない。時間を作って次年度までには行いたいと思う。
- ・他の先生方の授業を見せてもらうことで教材の作り方、提示の仕方など参考になる点が多かった。
- ・「つなぐ」の視点で協議することはできたが、個々の教員の授業力をあげ、生徒の学習意欲や姿勢を育てるという根本的な部分での研究を進めていくことも大切だと思う。助言や話し合いの結果を参考に生徒指導や授業改善を行っている。
- ・「つなぐ」は私の教科指導のテーマでもあり、班学習など他教科での生徒が関わり合う姿から新たな課題や手立てを発見することができた。授業者の創意工夫が新鮮ですぐに授業に取り入れてみよう思うものがあり大変役立ちました。また、授業後の校内研修も参加者の意見が出しやすい雰囲気があり多勢の意見を聞くことができて良かったです。
- ・自分自身を振り返ることができると同時にたくさんの方の意見や指導方法を知ることができて良かったです。
- ・他教科であっても生徒に興味を持たせる手法は自分の教科にも取り入れることができる。また、生徒が動くように仕組んでいる内容を見せてもらうことで次時の授業へのヒントになった。
- ・他の先生方の授業を参観し、協議をすることで自分の指導力や評価する目を養うことにつながったと思う。また、研究授業に際しての教材研究や学習指導案づくりは確実に自分の力を向上させたと思う。
- ・日頃見ることのできない同僚の授業・生徒たちの様子を定期的に見て協議し合うという取組は非常に参考になった。教科間の特色を実際に体験することで、また違った目線を持つことができた。例えば、技能教科からは、生徒の活動を促す効果的な指示方法、国語からはじっくりと考えさせる効果的なワークシートの活用などである。
- ・初任者研修と兼ねてこの校内研修をできたことは自分にとって大きな財産である。
- ・視点を明確にすることで授業を多角的に見ることができた。





## 第2回アンケート結果(記述)集計結果 ※生徒 平成21年2月4日(水)実施

### II 須崎中学校の授業は、何を大切にしようとしていたと思いますか。

1年

勉強 団結力 授業で内容が分かるまで繰り返してやること みんなが授業に集中すること 協力

生徒に授業を聞かせる みんなの意見 みんなが教室にいて授業を受けること

集中してみんなが学習に取り組む。みんなが学習が分かるようになる。

授業をちゃんとの受ける。先生の言っていることを聞く。提出物を出すこと 仲良くすること

高校に進学するときにほとんどの学校を受けられるように分かりやすい授業を大切にしていると思う。

将来のこと 楽しい授業 みんなの意見 みんなが分かるようなことを大切にしている。

分かりやすさ、おもしろさ 暴言をつかわない 元気、笑顔 楽しさ

静かにちゃんとやらせようとしている。伝統、笑顔、元気 笑顔、みんなの意見を取り入れる。

分かりやすい授業 1人1人が授業をちゃんと聞くこと、楽しく分かりやすく教えること、みんなの意見。

みんなの意見(言葉)、みんなの笑顔 みんなが楽しく意欲的に授業に取り組めるような授業

授業の進行 「皆にわかってもらおう」ということ 生徒一人一人の声

少しでも生徒の成績を上げるためにがんばっている、何かあっても相談にのってくれる。

みんなが楽しく授業をやりたい。みんなに分かりやすく チームワーク

ひとつひとつの授業をちゃんと聞いて内容を大切に作る。

みんなが協力しあってその授業を分からしていくことを大切にしていたと思います。

少しの人数がわかることではなく、クラス全員の人が分かるような説明をすること。

みんなががんばって協力してできるような、授業を大切にしていると思う。

2年

みんながもっと授業に参加したらいいと思う。 学力向上 ノート

わからないけど私は楽しく授業をしてくれたらやろうという気持ちが出てきます。先生が活気がないといやです。

高校に合格して、就職できるように。 皆に分かりやすい授業をすること

みんなの協力や、将来のためと思う。 みんなが分かりやすい授業を受けるため

集中できるような環境をつくっていききたい。 授業を静かにやること 正しい行動ができることだと思う。

みんなの質問に対して一所懸命に答えようと大切にしていたと思う。

みんなが授業に出られるように楽しく明るい授業にしようとして努力していた。

英・数は基本から教えようとして、この2教科を1番大切にしていると思う。

それぞれの授業によって違うので分からない。 勉強を理解する。

人との関わり たましい

友だちの発言を大切にしている。 友だちと仲良くする、助け合う、けんかをしない。

友だちと仲良くする、助け合う、けんかをしない。

みんなが仲良く楽しい授業 おとなしく授業を受ける。

みんなが分かるようにしていると思う。けど周りがうるさいため自分たちの授業が遅れて静かにならない(一部だけの人が)。

よくわからないけど先生によっては参加していない生徒を参加させようとしていたと思う。

1人1人がしっかりと授業が受けれるために。

授業に参加していない生徒を参加させようとしている先生も何人かいる。

3年

時間 静かに勉強する。 1人1人の進路 発言

授業に集中して分からないところは友だちどうして話しあったり先生に聞く。

みんなが授業に取り組むところ 分かりやすいか。 ベル着 疑問の答えを考える。

班や生徒どうしの協力 生徒が内容を理解してくれるような授業をすること。

クラス全員の意見と理解

授業中はみんなに質問をし、それに対する意見を大切にしてくれる。

コミュニケーション 将来のこと スキンシップ

先生が目立とうとしているだけ

人の意見を聞くようにしている。 意見

1人1人が授業の内容を理解すること

1人1人が理解ができる授業

楽しくやろうとするところ。

人の意見を聞くようにしている。

やる気

学習する力、学習能力

班の共同作業を大切にしている。

## ウ 考察

教員の調査結果は、第1回アンケート結果と比較すると、46項目中44項目で数値が上昇している（残りの2項目は同じ）。

図1で示したように、色を付けたところは、0.5ポイント以上の上昇である。その項目を見ると、この1年間で指導姿勢の高まり、授業づくりに対する基本姿勢の高まり、授業改善への意識の高まりを窺うことができる。

また、「指導と評価の計画」の作成・改善の項目、42「評価計画が適切であったかを振り返っている。」、43「振り返りを基に、問題点を明確にして次の計画に生かしている。」では、それぞれ0.7、0.6ポイント上がっており、「授業改善」を意識した取組が進んでいることが窺われる。校内研修において、授業評価表を活用した授業改善のあり方が一定浸透したと考えられる。

一方、生徒の調査結果には数値の変化がほとんど見られなかった。しかし、昨年度の第1回から第2回の評価の落ち込みを考えると、昨年度の数値から大きくポイントが上がった第1回の数値を保てたことは、教員の取組の成果であると考えられる。

図2の色を付けたところは、第1回、第2回とも3.0ポイント以上のところである。これらから生徒は教師の積極的な姿勢、取組を肯定的に捉えていると考えられる。

(図1)

「授業力向上のための校内研修に関する調査・研究に係るアンケート」  
教員

	番号	項目	平均(第1回)	平均(第2回)
使命感、熱意、感性	1	授業改善を目指し、取り組んでいる。	3.1	3.3
	2	学習のねらいを生徒に達成させようとしている。	2.8	3.3
	3	教材研究を行って授業に生かしている。	2.6	3.2
	4	ものごとに対する幅広い関心をもっている。	2.7	3.2
	5	心と体の調子を整えて授業を行っている。	2.2	2.7
	6	明るく前向きに生徒に接している。	2.8	3.0
	7	学習にふさわしい環境づくりを心がけている。	3.1	3.2
生徒理解	8	生徒一人一人の学習意欲を把握している。	2.9	3.2
	9	生徒一人一人の本時の学習の達成状況を把握しようとしている。	2.8	3.1
	10	生徒一人一人のこれまでの学習状況を把握している。	2.6	3.1
統率力	11	生徒一人一人の発達段階、発達関係、家庭状況等を把握している。	2.8	3.0
	12	生徒一人一人に気を配り、言葉かけをしている。	2.9	3.0
	13	生徒の発言や行動を受け止めている。	3.1	3.3
	14	生徒の反応や表情に気付き、授業に生かしている。	2.9	3.1
指導技術	15	学習意欲を高めることを意識して声かけをしている。	3.0	3.3
	16	基本的な授業規律を定着させている。	2.3	2.9
	17	的確な指示を出して集団を動かしている。	2.7	2.8
	18	学習のねらいを明確に示し、学習に見通しをもたせている。	2.6	3.1
	19	学習状況に応じて適時・的確な判断を行っている。	2.8	3.2
教材解釈、教材開発	20	生徒に学習の準備についての的確に指示している。	3.1	3.5
	21	学習のねらいを生徒に明確に示している。	2.7	3.3
	22	個に応じた指導を行っている。	2.7	2.9
	23	生徒の主体的な学習を促す工夫を行っている。	2.6	2.9
	24	教材・教具を効果的に活用している。	2.9	3.0
	25	発問の工夫をしている。	2.6	2.9
	26	生徒の反応を生かしながら授業を構成している。	3.0	3.1
	27	分かりやすい説明をしている。	2.9	2.9
	28	効果的な板書をしている。	2.8	3.0
	29	授業のまとめを工夫している。	2.4	2.7
校内研修	30	教科等の専門的知識を深めている。	2.7	3.3
	31	日頃から教材に関連する幅広い情報を収集している。	2.7	3.1
	32	学習のねらいを明確に把握して教材解釈や教材開発をしている。	2.9	3.1
	33	生徒の実態を考慮して教材解釈や教材開発をしている。	2.7	3.1
	34	学校・地域の特色を考慮して教材解釈や教材開発をしている。	2.0	2.3
	35	生活との関連を意識して教材解釈や教材開発をしている。	2.6	2.7
	36	生徒に興味・関心をもたせるための教材解釈や教材開発をしている。	2.3	2.6
授業改善への意識の高まり	37	時数、活動内容、学習形態等の指導計画を立てている。	2.5	2.5
	38	評価する場面や方法を明確にした計画を立てている。	2.6	2.7
	39	計画を立てる際に生徒の実態を考慮している。	2.9	2.9
	40	計画に基づき、生徒の評価を行っている。	2.8	3.3
	41	指導計画が適切であったかを振り返っている。	2.1	2.3
	42	評価計画が適切であったかを振り返っている。	2.0	2.7
	43	振り返りを基に、問題点を明確にして次の計画に生かしている。	2.1	2.7
校内研修	44	校内研修は、全員が積極的に参加している。	3.4	3.7
	45	それぞれの校内研修は、焦点化されたつながりのあるものとなっている。	3.4	3.6
	46	校内研修を進めるうえで、教育センターの支援・助言は参考になる。	3.2	3.5

指導姿勢の高まり

授業づくりに対する基本姿勢の高まり  
(校内研修の効果)

授業改善への意識の高まり

(図 2)

「わかる楽しい授業に向けてのアンケート」  
生徒

平均(第2回)	平均(第1回)	番号	項 目
3.0	3.0	1	先生は、楽しくわかりやすい授業にしようと工夫している。
3.2	3.2	2	先生は、いっしょうけんめい教えてくれる。
3.1	3.2	3	先生は、明るく元気である。
2.8	2.8	4	先生は、教室の美化に気をつけている。
2.8	2.9	5	先生は、言葉づかいに気をつけている。
2.7	2.7	6	先生は、あなたの学習意欲(やる気)を知っている。
2.6	2.6	7	先生は、あなたに毎時間の授業でどれだけの力がついたらかを知ろうとしている。
2.7	2.7	8	先生は、あなたにはげましの言葉をかけてくれる。
2.8	2.9	9	先生は、あなたの発言や行動を受け止めてくれる。
2.7	2.8	10	先生は、みんなの学習意欲(やる気)が高まるような声かけをしてくれる。
2.8	3.0	11	先生は、基本的な学習ルール(ベル着・忘れ物・集中力・私語・発表)を定着させるよう努力している。
2.8	2.8	12	先生は、わかりやすい指示を出してクラス全員を見ている。
2.9	2.9	13	先生は、学習の準備についてわかりやすく指示してくれる。
2.6	2.8	14	先生は、授業の目標(めあて)を示してくれる。
2.9	2.9	15	先生は、あなたのわからないところにアドバイスしてくれる。
2.2	2.3	16	先生の質問は、わかりにくい。
2.9	3.0	17	先生は、みんなの発言や反応を大切にしながら授業を進めている。
3.0	3.1	18	先生は、わかりやすい説明をしている。
3.0	3.0	19	先生は、見やすくわかりやすい板書をしている。
2.4	2.6	20	先生は、授業の終わりには学習した内容を確認している。

教師の姿勢を肯定的に捉えていると思われる

さらに細かく分析したときに、成果という点に焦点をあててみると、3年生で「先生は、楽しくわかりやすい授業にしようと工夫している。」「先生は、あなたにはげましの言葉をかけてくれる。」という項目で3以上の肯定評価の生徒が増えた。また、2年生では「先生は、明るく元気である。」といった質問について、1年生では「私は、意欲的に授業に参加している。」も同様の結果が得られた。(図3参照)

しかしながら、生徒理解の項目については、4項目中3項目で0.5ポイントの差が見られる。(60ページ、61ページ参照) 教員は、「生徒一人一人に気を配り、言葉かけをしている。」と「生徒一人一人のこれまでの学習状況を把握している。」の項目に高い数値を示しているが、その教師の姿勢を生徒は十分に捉えていない。

また、指導技術の項目、21「学習のねらいを生徒に明確に示している。」について、教員側は比較的高い数値を示しているが、生徒側からの評価は低く0.7ポイントもの差が見られる。教員は、生徒への接し方や指導・支援の在り方、ねらいを明確にした授業づくりについて再考する必要があるのではないかと考える。

教員への、「授業研究を通じた校内研修は、あなたの授業力向上にとって効果的でしたか。」という質問に対し、「視点を明確にすることで授業を多角的に見ることができた。」「授業改善へのモチベーションが上がった。」「回を重ねるごとに授業後の検討会の様子も変わり、内容的にも進化した。」「課題を持った生徒に視点を当てた見方をすることにより、意欲的に取り組ませる方法について参考になった。」「助言の話し合いの結果を参考に生徒指導や授業改善を行っている。」等の記述が見られ、校内研修の充実化が図られ日々の授業実践にも生かされていることが窺えた。また、このことは校内研修の項目、44「校内研修

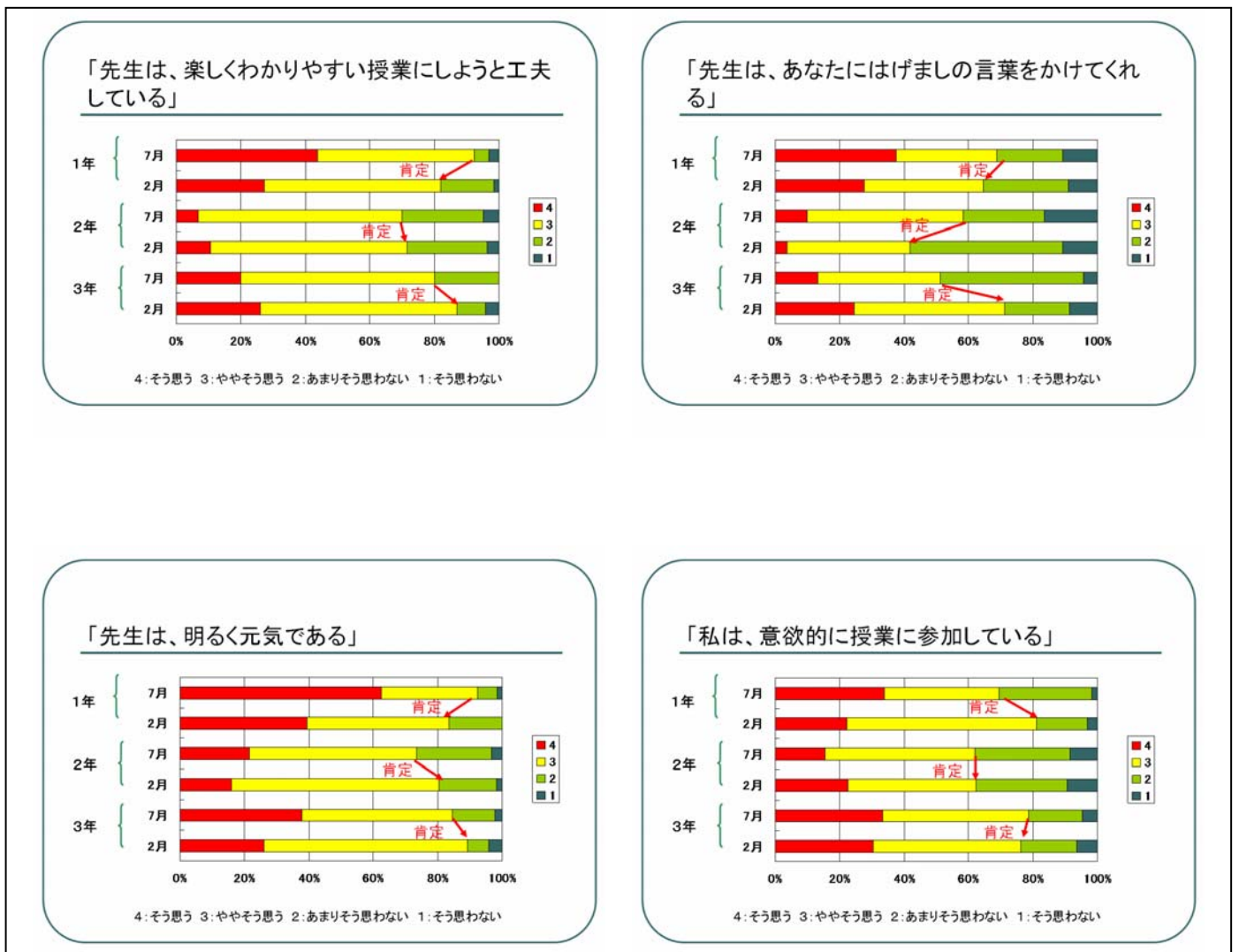
は、全員が積極的に参加している。」、45「それぞれの校内研修は、焦点化されたつながりのあるものとなっている。」、46「校内研修を進めるうえで、教育センターの支援・助言は参考になる。」がいずれも高い数値であることから推察できる。

生徒への、「須崎中学校の授業は、何を大切にしようとしていますか。」という質問に対し、「みんなの質問に対し一所懸命に答えようとする」、「生徒一人一人の声を大切にしている」、「班での共同作業を大切にしている」、「友だちの発言を大切にし、みんなが楽しく意欲的に取り組めるような授業にすること」等多数の回答が得られた。これは、教員が一丸となって進めてきた「つなぐの視点」での取組が生徒に伝わっていると捉えることができる。

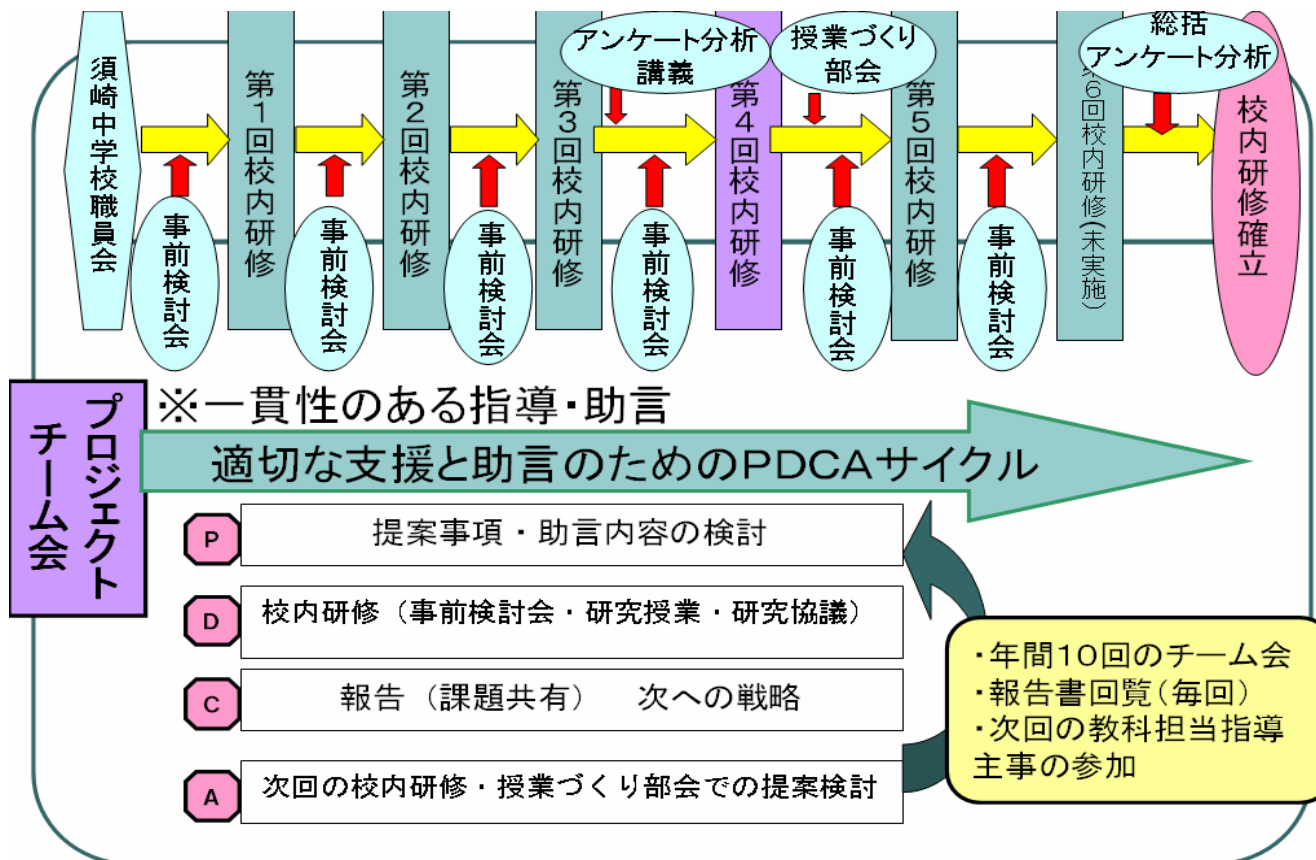
この2年間、教育センターは、研究主題に向けて、学校と協働して取り組んできた。充実した校内研修の内容を日々の教育活動に取り入れていくことは、教師の授業力の向上につながってくる。そのことは、最終的に生徒の学力向上や落ち着いた学校生活の営みにつながる。これらのことから、確かな学力を身に付けた子どもを育む授業づくりを支えるのは、校内研修の充実であると言える。

アンケートの結果をふまえ、来年度の校内研修に取り組んでいってほしい。

(図3)



### ⑨プロジェクトチーム会の取組



最後に、教育センターの関わりについて触れたいと思う。

2月に実施した教員へのアンケートの、「校内研修を進めるうえで、教育センターの支援・助言は参考になる」という質問に対し、評価が3.5ポイントであった。須崎中学校や須崎市教育研究所からは「各研究授業における支援・助言は適切なものであった。」「事前検討会は、授業に臨む先生が、授業を楽しみにするような雰囲気ができる会になっていた。」「学校の目標に沿った具体的な指導・助言であった。」等の感想を得た。

教育センターとしては、一貫性のある指導・助言のために、この調査・研究のためのプロジェクトチームを立ち上げた。プロジェクトチーム会では、P提案事項の確認、D校内研修、C報告・次への戦略、そしてA次回の校内研修・授業作り部会での提案検討といったように適切な支援と助言のためのPDCAサイクルを意識した取組を行ってきた。

プロジェクトチームで検討できたからこそ学校現場のニーズを多角的に分析し、具体的な方向性を提案することができたのではないかと思う。そして、その結果が高評価を得ることにつながったのではないかと捉えている。

プロジェクトチームとして、まだまだ改善点は考えられるものの、教科・領域の専門がそろっている教育センターの強みを発揮できた取組ではなかったかと考えている。

この1年間のチーム会の取組を次に載せている。



平成20年度高知県教育センター 校内研修プロジェクトチーム会

	日	内容など
1	4月7日	事業概要について 平成19年度の取組について（成果と課題） 平成20年度の計画（ゴールイメージの構築 授業研究の仕方 まとめ方の検討）
2	4月14日	進捗状況確認（地教委訪問報告） 平成20年度の計画（ゴールイメージの構築 授業研究の仕方 まとめ方の検討 「つなぐ」の具体化）
3	5月19日	進捗状況確認（須崎中学校職員会報告） 第1、2回校内研修に向けて（「つなぐ」を意識した授業づくり） 第1回アンケートについて（質問項目、記述項目検討）
4	6月19日	進捗状況確認（第1、2回校内研修報告） 第1回アンケートについて（質問項目、記述項目検討） 第3回校内研修に向けて
5	7月2日	第1、2回研究授業ビデオ視聴
6	8月20日	進捗状況確認（第3回校内研修報告） 第1回実施アンケートの分析 夏の校内研修について
7	9月25日	進捗状況確認（夏の校内研修報告） 第4回校内研修（教育センター主導）打ち合わせ 今後の関わりについて（校内研修、授業づくり部会）
8	10月29日	進捗状況確認（第4回校内研修報告、授業づくり部会報告） 第2回アンケートについて（記述項目の検討） 第5回校内研修に向けて 研究のまとめについて
9	12月25日	進捗状況確認（第5回校内研修報告） 第6回校内研修に向けて 研究のまとめについて
10	2月19日	第2回実施アンケートの分析 須崎中学校総括職員会の打ち合わせ

（留意・確認事項）

校内研修プロジェクトチーム会のメンバー構成：小学校籍2、中学校籍4、高校籍1  
研究授業の教科・領域により、プロジェクトチームメンバー以外の担当を派遣する。その際、教育センターとして一貫性のある支援・助言となるよう、事前に進捗状況を伝えておく。または、事前の校内研修に参加し、生徒の実態や学校の雰囲気等を把握しておく。情報の共有化を図るため、校内研修の様子、研究協議の内容等は報告書にまとめ回覧する。

## 5 総括

### (1) 須崎市教育委員会

#### 須崎市教育委員会

#### ○ 教育委員会の教育方針と本調査・研究との関連

須崎市教育委員会では、『子どもたち一人一人の学力の定着を目指し、わかる楽しい授業の創造に努め、指導方法の工夫・改善を行うこと』を本年度教育行政方針に明記している。本調査・研究の推進で、中学校においても、全教職員が参加して、教科による授業研究を基本とする校内研修が可能であることを実証し、中学校の校内研修に一石を投じることができるのではないかと考えた。

教育センターで培ってこられた研究実績を基に、教育センターの先生方から直接指導助言をいただき、授業力向上を図ることができる本調査・研究の推進は、行政方針の具現に向けた実効あるものとなった。

特に、中学校の授業研究で教科毎に指導主事を招聘することは、物理的に考えても困難なことであるが、本調査・研究では須崎中学校の希望を最優先して指導主事を派遣していただき、毎回充実した授業力向上の校内研修が実施できたことは非常にありがたかった。

更に共同研究として位置づけていただいたことで、研究推進に当たっての手続きが簡便になり、この点でも助けられることが多かった。

#### ○ 校内研修（研究授業及び研究協議）を実施しての考察—成果と課題—

一般的に中学校では、校内研修の柱に全教職員による授業研究が取り上げられることは少ない。中学校では、教科の専門性重視の立場から、教材観・指導観・学習展開等の細部に踏み込むことへの躊躇があるからではないか。研究推進に当たって、小学校では全教職員が指導案検討、当日の授業参観、授業後の協議までの一連の流れに参加する取組が日常的に行われているが、中学校では特異なこととして捉えられている微妙な意識の食い違いに気づかされた。

本調査・研究の初年度は、須崎中学校の生徒理解や学校の実態、教育課題を共有することで、徐々に研究への道筋をつけていくことを中心にした推進体制となった。初年度の成果に立った本年度は、授業研究に際して、当日だけでなく事前の指導案の検討会にも、教育センターから担当を含む複数の指導主事が来校くださり、入念な意見交換をしながら案を練り上げることができた。これにより、授業研究に際して学校が準備に早くから着手し、指導案の作成や資料の準備など、迅速な対応が定着してきた。授業者も、教育センター担当指導主事の指導・助言・批正を踏まえて課題を共有する中で、指導案の再考を行うなど、労を惜しむことなく、より望ましいものを求める動きができてきた。また、個人の対応ではなく、学年団としての結束力が見える取組みも多くなった。

当日の授業でも、参観の教職員が自然な形でティームティーチングを行い、生徒もそれを素直に受け入れるなど、教師集団のまとまりや教師の動きの変容が見え出した頃、同時進行で生徒の学習態度にも変化が見られるようになった。生徒の学習態度が落ち着き、授業に集中することもでき始めた。このことは、本年（平成20年7月）教育センターが実施した「わかる楽しい授業に向けてのアンケート」の、生徒による教師評価のポイントの上昇でも明らかにされたところである。

授業技術の巧拙はともかくとして、真摯に研修することで、教師が変わる。教師が変われば授業が変わり、授業が変われば子どもが変わる、そして学校が変わる。このことは、須崎中学校の2年間の歩みの中で確かめられた嬉しい連鎖であり、成果として特筆したい。

本調査・研究で明らかにされた成果を基に、的確な生徒理解と学校の課題を直結した校内研修を今後も実践することで、学校の研究主題である、「確かな学力を身につけた子どもを育む授業づくり」の具現に迫ることを共通課題としたい。また、須崎中学校の校内研修の成果を市内の他中学校にも発信して、広く須崎市全体の教育力の向上に役立てることも課題である。

## ○ 高知県教育センターの須崎中学校への関わりについて

高知県教育センターが、須崎中学校を研究協力校として授業の工夫・改善に焦点をあて、教職員の指導力向上をめざす校内研修の在り方を探ることを趣旨とする本調査・研究が最終年度となり、共同研究が終了することになった。多忙な高知県教育センター（以下、センターという）が、日程等学校の要望を最優先しながら、センターを挙げて支援体制を組んでいただいたことに、本調査・研究への熱い思いを感じる2年間であった。

初年度は、本調査・研究の趣旨や研究内容、更には研究協力校とは？共同研究とは？の本質的なところで学校教職員の共通理解の微妙な温度差を感じながらの研究開始であった。そのため、本来の研究推進以外のところで、センターの先生方にご配慮いただく結果となった。学校とセンターの連絡調整を図るべき連携機関として、その役割が十分果たせなかったことを反省している。

また、一般的に中学校では学校規模が大きくなるほど、生徒指導や部活動など授業以外での課題解決に時間を割かねばならないことが多く、全教職員参加の研修時間を生み出すことは困難な状況がある。もちろん、須崎中学校も例外ではない。センターはこのような状況を踏まえて、研究の軸を学校に置き、実効ある研修ができるよう工夫しながら研究の道筋と研修環境の整備を図ってくださった。

最終年度となった本年度、センターは人事異動直後の学年末休業中から、教育委員会、学校との連絡調整や情報交換を行い、新学期開始直後には、本調査・研究の趣旨や研究経過説明を、学校に対して入念に行っていた。このことで、全教職員が共同研究開始の原点を踏まえ、心をつなげて同じ方向を目指す研究体制がつけられた。

また、昨年度実施した生徒・教職員のアンケートや聞き取りなどから、学校や生徒の実態、教育課題、学校の目指すものを大切に研究実施計画を練って研究が始まった。そして、本年度特に大切にしたい取組の一つは、指導案検討会である。より多様な視点に立った生徒理解や教科の専門性に拘らずに、教材観・指導観・学習展開等を自由に出し合い、センターの担当指導主事的確かな指導助言を受けて、指導案をより生徒・学校の実態に即した確かなものに練り上げていくことができた。授業者だけでなく、学年団や同一教科の主任など、事前研修参加の教職員も研修を深めることができたことも大きい。その他、授業評価表の効果的活用、教科経営計画の見直しや全員参加型の研究協議など、校内研修活性化のための具体的方法を学校教職員との共通理解の中で提示いただいた。このことは、須崎中学校だけでなく、連携機関として参画させていただいた教育委員会、教育研究所にとっても、今後につながる研究の具体化のうえで貴重な示唆となりありがたかった。

これらは、須崎中学校の教育課題を共有して、教職員の研究意欲の高まりに合わせて気長にご指導・ご教示くださったセンター先生方のご尽力によるものと、心から感謝申し上げたい。

## ○ 今後に向けての具体的な取組事項

長年に亘って取り組んできた、土佐の教育改革の「開かれた学校づくり」は、学校を外部に向かって開くだけでなく、当然、学校内部にも開かれていなくてはならない。しかし、中学校の校内研修、特に授業研究の推進において、教科の壁が隘路となってきたことから、学校内部の閉塞感が払拭されているとは言えないのではないかと。学校運営を語るとき、「教職員が一丸となって・・・」「心をつなげて」と、常套句のように言われる。だが、そのための実効ある具体的な方策について語られることは、あまりない。

本調査・研究で、学校の生命線である授業の工夫改善に向けて、教職員が相互に忌憚なく意見を交換し、協議を深めることができる校内研修の実践ができたことは、学校が内部に開かれたことの証でもある。研究内容は、「授業の工夫改善に焦点をあて、校内研修の内容を検討し、その実践をもとに効果的な校内研修の在り方を探る」ことであったが、全教職員が同じ目的に向かって実践を積み上げることで、所期の目標達成に加え、学校としての組織力の向上が図れたことは大きな成果である。

研究指定期間は終了するが、須崎中学校には、期間終了が研究の終了ではないとの認識にたつて、この研究で培われた教育センターとの共同研究体制を基に、更に研究を推進して、須崎市中学校区研究指定「地域ぐるみ教育発表会」等の場において、広く須崎市の教育向上のための一翼を担っていただくことをお願いしたい。そのための連絡調整は、今後も続けたいと考えている。



(2) 須崎市立須崎中学校

須崎市立須崎中学校

○ **学校の教育目標（研究主題）と本調査・研究との関連**

本校研究主題『確かな学力を身につけた子どもを育む授業づくり』は、高知県教育センター「授業力向上のための校内研修に関する調査・研究」の研究内容である（1）授業の工夫・改善に焦点をあて、校内研修の内容を検討する。（2）校内研修の実践をもとに、効果的な校内研修の在り方をさぐる。と合致するもので、センターに適切な助言や支援をいただき、全校研やグループ研、教科研で全員が公開授業を行い、授業力向上の工夫をした取り組みができた。

○ **校内研修（研究授業及び研究協議）を実施しての考察—成果と課題—**

研究主題にせまるために、「つなぐ」を意識した授業づくりを進めた。そのために、①生徒と教師が「つながる」、子どもたちを意欲づける言葉がけ、言葉遣い、対応の在り方についての研究、②生徒どうしを「つなぐ」、子どもどうしの関わりを仕組むための小集団やグループでの学習の研究、③生徒と教材をつなぐ、子どもたちを意欲的に授業に向かわせる教材の開発や授業展開についての研究。の3つの柱立てを行った。

本年度当初は、この3点をステップアップ方式で考えていたが、それぞれ絡み合っていることが大切との意見が出され、並列で進めていくことに早い段階で修正をした。本年度の特徴は、このことも含めての柔軟性であるかもしれない。年度当初の異動で多数の教職員が替わったため教師と教師がつながることも求められるスタートであったが、様々な課題もある中で、教職員が明るく前向きに取り組んでくれた結果、生徒たちに変化が出てきていると考える。

授業形態として、生徒が学習しやすい班の形でも論議があったが、学年による生徒の状況の違いや、教科の特性等を話し合う中で学年での統一の考えは示されたが、一つの形にとらわれずに研究を進めてみることにした。実施しての声としては、3年生の「コの字」形では、質問が出たときに机間指導がしやすく、1学級26名ということもあり、一人ひとりに手だてがしやすいとの声があった。少人数での班学習では最小2名から6名という単位での論議も出たが、「島」班の学習では発表用のホワイトボードを導入して班での発表を活性化する方法にも取り組んだ教科もあり、生徒同士の良い関わりを作り出す方法として効果的であった。

本校では学力課題が大きく、解決の方法として様々あると考えるが、魅力ある授業づくりが一つの突破口と考えている。「つなぐ」をテーマとして、今後継続した取り組みを進め、生徒の学力向上に繋がる「須中スタイル」を作り上げたい。

○ **教職員・生徒の意識等の変容**

教職員は常に前向きであったと考える。4月当初には様々な要因から職員室や保健室等で過ごし、教室に入れずにいる生徒が多く、混乱をした時期もあったが、授業づくりはもとより一つ一つの課題に丁寧に取り組む解決を図っていったことで、生徒に変化が出てきたと思える。生徒が授業を投げないように、つながりの距離感に長短をつけながらも教室が居場所であると関わり続け、日常的には受容の姿勢で教職員が対応したことで、時間はかかったが結果的に変化が現れて来ている。

○ **高知県教育センターの須崎中学校への関わりについて**

教育センターには大変お世話になった。研究主任と連絡を密にいただき、本校取り組みの進捗状況に応じた提案もあり、全校研がたいへん意義深いものになった。テーマである「つなぐ」をアンケート等で分析し、具体的な方策についての話は、ありがたかった。毎日生徒とは接しているが、そのため身近すぎて見えなくなってしまうこともあるように思える。そうしたときに、学校外から冷静な観察、分析のうえで提案があることは、現状分析・確認とともに新たな取り組みへの始点ともなることから、協力校を受けたメリットを感じるところであった。

○ 上記を踏まえて、次年度に向けての具体的な取組事項

「学習力の向上」について検討してみたい。「学力向上」と書かずに「学習力」と書いたのは、「学ぶ力」と書けばいいのか、学校を分析するとき数的な分析が多くなっているように思われ心配をしている。わかりやすいが教育を考える上では十分注意をしないといけないことでもあるとも考える。本校で生徒の状況を見たとき、様々なテストや検証での「学力」以前に、学習しようとする「心」や「姿勢」を生徒たちが身につけていないのではないかと、学ぶ楽しさをどこかに置き忘れてしまっているのではないかとも思ってしまう。

理想であるかもしれないが、教える者が教える楽しさを感じられ、教わる生徒が学ぶことが楽しく、もっと知りたいと思えることが根幹にないと、教育にズレが生まれてくれるのではないかと思える。

生徒に学ぶことを身につけさせるためには、もちろん、教える側に教えるための能力や技術が必要になってくる。自信を持って教えられないことは、生徒に十分には伝わらないとも考える。

また、学ぼうとする姿勢は、家庭でも気かけなければいけないし、すぐに身に付くものではないので、保幼小中連携さらには中高連携での教育が必要となるといった考え方が教育の流れの中になければいけないと思う。

次年度、教員の授業力向上の取り組みをさらに進めたい。それとともに、生徒の学びを保障するためには、本校生徒の経験値をあげることが課題であるため、2月末の総括職員会では、次年度に向け教職員で知恵を出し合い、さらに一歩を進める努力をしたい。

須崎市立須崎中学校（研究主任）

2年前、本事業の説明を学校長から聞いたとき、正直言って、期待感よりも不安感の方が大きかった。それは様々な課題を背負っている子どもたちに向き合い、生徒指導や教科指導等、日々の校務に多忙感を感じ、悪戦苦闘している毎日の中で、皆の先生方がじっくり落ち着いて授業研究するだけの心のゆとりを持ち得ているだろうか。また、教職歴20年以上のベテラン教員が大半の教職員集団であり、多くの先生方が自分の指導スタイルを確立している中で、どのような方向性を持って行けばいいかということであった。

1年目の成果として先ず挙げられるのは、全校研、グループ研を通じて全員の教員が授業を公開したことである。本校ではそれまで校内の授業研はだいたい学期に1回、年間3回程度しか行われておらず、あまり活発とはいえなかった。回数が多ければ良いという問題でもないが、いずれの授業研においても高知県教育センターから講師として来校いただき、当初予定していなかったグループ研後の研究協議も場を設定し、助言いただいたことは進歩であると思う。特に自分自身、第1回目の全校研で3年生の数学をやらせていただいた。授業後の研究協議では、ディベートの手法を用いて、いろいろな角度から授業を分析していただき大変ありがたかった。折しもこの年、中学校数学授業改善プロジェクト事業の受講者となり、年間を通じて受講していく中で大変貴重な資料を得ることができた。ただ、問題点としては、本校と教育センター、教育研究所の3者間で本事業に対する認識に若干のずれがあったことで、うまく連絡調整ができず、いずれもがしんどい思いをしたような感がある。

2年目は1年目の総括をふまえ改善を目指した。そのうちのいくつかを挙げると、先ず1番目に、全教員参加の全校研を年間3回から年間6回に増やし、各学年2回ずつ担当することとした。そして内容も、各教科（技能教科を含む）、特別活動、人権学習等バランスよく計画した。さらにこの6回の全校研すべてにおいて事前の検討会（事前研）を実施し、その都度教育センター、教育研究所の双方から参加していただき、授業内容や生徒の活動のさせ方など多岐にわたり貴重なアドバイスをいただいた。実際に授業をされた方の中には、事前の検討会がありがたかったという総括もあった。また、グループ研を教科研と名前を変えて、全校研で実施しない教科を中心に行った。その中で、前年度の反省から、教科研でも指導案（略案）を作成し事前に配付した。

改善点の2番目は授業後の研究協議の持ち方である。前年度は研究主任の進行のもと、授業者の自評に始まり、質疑・応答、講師の助言といった一般的な流れであったが、発言者も一部に限られ、協議の深まりとしては今ひとつ乏しかった。今年度はこの協議のあり方にも手を加えていきたいという思いが自分の中にもあった。

そこで、授業参観する教員を事前にグループ分けしておき、グループで協議する時間をとり、協議の内容を模造紙にまとめ発表するスタイルをとった。また、教育センターにもアドバイスをいただき、第3回目の全校研から、「つなぐ」の3つの視点、すなわち、「教材と生徒をつなぐ」「生徒と生徒をつなぐ」「教員と生徒をつなぐ」に加え「しんどい生徒の活動のようす」の4つの観点を各グループの協議のテーマとし、授業参観する側の視点の共有化を図った。まだまだ課題もあるが、参加した教員が楽しく協議を重ねることができ、また、意見も発表しやすく、多くの人の意見も聞けるので授業研が負担にならず、意欲が深まったという声が多かった。

本事業は今年度で終了するが、本校の授業力向上に向けての研修は終了するものではない。今年度は「つなぐ」の視点を持って授業研究をしたことで、全教職員の意識付けが深まったと思う。また、教科を超えて大切にすべきところ、例えば、小集団の動かし方や生徒の様子を見ての臨機応変な対応などは、今後の課題として考えられる。

我々は日々、様々な課題を背負い学ぶ意欲を見いだせない生徒たちに向かい合い、生きる意欲と基礎学力の定着、学力の向上により、進路を保障していこうと悪戦苦闘している。そのためにも、わかる授業づくりや楽しい授業づくりに向かった授業改善は、永遠のテーマである。

最後になったが、2年間ご指導ご協力いただいた高知県教育センター、須崎市教育委員会、ならびに須崎市教育研究所に御礼申し上げる次第である。

### (3) 高知県教育センター

#### 高知県教育センター

##### ○本県の教育方針と本調査・研究との関連

平成18年度をもって区切りをつけた土佐の教育改革においても「子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上」「教職員の資質・指導力の向上」は中心的な課題であった。特に、中学校の学力問題は種々の調査等から本県教育の大きな課題であることは以前から認識されていた。

そこで高知県教育センター（以下「教育センター」という。）では、中学校の学力問題を教職員の指導力向上という側面から紐解き、課題解決の糸口を校内研修の充実化から迫ろうと考えた。そして、平成19年度から2年間の計画で「授業力向上のための校内研修に関する調査・研究」を実施し、その成果を広く県内に発信することで、その役割を果たそうと考えた。

折しも、平成19年度から実施された全国学力・学習状況調査の結果では、本県の中学校の学力問題の深刻さが露呈された。それを受け、平成20年7月には「学ぶ力を育み 心に寄りそう 緊急プラン」が策定され、緊急に取り組むべき具体的な内容がまとめられた。そこに示された「学校・学級改革」または「教員指導力改革」と本調査・研究は密接に関わるものであり、さらには改革推進のために大きな一石を投じる役割を担っていると認識している。

##### ○校内研修（研究授業及び研究協議）を実施しての考察 ―成果と課題―

1年目の成果と課題を踏まえながら、2年目の取組を実施するにあたり教育センターが意識したことは、「本事業が終了した後も、研究協力校（須崎中学校）における校内研修が、さらなる充実化を目指して自校の力で継続できるようにする」ということであった。そのためには、須崎中学校の教職員が授業力向上に繋がる校内研修の在り方について理解するとともに、貴重な時間と労力を割いて行う校内研修の効果を実感できるようにしなければならない。そのような教職員の意識の高まりが見られるかどうか、本調査・研究の成果と課題を振り返る際の判断材料としたいと考えた。

成果としては、「個々の授業力向上に繋がる校内研修の在り方を形作ることができ、授業力向上に向けた教職員の意識の変革と高まりに結び付いた」ということに集約される。これは、平成21年2月に行った教員向けアンケートの「6回の授業研究を通じた校内研修は、あなたの授業力向上にとって効果的でしたか。」という設問に対して、全教員から肯定的な回答があったこと。そして、第5回目の校内研修における授業後の「今日はみんなが集中して授業を受けた。とっても疲れた。」という生徒の感想や、研究協議での担任の「どの生徒も精一杯取り組んでいた。今日の生徒の姿が本当の姿だと思う。私は今まで、あの子どもたちの可能性をつみ取っていたのかもしれない。」といった発言に裏付けられる。では、なぜこのような結果に繋がったのか。その要素を紐解いてみる。

まずは、「PDCAサイクルを意識した校内研修に成り得ていた」からであると考えられる。1回の校内研修が、事前検討会（P）、授業研究（D）、研究協議（C）から構成されており、それぞれに教育センター及び教育研究所が参加し、外部からの助言を行うことができたことで、焦点化された校内研修の実現に結びついたのではないかとと思われる。そして、次回の校内研修で取り組む方向性（A）を全教員が確認できるよう、研究主任及び授業づくり部会が研究協議の記録と集約した課題を文書にまとめ配付し続けたことで、それぞれの校内研修に繋がりが生まれ、発展的な校内研修とすることができたと思われる。

次に、「教科の枠を越えたテーマを設定したことで、子どもの姿を通して授業の在り方を学び合うことができた」からであると考えられる。とかく中学校においては「教科の壁」があり、互いの授業についての協議は深まりにくいと言われる。須崎中学校においては『「つなぐ」を意識した授業づくり』という教科の枠を越えたテーマを設定したことで、子どもの姿からその具体像に迫ろうとすることができたと思われる。また、学習指導案に、「つなぐ」ための視点を明記していったことで、授業者は常に研究テーマを意識した意図的な授業を提起することができ、同時に参観者は観るポイントが焦点化され、授業評価を行いやすくなった。また研究協議では、教科の枠を越えたテーマ設定であったため、適宜に小グループが編成しやすくなり、活発な意見交流ができていた。回を重ねるごとに、研究協議の持ち方も工夫が成され、生き生きと協議を進める教職員の姿から、その場が須崎中学校の目指す授業の在り方と指導技術を具体的に学び合える絶好の場と成り得ていたと感じた。

そして、「校内研修を推進していく組織づくりとサポート体制ができていた」からであると考えられる。校内研修を意味あるものとしていくためには、企画・運営、そして年間を通した見直しが必要となってくる。その際に研究主任の役割は大変大きいものとなる。まずは、研究主任が本事業の趣旨と学校長のビジョンを理解する必要がある。そのうえで、具体的な計画を立て校内研修を展開していかなければならない。須崎中学校では、2年間同一教諭が研究主任を務めたことで、本事業の趣旨を十分理解できていたこと、その間に研究主任としてのスキルアップが図られていたこと、そして何よりも教職員集団をまとめあげる人間性に富んでいたことが功を奏した要因として考えられる。あわせて、研究主任個人の力量のみで校内研修を企画・運営するのではなく、組織として運営できていくよう研究部の機能化が図られたことも意識の高まりに繋がったと思われる。また、校内研修を進めていく根底には、直面する学校の課題に全教職員が一丸となって取り組んでいこうとする気運の高まりがあったように思われる。そこには日頃からの学校長や両教頭のリーダーシップが存在したことは明らかである。事前検討会から必ず管理職が同席していたことから、授業を中心とした校内研修を学校経営の中核と位置づけていたことがうかがえた。さらには、日程のやり繰りをして最優先に授業参観する須崎市教育長の姿勢と、事前検討会から全員で参加したり、研究協議では各グループの一員として積極的に意見を述べたりするなどの須崎市教育研究所の主体的な姿勢が、学校全体の気運を盛り上げ、充実した校内研修の実現を導いたと思われる。

課題としては、「年間の校内研修の取組を振り返った場合の評価（C）が、自校でどれだけ具体的にできるか」である。確かに、成果の大きい取組であった。しかし、その振り返りが丁寧にできていなければ、諸条件が変わった場合に元に戻ったり、マンネリ化してしまったりすることが考えられる。そこで、成果と課題は何で、その要因は何かを具体的に検討することが必要となる。例えば、校内研修は個々の教員の授業力向上に効果的であったとしているが、具体的に、何がどのように変わったのかを確認できているかである。このような細かな確認作業が成されなければ、確かな授業力向上には結び付かない。次の取組（A）を意味あるものとするためには、個々と学校全体のそれぞれの評価（C）が大切となる。

#### ○須崎中学校との連携及び支援・助言の在り方

1年目の取組を振り返ると、様々な成果は見られたものの、学校と教育センター及び教育研究所、それぞれの連携がうまく繋がっていなかったように思われた。そこで、2年目の取組を進めるにあたり、「密な連携」と「共通理解」をキーワードに位置付けることを所内のプロジェクトチームで確認した。

そのスタートとして、4月当初から学校・地教委・教育センターが協議し、平成20年度の進め方を確認することとした。そして、4月の職員会議において、教育センターから直接全教職員に対して、本事業の趣旨、各役割の再確認を行い、本年度の取組について提案することができた。振り返ってみるとこの機会を設けたことで、目指すべき校内研修の姿について一定の共通理解ができ、以後の取組がスムーズに進んだと思われる。

教員向けアンケートの「校内研修を進めるうえでの教育センターの支援・助言は参考になる。」という設問に対して、全教員から肯定的な回答があっている。このことは、事前検討会から各教科・領域の担当である指導主事が参加し、計画段階から支援・助言を行うことができたこと、研究テーマである「つなぐ」を意識した授業づくりという視点を通じた支援・助言となっていたことなどが理由として考えられる。しかしながら、教科・領域に関わって適切な支援・助言を行うことは指導主事として当たり前のことではある。大切なのは、その姿勢にあったのではないかと振り返る。学校及び授業者自身に考えてもらうことを基本とし支援・助言に徹したこと、学校が直面する課題や実態を踏まえた支援・助言となることを意識したことで教員に届きやすくなったのかもしれない。この点を抜きにしては、どのようにすばらしい支援・助言も空虚なものになってしまう可能性があるということに改めて気付かされた。

校内研修に参加した各指導主事は、自分の支援・助言に決して満足していない。研究の全体像を理解したうえでの指導・助言となっていたのか、設定時間内で適切な指摘や示唆を分かりやすく行うことができたかなど、振り返るポイントは数知れない。今回、共同研究という形で、このような機会や場を設けたことは、指導主事等の力量向上にとって有意義であった。

**○今後に向けての具体的な取組事項**

まずは、本事業の取組とそこから見えてきた成果と課題を取りまとめ、授業力向上のための校内研修の在り方について、広く県内に発信することである。そして、留まることなく、中学校を中心とする授業力向上のための校内研修の在り方やその他効果的な施策について、工夫・改善をしながら調査・研究を進め、高知県教育の推進のための先導的役割を担っていきたいと考えている。

## ☆ 資料（平成 20 年度）

- (1) 学習指導案・授業振り返りシートの様式例
- (2) 「つなぐ」を意識した授業づくりの具体化に向けて
- (3) アンケート様式（教員用・生徒用）
- (4) 生徒用学年別アンケート結果
- (5) 8月講義・演習資料

(1) 学習指導案・授業振り返りシートの様式例

〈例〉 学習指導案 「科目名」

須崎中学校 ○○ ○○ 印

- 1 日 時 平成20年 月 日 ( ) 第○限
- 2 場 所
- 3 対 象 第 学年 生徒数 名
- 4 使用教科書
- 5 単元名・教材名
- 6 単元(教材)について
  - (1) 単元(教材) 観
    - 単元・教材のもつ意義、他の教材との関連性、教科内での系統性など
  - (2) 生徒観(生徒の実態)
    - 生徒の実態、既習内容、生徒の興味・関心の状況、学習集団としての状況
  - (3) 指導観(指導の基本方針や留意事項)
    - 指導の力点・指導の形態、仮説など
- 7 単元の目標
- 8 単元の評価規準
- 9 単元の指導計画(○時間)
  - 各時間の内容の概略と評価規準 ※本時にチェック
- 10 本時の展開
  - (1) 目標(ねらい)
  - (2) 評価規準
  - (3) 「つなぐ」ための手立て
    - ①
    - ②
    - ③
  - (4) 展開

時 間	学習活動	指導上の留意点	評価 (評価方法)	「つなぐ」 の視点
導 入 ( 分)				
展 開 ( 分)			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     関心・意欲・態度                 </div> <hr/> <hr/> (ワークシート)	視点①
				視点②
まとめ ( 分)				



# 授業振り返りシート (案)

平成 年 月 日 時間目

年 組 名前

(評価のめやす)

とても思う・・・4    まあまあ思う・・・3    あまり思わない・・・2    全く思わない・・・1

自己  
態度

- ① あなたは、今日の授業に意欲的に取り組みましたか。 4 3 2 1
- ② あなたは、友だちの意見や先生の話をしっかり聞きましたか。 4 3 2 1

生徒と  
教材

- ③ 今日の授業は、あなたにとって良い授業でしたか。  
また、それはどうしてですか。わけを書いてください。

- ④ 今日の授業の内容は分かりましたか。 4 3 2 1

生徒同  
士

- ⑤ 今日の授業を進める中で、友だちの意見や考えは参考になりましたか。 4 3 2 1

生徒と  
教師

- ⑥ 先生の質問や説明は分かりやすかったですか。 4 3 2 1
- ⑦ 先生は、あなたの勉強のペースにあわせて授業を進めていましたか。 4 3 2 1
- ⑧ 先生は、授業中あなたのことを見てくれていると感じましたか。 4 3 2 1

その他



授業や先生に対する  
要望を書いてくれる  
とありがたいな。



(2) 「つなぐ」を意識した授業づくりの具体化に向けて

「つなぐ」を意識した授業づくりの具体化に向けて

項目	めざす生徒の状態 (つながつた状態)	つなぐための手立て
生徒と教材をつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教材や課題に対して前向きな反応（質問等）がある</li> <li>②本時に取り組むべきことを理解している</li> <li>③教材や課題に対して、自ら調べよう、考えようとしている</li> <li>④疑問点を明らかにし、積極的に質問が出る</li> <li>⑤教材を通して、生徒同士の活発な意見交換がある</li> <li>⑥本時の学習内容を理解している。</li> <li>⑦まとめの感想等に、教材から学んだことを記述している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の実態（学力、生活、興味関心、社会情勢等）に則した教材を与える</li> <li>①興味関心を喚起するような提示の仕方を工夫する</li> <li>②本時の目標を伝える（めざすゴールが分かるようにする）</li> <li>③能動的な活動や思考を促す発問をする</li> <li>④一人の返事（「わかった」など）を全体の返事と捉えず、全体に確認する</li> <li>⑤生徒同士の発言や意見をつなぐ（まず、発言をよく聞き、真意を掴むこと）</li> <li>⑥評価規準を明確にし、理解の状況が把握できる手立てを考慮しておく</li> <li>⑦授業の振り返りシート等を作成するとともに、記述のポイントを明らかにする</li> </ul>
生徒どうしをつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> <li>①クラスの友だちを意識した発表の仕方をしている（声の大きさ、体の向き等）</li> <li>②友だちの発表（意見）を聞いている（発言者を見ている、頷く、発言に対する質問等）</li> <li>③友だちの意見を参考にした発言をしている</li> <li>④小集団での話し合いでは、全ての生徒が発言している。</li> <li>⑤作業が遅い友だちを待とうとしている</li> <li>⑥分からないことを友だちに聞こうとしている</li> <li>⑦つまずいたり、困ったりしている友だちを助けようとしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒個々の性格や状況に応じて、教師の立ち位置を工夫する</li> <li>②聞いている姿を肯定的に評価する</li> <li>③1つの意見について、切り返したり、全体に問い返したり、指名したりしながら広げようとする</li> <li>④何について話し合うかを明確にする。（話し合う価値のある課題）</li> <li>④小集団で話し合う前に、個人で考える時間を確保し、机間指導を行う</li> <li>④話し合いの手順を示す</li> <li>④つながれていない生徒の小集団に留意しながら、話し合いを支援していく</li> <li>⑤時間的な限度もあるが、待とうとしていることを評価する</li> <li>⑤作業が早い人に対する手立て（次の課題等）を用意しておく。</li> <li>⑥隣同士や小集団で確認したりできる時間を設定することも考えられる</li> <li>⑦その行為だけでなく、寄り添った言い方や態度を評価するようにする</li> </ul> <p>※授業の振り返りシート等に、友だちを意識できる項目を設定する</p>
生徒と教師がつながる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教師の話を聞いている（注視、うなずき、手遊び無しなど）</li> <li>②教師にほめられたり、しかられたりしたことを素直に聞き入れている</li> <li>③分からないことを質問したり、気付いたこと（板書の字が間違っている等）を言おうとしている</li> <li>④教師が声をかけたとき、視線がすぐに教師に向けられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ポイントを絞った話をするようにする（ボディランゲージや話術を絡めて）</li> <li>①指示や説明を明確にする（指示を徹底するときは、注視させてから行う）</li> <li>①忘れ物をしている生徒の確認とその後の対応を適切に行う</li> <li>②ほめた理由やしかった理由を明確にした評価を行う</li> <li>③意見や質問等に真摯に対応する</li> <li>③丁寧な机間指導を行い、心理状態、学習状況に応じた支援を行う</li> <li>④全員の視線と気持ちが、教師にむけられた状態で話をする（向いていないときは話さない）</li> <li>④子どもがざわついている時、その声に負けまいとして大声を出さない</li> </ul> <p>※教室環境に留意する（見やすい板書、室内のゴミ処理等）</p>

# 教員用

## (3) アンケート様式 (教員用・生徒用)

### 授業力向上のための校内研修に関する調査・研究に係るアンケート調査用紙

高知県教育センター

番号[                    ]

このアンケートは、先生方の授業力向上や授業改善のために自らの授業を振り返っていただくことを目的に実施するものです。日常の授業や生徒との関係を振り返って率直にお答えください。

- 1 授業におけるあなたの学習指導の取組について、次の1～46の質問項目にお答えください。  
 なお、それぞれの項目には、具体項目をあげていますので、判断の参考にしてください。

番号	項 目	当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
1	授業改善を目指し、取り組んでいる。 ・常に授業改善を目指している。 ・校内研修や校外の研修の成果を生かしている。 ・教育関連の書籍・資料などを参考にして、授業を充実させている。	4	3	2	1
2	学習のねらいを生徒に達成させようとしている。 ・担当している教科の学習指導要領の内容を把握している。 ・学習内容を踏まえたねらいや育てたい生徒像を明確にもっている。 ・生徒に本時のねらいがわかるようにしている。 ・分かるまで粘り強く指導している。	4	3	2	1
3	教材研究を行って授業に臨んでいる。 ・分かりやすい授業のための準備を十分行っている。 ・ねらいの達成につながる学習活動を工夫している。 ・学習を支援するさまざまな資料や教材を活用している。	4	3	2	1
4	ものごとに対する幅広い関心をもっている。 ・幅広い分野の知識や技能を指導に生かしている。 ・生徒の身近な生活の中から教材や課題づくりをしている。	4	3	2	1
5	心と体の調子を整えて授業を行っている。 ・ゆとりをもって生徒に接している。 ・体調を整えて授業に臨んでいる。	4	3	2	1
6	明るく前向きに生徒に接している。 ・生徒に、笑顔で快活にあいさつしたり話しかけたりしている。 ・生徒の意見や提案を受け入れる姿勢がある。	4	3	2	1
7	学習にふさわしい環境づくりを心がけている。 ・学習活動に適した身なりや適切な言語環境づくりに心がけている。 ・ごみの処理や机の配置を工夫するなど学習活動に適した環境づくりをしている。 ・安全に配慮した環境づくりをしている。	4	3	2	1
8	生徒一人一人の学習意欲を把握している。 ・学習内容に対する生徒の興味・関心についての実態が把握できている。 ・生徒の興味・関心を高める教材や学習方法を工夫している。 ・生徒の態度をよく観察している。	4	3	2	1
9	生徒一人一人の本時の学習の達成状況を把握しようとしている。 ・生徒の発言から、授業中の学習状況を把握している。 ・机間指導を行い、授業中の学習状況を把握している。	4	3	2	1

10	生徒一人一人のこれまでの学習状況を把握している。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人のノートやワークシートの記述内容の確認をしている。</li> <li>・ポートフォリオなど、これまでの学習状況が分かる記録のさせ方を工夫している。</li> </ul>				
11	生徒一人一人の発達段階、友達関係、家庭状況等を把握している。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と積極的にコミュニケーションをとっている。</li> <li>・教育相談の手法を学んで、生徒理解に活用している。</li> <li>・専門的な知識をもち、配慮を要する生徒を理解し、指導しようとしている。</li> </ul>				
12	生徒一人一人に気を配り、言葉かけをしている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に正対して話している。</li> <li>・生徒全体に偏りなく気を配ったり個別に声かけをしたりしている。</li> <li>・生徒の学習状況に応じ、助言や指導を行っている。</li> <li>・提出物にはコメントを書き入れ、返却している。</li> </ul>				
13	生徒の発言や行動を受け止めている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うなづいたり、相づちをうったりしながら話を聞いている。</li> <li>・生徒の顔を見ながら、発言を最後まで熱心に聞いている。</li> <li>・間違った発言や行動であっても、一方的に否定しないようにしている。</li> </ul>				
14	生徒の反応や変容に気付き、授業に生かしている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての生徒が見える位置に立ち、反応や変容をとらえようとしている。</li> <li>・生徒の意見や考えを授業に生かそうとしている。</li> <li>・予想される反応を考え、反応に応じた手だてをあらかじめ用意している。</li> </ul>				
15	学習意欲を高めることを意識して声かけをしている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の意見や活動、作品のよい点を取り上げ、具体的に褒めている。</li> <li>・生徒の努力した点や学習過程での取組状況を把握し、励まし認めている。</li> </ul>				
16	基本的な授業規律を定着させている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の着席状況を確認してから授業を始めている。</li> <li>・開始・終了時刻を守って授業を行っている。</li> <li>・学習の準備を整えさせてから授業を始めている。</li> <li>・発言の仕方や話の聞き方など、望ましい学習態度を明確に示して指導している。</li> </ul>				
17	的確な指示を出して集団を動かしている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の聞く姿勢を整え、静かになってから指示を出している。</li> <li>・はっきりした声で具体的な指示を出している。</li> <li>・場面に応じて適切に指示している。</li> <li>・指示が徹底したことを確認して次の行動に移らせている。</li> </ul>				
18	学習のねらいを明確に示し、学習に見通しをもたせている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の思考過程に即して学習活動を工夫している。</li> <li>・学習のねらいを黒板等に分かりやすく提示している。</li> </ul>				
19	学習状況に応じて適時・的確な判断を行っている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じて、冷静に判断を行っている。</li> <li>・生徒が理解・納得できるような判断を行っている。</li> <li>・毅然とした態度で判断を行っている。</li> <li>・生徒の学習状況に応じて柔軟な対応を行っている。</li> </ul>				

20	生徒に学習の準備についての確に指示している。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の始めに、学習の準備について確認をしている。</li> <li>・忘れ物をした生徒に適切に対応している。</li> </ul>				
21	学習のねらいを生徒に明確に示している。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず授業の始めに本時のねらいを生徒に示している。</li> </ul>				
22	個に応じた指導を行っている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導を意図的に行い、生徒の学習状況を把握し、適切な言葉かけや指導をしている。</li> <li>・生徒のつまずきを把握し、つまずきに応じた指導をしている。</li> <li>・生徒の伸びを把握し、発展的な内容の指導をしている。</li> </ul>				
23	生徒の主体的な学習を促す工夫を行っている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習等を取り入れて、生徒同士が学び合う場を設定している。</li> <li>・体験的活動や作業活動を意図的に取り入れている。</li> <li>・少人数指導等、一人一人の生徒とのかかわりを増やす指導の工夫をしている。</li> <li>・生徒の実態や興味・関心を踏まえた発問や課題を工夫している。</li> </ul>				
24	教材・教具を効果的に活用している。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見に即した教材・教具を活用している。</li> <li>・生徒に興味・関心をもたせる教材・教具を工夫している。</li> <li>・発達段階に応じた教具を工夫している。</li> <li>・課題解決や理解の深化を図るために、ワークシートなどの教材を準備している。</li> </ul>				
25	発問の工夫をしている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいの達成につながる発問をしている。</li> <li>・多様な考えを引き出す発問をしている。</li> <li>・生徒の思考を深める発問をしている。</li> <li>・分かりやすい言葉で発問している。</li> </ul>				
26	生徒の反応を生かしながら授業を構成している。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発言内容を必要に応じて板書し、活用している。</li> <li>・誤答や不適切な答えには、再度質問したり、ヒントを与えたりしている。</li> <li>・ノートやワークシートからも生徒のよい意見を見だし、授業に生かしている。</li> <li>・生徒の予想外の反応にも臨機応変に対応している。</li> </ul>				
27	分かりやすい説明をしている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・端的でポイントをおさえた説明をしている。</li> <li>・意図的に表情や語調を変えて話している。</li> <li>・発達段階に応じた分かりやすい語句を使い、適切な声の大きさや速さで話している。</li> </ul>				
28	効果的な板書をしている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書計画を立て、授業の流れや内容を分かりやすく板書している。</li> <li>・漢字の筆順や文字の大きさに気をつけて、丁寧な文字で板書している。</li> <li>・色チョークを活用するなど、大切な事項等が分かるように板書をしている。</li> </ul>				
29	授業のまとめを工夫している。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で分かったことを発表させたり、ノート等に書かせたりして学習の振り返りをさせている。</li> <li>・次時の学習内容を確認し、見通しがもてるようにしている。</li> </ul>				

30	教科等の専門的知識を深めている。 ・教科に関する専門書や研修で得た知識を生かし、教材を工夫している。 ・担当している教科の学習指導要領の内容に基づいて教材開発をしている。	4	3	2	1
31	日頃から教材に関連する幅広い情報を収集している。 ・実践例や教材例の収集に積極的に取り組み、教材に生かしている。 ・教材に関連する情報を収集して、効果的に活用している。 ・指導書や資料等を参考にして、ねらいを達成するために必要な情報を収集し、授業に生かしている。	4	3	2	1
32	学習のねらいを明確に把握して教材解釈や教材開発をしている。 ・学習のねらいに応じて、補助教材や視聴覚教材を準備している。 ・学習のねらいに応じてワークシート等の教材や教具を準備している。	4	3	2	1
33	生徒の実態を考慮して教材解釈や教材開発をしている。 ・生徒の実態を踏まえた教材づくりをしている。 ・生徒に興味・関心をもたせる教材を選択・開発している。 ・発展的な内容や補充的な内容の教材を準備している。 ・学習指導要領に基づいて、自作教材づくりにも取り組んでいる。	4	3	2	1
34	学校・地域の特色を考慮して教材解釈や教材開発をしている。 ・学校の特色ある教育活動に結びつく教材を開発している。 ・地域の人材を活用している。 ・地域の自然環境や社会環境を生かした教材づくりをしている。	4	3	2	1
35	生活との関連を意識して教材解釈や教材開発をしている。 ・社会の出来事を生かして教材開発をしている。 ・生徒の生活経験や日常の生活実態を踏まえて教材開発をしている。 ・生徒が自分の生活との関連に気付くことができる教材を開発をしている。 ・生活に生かそうとする意欲をもたせる教材の開発をしている。	4	3	2	1
36	生徒に興味・関心をもたせるための教材解釈や教材開発をしている。 ・疑問・驚き・感動・葛藤を生み出す教材を選択・開発している。 ・生徒が直接体験できるような教材を開発している。	4	3	2	1
37	時数、活動内容、学習形態等の指導計画を立てている。 ・学習のねらいを達成するための時間数を確保している。 ・活動内容に合った学習形態を計画している。 ・学習のねらい、学習形態、教材・教具等を指導計画に明記している。	4	3	2	1
38	評価する場面や方法を明確にした計画を立てている。 ・ねらいの達成状況を把握するのにふさわしい評価の方法を選択している。 ・複数の評価方法で多面的に生徒を評価するように計画している。 ・指導と評価の一体化を意識した学習活動を計画している。	4	3	2	1
39	計画を立てる際に生徒の実態を考慮している。 ・生徒の安全面への配慮を指導計画の作成に生かしている。 ・生徒の実態を踏まえた指導・助言の手だてが示されている。	4	3	2	1

40	計画に基づき、生徒の評価を行っている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言や提出物などから把握して学習状況を適切に評価している。</li> <li>・評価の観点を明確にして生徒を評価している。</li> <li>・生徒が次の目標をもてるように、具体的な言葉で評価している。</li> </ul>				
41	指導計画が適切であったかを振り返っている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導後に授業を振り返り、指導計画の課題を明らかにしている。</li> <li>・授業評価システムを積極的に活用している。</li> <li>・ビデオ録画等の方法で授業記録をとり、指導計画の見直しに生かしている。</li> </ul>				
42	評価計画が適切であったかを振り返っている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価を行う場面や方法が適切であったかを振り返っている。</li> <li>・評価規準の設定が適切であったか、振り返っている。</li> </ul>				
43	振り返りを基に、問題点を明確にして次の計画に生かしている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の生徒の反応や理解の状況を参考にして指導計画を見直している。</li> <li>・週ごとの指導計画に授業の課題や改善策を書いている。</li> </ul>				
44	校内研修は、全員が積極的に参加している。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究協議の視点に対して全員が積極的に発言しようとしている。</li> </ul>				
45	それぞれの校内研修は、焦点化されたつながりのあるものとなっている。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つながり」をイメージした校内研修の協議になっている。</li> <li>・成果と課題が明確になっている。</li> </ul>				
46	校内研修を進めるうえで、教育センターの支援・助言は参考になる。	4	3	2	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案に対してポイントをしぼった助言になっている。</li> <li>・生徒の実態やこれまでの学校の取組に沿った助言になっている。</li> </ul>				

第1回アンケートの記述項目(教員用)

- 1 ① 「須崎中学校の生徒に求められる授業」とは、どのような授業と考えますか。できるだけ具体的に書いてください。

( )

- ② ①のように考える理由を、箇条書きで三つ書いてください。

(  
.  
.  
.)

- ③ ①のような授業を実現するために、あなたが今年度実践しようとする取組を、箇条書きで三つ書いてください。

(  
.  
.  
.)

第2回アンケートの記述項目(教員用)

2 次の①～②について、あなたの考えをお聞かせください。

- ① 「須崎中学校の生徒に求められる授業」を実現するために、あなたが今年度実践しようとした取組(第1回アンケートで三つ挙げてもらったもの)について

自己評価(4:よくできている 3:できている 2:やや不十分である 1:不十分である)

取組目標	取組姿勢	成果
それぞれの取組目標を、教育センターで記入しておきます。	4・3・2・1	4・3・2・1
	4・3・2・1	4・3・2・1
	4・3・2・1	4・3・2・1

- ② 6回の授業研究を通した校内研修は、あなたの授業力向上にとって効果的でしたか。(4・3・2・1)

(4:当てはまる 3:だいたい当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない)

その理由を書いてください。



平成 年 月 日( )



## わかる楽しい授業に向けて

[ ]年生 [ ]組 [ 男子 女子 ]

このアンケートは、みんなの授業がこれまで以上にわかる楽しい授業となるために実施するものです。須崎中学校全員の先生を思い浮かべて、すなおな気持ちで答えてください。

I 次の1～27の質問項目のそれぞれについて、あてはまると思う数字を一つ選んで○をつけてください。(裏にもあります。)

番号	項 目	そう思う	だいたい そう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
1	先生は、楽しくわかりやすい授業にしようと工夫している。	4	3	2	1
2	先生は、いっしょうけんめい教えてくれる。	4	3	2	1
3	先生は、明るく元気である。	4	3	2	1
4	先生は、教室の美化に気をつけている。	4	3	2	1
5	先生は、言葉づかいに気をつけている。	4	3	2	1
6	先生は、あなたの学習意欲(やる気)を知っている。	4	3	2	1
7	先生は、あなたに毎時間の授業でどれだけの力がついたかをを知らそうとしている。	4	3	2	1
8	先生は、あなたにはげましの言葉をかけてくれる。	4	3	2	1
9	先生は、あなたの発言や行動を受け止めてくれる。	4	3	2	1
10	先生は、みんなの学習意欲(やる気)が高まるような声かけをしてくれる。	4	3	2	1
11	先生は、基本的な学習ルール(ベル着・忘れ物・集中力・私語・発表)を定着させるよう努力している。	4	3	2	1
12	先生は、わかりやすい指示を出してクラス全員を見ている。	4	3	2	1
13	先生は、学習の準備についてわかりやすく指示してくれる。	4	3	2	1
14	先生は、授業の目標(めあて)を示してくれる。	4	3	2	1
15	先生は、あなたのわからないところにアドバイスをしてくれる。	4	3	2	1
16	先生の質問は、わかりにくい。	4	3	2	1
17	先生は、みんなの発言や反応を大切にしながら授業を進めている。	4	3	2	1
18	先生は、わかりやすい説明をしている。	4	3	2	1
19	先生は、見やすくわかりやすい板書をしている。	4	3	2	1
20	先生は、授業の終わりには学習した内容を確認している。	4	3	2	1
21	先生は、授業に対するあなたの意見を聞いてくれる。	4	3	2	1
22	私は、授業開始のチャイムが守れていない。	4	3	2	1
23	私は、先生や友だちの話を集中して聞いている。	4	3	2	1
24	私は、予習・復習など家庭学習をしている。	4	3	2	1
25	私は、意欲的に授業に参加している。	4	3	2	1
26	私は、わからないことがあれば、先生に聞くようにしている。	4	3	2	1
27	私は、班で話し合ったり、活動したりすることが好きである。	4	3	2	1

第1回アンケートの記述項目(生徒用)

Ⅱ あなたが先生だとしたら、どのような授業をしますか。次の1～7の中から3つ選び、番号を○でかこんでください。

1～7以外にあれば、その他のところに、できるだけ詳しく書いてください。

- 1 いつも笑顔で、楽しい雰囲気での授業
- 2 けじめのある(いけないことをしていると注意をする)授業
- 3 1人1人に発表の機会を与えてくれる授業
- 4 教科に関係のある面白い話をする授業
- 5 班活動などを取り入れた、友だちと協力できる授業
- 6 学習する楽しさの味わえる授業
- 7 クラスのみんなで、団結力の高まる授業

8 その他

( )

第2回アンケートの記述項目(生徒用)

Ⅱ 須崎中学校の授業は、何を大切にしようとしていたと思いますか。

( )

## (4) 生徒用学年別アンケート結果

わかる楽しい授業に向けての集計結果(4件法)

番号	項 目	平成20年7月14日(月)実施				平成21年2月4日(水)実施			
		1年平均	2年平均	3年平均	全体	1年平均	2年平均	3年平均	全体
1	先生は、楽しくわかりやすい授業にしようと工夫している。	3.3	2.7	3.0	3.0	3.1	2.8	3.1	3.0
2	先生は、いっしょうけんめい教えてくれる。	3.4	3.1	3.1	3.2	3.3	3.0	3.2	3.2
3	先生は、明るく元気である。	3.5	2.9	3.2	3.2	3.2	2.9	3.1	3.1
4	先生は、教室の美化に気をつけている。	3.0	2.6	2.8	2.8	3.0	2.5	2.8	2.8
5	先生は、言葉づかいに気をつけている。	3.2	2.6	2.8	2.9	2.9	2.6	2.7	2.8
6	先生は、あなたの学習意欲(やる気)を知っている。	2.9	2.4	2.8	2.7	2.8	2.4	2.8	2.7
7	先生は、あなたに毎時間の授業でどれだけの力がついたかを知らうとしている。	2.9	2.4	2.5	2.6	2.7	2.3	2.6	2.6
8	先生は、あなたにはげましの言葉をかけてくれる。	3.0	2.5	2.6	2.7	2.8	2.3	2.9	2.7
9	先生は、あなたの発言や行動を受け止めてくれる。	3.2	2.6	2.8	2.9	2.9	2.5	2.9	2.8
10	先生は、みんなの学習意欲(やる気)が高まるような声かけをしてくれる。	3.1	2.5	2.7	2.8	2.8	2.4	2.7	2.7
11	先生は、基本的な学習ルール(ベル着・忘れ物・集中力・私語・発表)を定着させるよう努力している。	3.3	2.7	2.9	3.0	3.2	2.5	2.7	2.8
12	先生は、わかりやすい指示を出してクラス全員を見ている。	3.2	2.5	2.8	2.8	2.9	2.5	2.9	2.8
13	先生は、学習の準備についてわかりやすく指示してくれる。	3.3	2.7	2.8	2.9	3.1	2.7	2.8	2.9
14	先生は、授業の目標(めあて)を示してくれる。	3.2	2.6	2.7	2.8	2.7	2.5	2.7	2.6
15	先生は、あなたのわからないところにアドバイスをしてくれる。	3.2	2.6	2.8	2.9	3.0	2.8	3.0	2.9
16	先生の質問は、わかりにくい。	2.1	2.4	2.4	2.3	2.0	2.3	2.3	2.2
17	先生は、みんなの発言や反応を大切にしながら授業を進めている。	3.2	2.7	3.0	3.0	2.9	2.8	3.0	2.9
18	先生は、わかりやすい説明をしている。	3.3	2.8	3.0	3.1	3.1	2.8	3.1	3.0
19	先生は、見やすくわかりやすい板書をしている。	3.3	2.7	2.9	3.0	3.2	2.9	2.9	3.0
20	先生は、授業の終わりには学習した内容を確認している。	2.8	2.5	2.6	2.6	2.6	2.4	2.3	2.4
21	先生は、授業に対するあなたの意見を聞いてくれる。	3.0	2.5	2.8	2.8	2.8	2.6	2.7	2.7
22	私は、授業開始のチャイムが守れていない。	1.8	2.1	1.9	1.9	1.4	2.2	1.8	1.8
23	私は、先生や友だちの話を集中して聞いている。	2.9	2.6	2.8	2.8	2.9	2.6	2.8	2.8
24	私は、予習・復習など家庭学習をしている。	2.7	2.0	2.5	2.4	2.6	2.1	2.5	2.4
25	私は、意欲的に授業に参加している。	3.0	2.7	3.1	2.9	3.0	2.8	3.0	2.9
26	私は、わからないことがあれば、先生に聞くようにしている。	2.8	2.5	2.8	2.7	2.7	2.4	2.7	2.6
27	私は、班で話し合ったり、活動したりすることが好きである。	3.0	2.3	2.5	2.6	2.9	2.3	2.7	2.6

(5) 8月講義・演習資料

学校でつなぐ仲間づくり

高知県教育センター 三木 守

つながっている状態とは・・・。

- 個人が、自分と周囲の関係を意識して、自分と周囲にとっての最善を見つけ行動する。
- 生活、授業、教室で個人が生かされるチームプレイ。

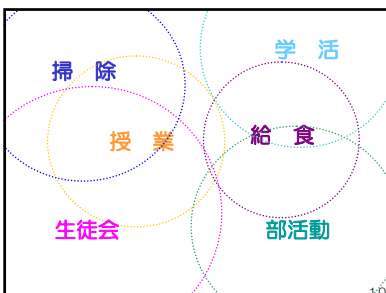
03

つながっている状態とは・・・。

- 個人が、自分と周囲の関係を意識して、自分と周囲にとっての最善を見つけ行動している・・・。

授業・掃除・給食・学活とは？

05



つながる条件とは・・・。

- 理解し合う。  
聞く、知る、伝える。
- 思いやる。  
想像する、確かめる。

12

1. 授業でつながる
2. 学級討議でつながる
3. 学校生活でつながる
4. 行事や生徒会活動でつながる
5. 課題に向き合ってつながる

- 一つだけで答えは出ない。
- 特効薬を探さない。
- 習慣とマナーを区別する。
- アイディアを練ることを楽しむ。
- エラーはチャンスになる。

20

1. 授業でつながる

- 班の活用
  - 班長の役割 (全員参加)
  - ・定期的な班長会でクラスの状況について意見交換 (自分たちのクラスを良くしていきたい気持ちを育てる。)
  - ・班の意見は全員の意見であるように促す
  - ・ときには班長だけに指示を出す

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

25

1. 授業でつながる

- 班の活用
  - 班員の役割 (隣の生徒を意識させる)
  - ・班長に協力することを促す
  - ・みんなが分かって「分かった。」になる

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

30

1. 授業でつながる

- 班の形態
  - ・班員の人数 (手の届く距離)
  - ・話し合いで隣の班が気にならない距離
  - ・発表者に身体を向けやすい形態
  - ・円 ・島 ・2人横2列 ・3人横列
  - ・3人横2列 ・コの字

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

35

1. 授業でつながる

○ 生徒と生徒をつなげる  
「友達を大事にしよう。」を言わずに・・・

- ・遠くから聞くと発表者の声は大きくなる
- ・友達の発表で自分の意見を確認する
- ・意見を繰り返さない
- ・まとめすぎない

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

40

1. 授業でつながる

○ 生徒と生徒をつなげる  
「友達を大事にしよう。」を言わずに・・・

- ・個人をつまづきを全体に返す
- ・みんなに聞こえるように個人に話す
- ・個人に伝えてみんなに広げる
- ・発表者の向き

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

45

1. 授業でつながる

○ 生徒と教師がつながる  
「先生の話を聞いて。」を言わずに・・・

- ・意思表示を求める(確認する)  
視線を確認して話す  
筆記用具を置いたら終わった合図
- ・背中で話さない  
顔いてくれたときに安心する  
顔いたときに目が合うと繋がりをを感じる

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

50

1. 授業でつながる

○ 生徒と教師がつながる  
「先生の話を聞いて。」を言わずに・・・

- ・一人の意見で全員を判断しない
- ・一緒に過ごす喜びを隠さない
- ・個に応じた声かけ  
個に関わる丁寧さを周りの生徒も見ている

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

55

1. 授業でつながる

○ 生徒と教材がつながる  
「ちゃんと前を見て。」を言わずに・・・

- ・演出(心地よい時間を提供)
- ・教材の工夫
- ・自分なりの判断をもたせる
- ・焦点化
- ・学習環境(物的環境、人的環境)

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

60

2. 学級討議でつながる

○ つなげるための多数決

『話し合ってみましょう』

テーマ

A 年度末職員旅行の行き先を決めます。  
B 教職員で歌う合唱コンクールの歌を決めます。

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

90

2. 学級討議でつながる

○ つなげるための多数決

相手の考えを知る時間。  
自分を伝える時間。  
選ぶだけでなく、譲ることにつながる。

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

95

3. 学校生活でつながる

○ 掃除でつながる

個人(ほうきの係)が、自分と周囲の関係を意識して、自分と周囲にとっての最善を見つけ行動している・・・  
その時、誰が机を運ぶ?  
その時、誰がチリトリをもってくる?

※ ルールが多いと個人の思考は不要になり、つながりはもてない。

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

100

3. 学校生活でつながる

○ 掃除でつながる

- ・やらない生徒を減らすためには、やれる生徒を増やす。
- ・考えていない生徒に気づかせるためには、考えている生徒を評価する。
- ・個人の意志を評価する。

※ やらない生徒に意識が取られて、やっている生徒の評価が抜かっている。

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

105

### 3. 学校生活でつながる

#### ○ 学活でつながる

- ・出欠の確認は仲間を意識する習慣にする。
- ・振り返りは仲間の頑張りを認め合うために行う。

※ 正しいことに照れる生徒はいても、正しいことを理解できていない生徒はいない。

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

110

### 4. 行事や生徒会活動でつながる (事例の紹介)

- 運動会でつながる
  - ・みんなが頑張る運動会
  - ・石ひろい
- 合唱コンクールでつながる
  - ・リーダーの涙のために何ができるか
- 生徒会の主体的な活動でつながる
  - ・トイレのタバコ

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

115

### 5. 課題に向き合ってつながる (事例の紹介)

#### ○ いじめの取組

- ・学級写真
- ・筆箱

(聞く、知る、伝える、想像する、確かめる)

120

### 『つなぐ』

#### ○理解し合う

聞く 知る 伝える

#### ○思いやる

想像する 確かめる

125

## ☆ おわりに

昨年3月には、新しい学習指導要領が告示され、この4月からは移行期間に入り、今、学校教育は大きく変わろうとしています。しかし、本県では平成18年度までの10年間の土佐の教育改革の取組の総括において、中学校問題解決のための集中的な対策として、授業の改善や組織として機能する学校づくりなどが提言されました。また、全国学力・学習状況調査においても、本県の中学生の学力は厳しい状況にあり、以前中学校の課題は解決されていません。

こうした中、平成19、20年度の2年間にわたって、「授業力向上のための校内研修に関する調査・研究」として、須崎市立須崎中学校をフィールドとして、授業改善を中核にした校内研修の在り方について、共同研究を進めてきました。中学校の場合、教科担任制であることが、中学校教員の授業力向上には、大きな壁になっています。

そこで、須崎中学校では、教科の枠を超えて生徒と教材、生徒と生徒、生徒と教師を「つなぐ」ということをキーワードにして、どの授業研究も事前検討会と授業公開・研究協議というサイクルで行い、教育センターから教科担当等の指導主事も参加して進めました。特に、今年1年の取組で効果があったのは、研究協議のまとめを文書化し、全教員で確認して取組を進めたり、次回の授業研究に生かすということを意識して継続して取り組んだことだと考えます。まさしく、校内研修がPDCAサイクルとして機能しました。そして、研究主任を中心にした授業づくり部会での協議や提案、事前検討会への管理職が必ず参加する姿勢など、授業改善に向けて何とかしようというやる気のある学校、全教員が一体となり組織として機能する学校に変貌してきたのではないのでしょうか。

今後においても、須崎中学校の教職員が一丸となって、授業改善を中核とした取組を進めていただき、そのことによって、学校がこのように変わった、めざす生徒像に近づくことができたというようなものにしてほしいと願っています。

また、この冊子を県内の他の中学校でも活用していただき、授業改善を中核とした校内研修によって、学校の課題解決のための取組が進められることを願っています。

終わりにになりましたが、本調査・研究に対して、須崎中学校の校長先生をはじめ教職員の皆様のほんとうに真摯な取組とそれを支えてくださった須崎市教育研究所の皆様には感謝申し上げます。